

平成30年8月16日

高等教育局長 殿

国立大学法人佐賀大学長
宮 崎 耕 治

佐賀大学大学院先進健康科学研究科設置報告書

このたび、佐賀大学大学院先進健康科学研究科を設置することについて、
別紙書類にて報告いたします。

設置計画の概要

事 項	記 入 欄
事前相談事項	事前伺い
計画の区分	研究科の設置
フリガナ	コリツダイグクホジシ ヲカダイク 国立大学法人 佐賀大学
フリガナ	サカダイクク ダイクイン 佐賀大学大学院 (Graduate School of Saga University)
新設学部等において養成する人材像	<p>【先進健康科学研究科】</p> <p>①養成する人材像 健康医療分野における新時代の産業需要に対応する技術革新と医療・看護を含む臨床現場での先端技術の総合的応用に貢献できる、創造性・実践力に秀でた研究者、技術者、医療人等の高度な人材を養成する。</p> <p>②習得させる能力 専門分野に関する高度な知識・技術に加え、科学的思考や洞察力に基づく問題解決能力、異分野の知識や考え方を取り入れることができる幅広い視点及び実践力、さらに倫理観、知的財産に関する知識を修得させる。</p> <p>【先進健康科学専攻】</p> <p>①養成する人材像 理工学、農学、医学、看護学の領域に跨がる健康医療分野において、幅広い専門的知識と研究能力を身につけ、研究・職業倫理、知的財産権、情報セキュリティなどの関連知識を持ち、さらに幅広い教養と異分野の知識・考え方を取り入れ複眼的視点から科学的思考ができる高度専門職業人を養成する。</p> <p>②習得させる能力 先進健康科学専攻の各コースや専門分野に関する高度な知識・技術に加え、科学的思考や洞察力、企業等や地域において活躍するための幅広い視点及び実践力、研究者や技術者として身につけておくべき倫理観、知的財産に関する知識を修得させる。</p> <p>(生体医工学コース)</p> <p>①養成する人材像 生体医工学分野の高度な専門知識と技術を有し、科学的思考力と洞察力をもって健康科学に関連する諸問題を解決する能力と、地域や社会に貢献できる実践力により、生体医工学に関連する新時代の技術革新を担える高度な人材を養成する。</p> <p>②習得させる能力 ・生体医工学を主とし、健康機能分子科学、医科学、総合看護科学などを副とする、理工学、医学、農学に跨る健康科学の学問領域において、先端の高度な専門知識 ・生体医工学及び関連する健康科学分野における諸問題の解決に自律的に取り組む能力 ・専門分野の枠を超えて、幅広い教養と広範な視野をもち、地域や社会に貢献するための実践力</p> <p>③修了後の進路 ・生体医工学に関連した製造・サービス業 ・医療機関、医療従事者</p> <p>(健康機能分子科学コース)</p> <p>①養成する人材像 理学・医学・農学に跨がる融合領域の高度な専門技術と知識、ならびに地域や社会に貢献するための課題解決力や実践力を有し、健康機能分子科学に関連する新時代の技術革新を担える高度な人材を養成する。</p> <p>②習得させる能力 ・健康機能分子科学を主とし、生体医工学、医科学、総合看護科学などを副とする、理工学、医学、農学に跨る健康科学の学問領域において、先端の高度な専門知識 ・健康機能分子科学及び関連する健康科学分野における諸問題の解決に自律的に取り組む能力 ・専門分野の枠を超えて、幅広い教養と広範な視野をもち、地域や社会に貢献するための実践力</p> <p>③修了後の進路 ・健康関連産業、食品・医薬品産業の研究者 ・医療機関、医療従事者 ・科学技術ジャーナリスト ・試験場研究員</p> <p>(医科学コース)</p> <p>①養成する人材像 理工学・農学に跨がる幅広い専門知識、先進技術と学際的思考基盤を有し、ヒトを中心とした生命科学における新たな研究領域の開拓や技術革新に貢献できる新世代の医療系生命科学者を養成する。</p> <p>②習得させる能力 ・医科学を主とし、健康機能分子科学、生体医工学、総合看護科学などを副とする、理工学、医学、農学に跨る健康科学の学問領域において、先端の高度な専門知識 ・医科学及び関連する健康科学分野における諸問題の解決に自律的に取り組む能力 ・専門分野の枠を超えて、幅広い教養と広範な視野をもち、地域や社会に貢献するための実践力</p> <p>③修了後の進路 ・医療機関、医療従事者 ・健康関連産業の研究者 ・科学技術ジャーナリスト</p> <p>(総合看護科学コース)</p> <p>①養成する人材像 看護学領域に関わる幅広く深い学識、優れた技能、ならびに学際的な視点・着想に基づいた問題解決能力を有し、看護学の教育、研究、実践の各分野で指導的役割を果たせる人材を養成する。</p> <p>②習得させる能力 ・総合看護科学を主とし、健康機能分子科学、医科学、生体医工学などを副とする、理工学、医学、農学に跨る健康科学の学問領域において、先端の高度な専門知識 ・総合看護科学及び関連する健康科学分野における諸問題の解決に自律的に取り組む能力 ・専門分野の枠を超えて、幅広い教養と広範な視野をもち、地域や社会に貢献するための実践力</p> <p>③修了後の進路 ・医療機関、医療従事者 ・看護大学教員、教育担当看護師、看護管理者</p>
既設学部等において養成する人材像	<p>【工学系研究科】</p> <p>①養成する人材像 本研究科においては、理学及び工学の領域並びに理学及び工学の融合領域を含む関連の学問領域において、創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ研究者・技術者等、高度な専門的知識・能力を持つ職業人又は知識基盤社会を支える深い専門的知識・能力と幅広い視野を持つ多様な人材を養成する。</p> <p>②習得させる能力 ・研究・開発を遂行できる能力 ・高度でかつ幅広い基礎知識</p>

	<p>【循環物質化学専攻】 ①養成する人材像 化学の領域において、循環型社会を実現するための確かな知識と実践力を持つ高度な専門技術者等を養成する。 ②習得させる能力 ・基礎的な化学の領域を学修し、循環型社会の実現に応用できる化学技術者としての能力 ・応用化学、物質循環、ゼロエミッションなど幅広い専門知識と実践力を修得し、循環型社会を実現する科学技術を構築できる化学技術者としての能力 ・地球的視点から、多面的に物事を考え環境調和型社会を志向できる化学技術者としての能力 ・情報処理、プレゼンテーション、コミュニケーション能力を養い、自主的に仕事を計画・実行し、課題を解決できる能力 ③修了後の進路 ・化学関連製造業 ・電子機器製造業 ・繊維工業</p> <p>【機械システム工学専攻】 ①養成する人材像 機械工学及びその関連の領域において、高度な専門的知識・能力を持つ職業人を養成する。 ②習得させる能力 ・機械工学に関する高度な専門的知識を有し、それを応用する能力 ・機械工学を取り巻く種々の問題に対応するため、専門分野以外の知識を幅広く修得し、それを活用する能力 ・技術者としてのつくり貢献するための知識と実践力 ・機械工学に関連した広範な問題について、技術者としての視点から課題を発見し、それを解決する能力 ③修了後の進路 ・輸送用機器製造業 ・業務用機械製造業 ・情報通信関連製造業</p> <p>【先端融合工学専攻】 ①養成する人材像 医工学又は機能材料工学の領域において、確かな知識と実践力を持つ高度な専門技術者等を養成する。 ②習得させる能力 ・研究科間共通科目を通して、技術者としての素養 ・専門科目を通して、医工学または理工学の幅広い知識を身につけるとともに高度な専門知識と技術とそれらを用い、発展させるための能力 ・研究活動を通して、人間と環境に優しい社会の構築および社会や地域の持続的発展に貢献できる研究遂行能力及び創造力、また、技術者としてのプレゼンテーション、コミュニケーション能力 ③修了後の進路 ・輸送用機械関連製造業 ・情報通信業 ・電子関連製造業</p> <p>【農学研究科 生物資源科学専攻】 ①養成する人材像 研究科は、地域社会及び国際社会の発展に必要なとされる農学上の諸課題を解決する能力、高い倫理意識及び国際的視野を有し、多方面において先端的・応用的・実用的な能力を発揮し、活躍できる創造性豊かな高度専門職業人を養成する。 ②習得させる能力 ・高い倫理意識と国際性豊かな教養を有し、情報収集・分析能力及び優れたコミュニケーション能力を活かして、企業や社会において指導的立場で活躍できる能力 ・生物資源の開発と制御、環境保全と持続的農業生産、生命化学と食糧科学、地域社会の持続可能な開発などの分野で、先端的・応用的・実用的な能力 ・中北部九州及びアジアの諸地域における地域農業組織・企業・団体・行政・研究所等の職場で、実行力をもって活躍できる能力 ③修了後の進路 ・農業 ・食品関連製造業 ・情報通信業</p> <p>【医学系研究科 医科学専攻】 ①養成する人材像 医学の基礎およびその応用法を体系的・集中的に修得させることにより、医学、生命科学、ヒューマンケアなど包括医療の諸分野において活躍する多彩な専門家を養成する。 ②習得させる能力 ・各コースワークに沿った授業科目を履修・修得して身につけた、生命科学・医科学研究の遂行に必要な基本的知識・技術や医療科学及び総合ケア科学分野など高度な専門職者に必要な知識・技法を、研究及び専門分野で活用・発展できる能力 ・各コースの研究法授業及び研究実習や研究・実践活動を通して修得した、研究を行うために必要な研究計画・実験デザイン立案などの研究手法や研究遂行能力を駆使して、科学的・論理的思考に基づいた研究を実行できる能力 ・生命科学倫理、科学リテラシー関連等の授業科目や研究室等での研究活動を通して獲得できる、研究者あるいは高度専門職者に求められる高い倫理観とともに生命科学・包括医療の諸分野でリーダーシップを発揮する資質・能力 ・研究の計画・遂行や論文作成に必要な情報収集ならびに学会・研究会等への参加を通して身につけた日本語や英語を用いたコミュニケーション・スキルによる研究・活動等の成果の発信など、国内外の研究者あるいは専門職者との交流できる能力 ③修了後の進路 ・大学、病院並びに関連研究所 ・製薬、化学、検査等の企業および研究所 ・医用機器メーカー、自治体等職員</p> <p>【医学系研究科 看護学専攻】 ①養成する人材像 高度の専門性を有する看護職者にふさわしい広い視野に立った豊かな学識と優れた技能を有し、国内及び国際的に看護学の教育研究、実践の各分野で指導的役割を果たすことができる人材を養成する。 ②習得させる能力 ・各コースワークに沿った授業科目を履修・修得し、生命科学・医科学研究の遂行に必要な基本的知識・技術や医療科学及び総合ケア科学分野など高度な専門職者に必要な知識・技法 ・各コースの研究法授業及び研究実習や研究・実践活動を通して、研究を行うために必要な研究計画・実験デザイン立案などの研究手法や研究遂行能力を修得し、科学的・論理的思考に基づいた研究の実行 ・生命科学倫理、科学リテラシー関連等の授業科目や研究室等での研究活動を通して、研究者あるいは高度専門職者に求められる高い倫理観とともに生命科学・包括医療の諸分野でリーダーシップを発揮する資質・能力 ・研究の計画・遂行や論文作成に必要な情報収集ならびに学会・研究会等への参加を通して、日本語や英語を用いたコミュニケーション・スキルを身につけて、研究・活動等の成果の発信など、国内外の研究者あるいは専門職者との交流できる能力 ③修了後の進路 ・看護基礎教育機関 ・病院 ・訪問看護ステーション ・福祉関係施設</p>
<p>新設学部等において 取得可能な資格</p>	<p>【先進健康科学研究科 先進健康科学専攻】 ・中学校教諭専修免許状（理科）、高等学校教諭専修免許状（理科） ① 国家資格、② 資格取得可能 ③ 修了要件単位に含まれる科目のほか、教職関連科目の履修が必要</p>

既設学部等において取得可能な資格	【工学系研究科 循環物質化学専攻】 ・中学校教諭専修免許状（理科），高等学校教諭専修免許状（理科） ① 国家資格，② 資格取得可能 ③ 修了要件単位に含まれる科目のほか，教職関連科目の履修が必要
	【工学系研究科 機械システム工学専攻】 ・高等学校教諭専修免許状（工業） ① 国家資格，② 資格取得可能 ③ 修了要件単位に含まれる科目のほか，教職関連科目の履修が必要
	【工学系研究科 先端融合工学専攻】 ・中学校教諭専修免許状（理科），高等学校教諭専修免許状（理科） ① 国家資格，② 資格取得可能 ③ 修了要件単位に含まれる科目のほか，教職関連科目の履修が必要
	【農学研究科 生物資源科学専攻】 ・中学校教諭専修免許状（理科），高等学校教諭専修免許状（理科，農業） ① 国家資格，② 資格取得可能 ③ 修了要件単位に含まれる科目のほか，教職関連科目の履修が必要

新設学部等の概要	新設学部等の名称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	授与する学位等		開設時期	専任教員		
							学位又は称号	学位又は学科の分野		異動元	助教以上	うち教授
新設学部等の概要	先進健康科学研究科 [Graduate School of Advanced Health Sciences]	先進健康科学専攻 [Department of Advanced Health Sciences]	2	52	-	104	修士(理学) 修士(工学) 修士(農学) 修士(医科学) 修士(看護学)	理学関係 工学関係 農学関係 医学関係 保健衛生学関係 (看護学関係)	平成31年4月	循環物質化学専攻	5	3
										機械システム工学専攻	1	0
										先端融合工学専攻	13	5
										生物資源科学専攻	10	3
										医科学専攻	29	16
										看護学専攻	15	9
計	73	36										
既設学部等の概要	既設学部等の名称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	授与する学位等		開設時期	専任教員		
							学位又は称号	学位又は学科の分野		異動先	助教以上	うち教授
既設学部等の概要	工学系研究科	循環物質化学専攻 (博士前期課程) (廃止)	2	27	-	54	修士(理学) 修士(工学)	理学関係 工学関係	平成22年4月	理工学研究科理工学専攻	11	6
										先進健康科学研究科先進健康科学専攻	5	3
										計	16	9
		先端融合工学専攻 (博士前期課程) (廃止)	2	28	-	56	修士(工学)	工学関係	平成13年4月	理工学研究科理工学専攻	21	10
										先進健康科学研究科先進健康科学専攻	1	0
										その他 退職		
	計	22	10									
	農学研究科	生物資源科学専攻 (修士課程)	2	40	-	80	修士(農学)	農学関係	平成22年4月	理工学研究科理工学専攻	5	3
										先進健康科学研究科先進健康科学専攻	13	5
										農学研究科生物資源科学専攻	39	17
	その他	3	0									
	計	52	20									
医学系研究科	医科学専攻 (修士課程) (廃止)	2	15	-	30	修士(医科学)	医学関係	平成15年4月	先進健康科学研究科先進健康科学専攻	29	16	
									その他	1		
	看護学専攻 (修士課程) (廃止)	2	16	-	32	修士(看護学)	保健衛生学関係	平成9年4月	先進健康科学研究科先進健康科学専攻	15	9	
									計	30	16	
計	15	9										

【備考欄】
・大学院設置基準第14条における教育方法の特例を実施

理工学部
数理科学科 [廃止] (入学定員 30) → 理工学部 理工科学科 (入学定員 480) (平成30年4月申請)
物理科学科 [廃止] (入学定員 40)
知能情報システム学科 [廃止] (入学定員 60)
機能物質化学科 [廃止] (入学定員 90)
機械システム工学科 [廃止] (入学定員 90)
電気電子工学科 [廃止] (入学定員 90)
都市工学科 [廃止] (入学定員 90)
※平成31年4月学生募集停止

農学部
応用生物科学科 [廃止] (入学定員 45) → 農学部 生物資源科学科 (入学定員 145) (平成30年4月申請)
生物環境科学科 [廃止] (入学定員 60)
生命機能科学科 [廃止] (入学定員 40)
※平成31年4月学生募集停止

工学系研究科 (博士前期課程)〔廃止〕 数理学専攻 物理学専攻 知能情報システム学専攻 循環物質化学専攻 機械システム工学専攻 電気電子工学専攻 都市工学専攻 先端融合工学専攻 ※平成31年4月学生募集停止	〔廃止〕(入学定員 9) 〔廃止〕(入学定員 15) 〔廃止〕(入学定員 18) 〔廃止〕(入学定員 27) 〔廃止〕(入学定員 28) 〔廃止〕(入学定員 27) 〔廃止〕(入学定員 24) 〔廃止〕(入学定員 36)	→	理工学研究科 (修士課程) 理工学専攻	(入学定員 167) (平成30年4月申請)
農学研究科 (修士課程) 生物資源科学専攻	〔廃止〕(入学定員 40)	→	農学研究科 (修士課程) 生物資源科学専攻	(入学定員 32) (平成30年4月申請)
医学系研究科 (修士課程)〔廃止〕 医科学専攻 看護学専攻 ※平成31年4月学生募集停止	〔廃止〕(入学定員 15) 〔廃止〕(入学定員 16)		先進健康科学研究科 (修士課程) 先進健康科学専攻	(入学定員 52) (平成30年4月申請)

【施設・設備の状況】

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	※大学全体 借地面積 16,116 m ²		
	校 舎 敷 地	332,968 m ²	0 m ²	0 m ²	332,968 m ²			
	運 動 場 用 地	96,879 m ²	0 m ²	0 m ²	96,879 m ²			
	小 計	429,847 m ²	0 m ²	0 m ²	429,847 m ²			
	そ の 他	400,449 m ²	0 m ²	0 m ²	400,449 m ²			
合 計	830,296 m ²	0 m ²	0 m ²	830,296 m ²				
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	※大学全体		
		153,878 m ² (154,060 m ²)	0 m ² (0 m ²)	0 m ² (0 m ²)	153,878 m ² (154,060 m ²)			
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	※大学全体		
	112 室	113 室	472 室	16 室 (補助職員 - 人)	4 室 (補助職員 - 人)			
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数				
		先進健康科学研究科		105 室				
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体での共 用分を含む
	大学全体	709,062 [221,903] (709,272 [222,323])	11,880 [4,096] (11,880 [4,096])	5,444 [4,146] (5,444 [4,146])	2,890 (2,770)	8,106 (6,372)	230 (230)	
	計	709,062 [221,903] (709,272 [222,323])	11,880 [4,096] (11,880 [4,096])	5,444 [4,146] (5,444 [4,146])	2,890 (2,770)	8,106 (6,372)	230 (230)	
図書館		面積		収 納 可 能 冊 数		大学全体		
		7,887 m ²		819 席 571,361 冊				
体育館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要				
		5,543 m ²		陸上競技場, 野球場, テニスコート, 弓道場, プール				

【既設学部等の状況】

大 学 の 名 称	佐賀大学							
学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所 在 地
教育学部 学校教育課程	4	120	—	360	学士 (学校教育)	1.05	平成28年度	佐賀県佐賀市本庄 町1番地
文化教育学部 学校教育課程	4	—	—	—	学士 (学校教育)	—	平成9年度	平成28年度より名称変更
国際文化課程	4	—	—	—	学士 (国際文化)	—	平成9年度	平成28年度より学生募集停止
人間環境課程	4	—	—	—	学士 (人間環境)	—	平成9年度	平成28年度より学生募集停止
美術・工芸課程	4	—	—	—	学士 (美術・工芸)	—	平成9年度	平成28年度より学生募集停止
芸術地域デザイン学部 芸術地域デザイン学科	4	110	3年次5	335	学士 (芸術) 学士 (地域デザイン)	1.05	平成28年度	同上
経済学部 経済学科	4	110	—	440	学士 (経済学)	1.04	1.06	佐賀県佐賀市本庄 町1番地
経営学科	4	80	—	320	学士 (経済学)	1.04	平成25年度	
経済法学科	4	70	—	280	学士 (経済学)	1.02	平成25年度	
医学部 医学科	6	106	—	636	学士 (医学)	1.00	1.00	佐賀県佐賀市鍋島 五丁目1番1号
看護学科	4	60	—	240	学士 (看護学)	1.00	平成16年度	
理工学部 数理科学科	4	30	—	120	学士 (理学)	1.03	1.01	佐賀県佐賀市本庄 町1番地
物理科学科	4	40	—	160	学士 (理学)	1.01	平成16年度	
知能情報システム学科	4	60	—	240	学士 (理学)	1.05	平成16年度	
機能物質化学科	4	90	—	360	学士 (理学)	1.04	平成16年度	
					学士 (工学)			

既設大学等の状況	機械システム工学科	4	90	—	360	学士 (工学)	1.03	平成16年度	
	電気電子工学科	4	90	—	360	学士 (工学)	1.03	平成16年度	
	都市工学科	4	90	—	360	学士 (工学)	1.03	平成16年度	
	各学科共通			3年次 ㉔	40				
	農学部						1.04		同上
	応用生物科学科	4	45	—	180	学士 (農学)	1.03	平成18年度	
	生物環境科学科	4	60	—	240	学士 (農学)	1.03	平成18年度	
	生命機能科学科	4	40	—	160	学士 (農学)	1.06	平成18年度	
	各学科共通			3年次 ㉔	20				
	学校教育学研究科 (専門職学位課程) 教育実践探究専攻	2	20	—	40	教職修士 (専門職)	1.00	平成28年度	佐賀県佐賀市本庄町1番地
	地域デザイン研究科 (修士課程) 地域デザイン専攻	2	20	—	40	修士 (地域デザイン)	0.92	平成28年度	同上
	医学系研究科 (修士課程) 医科学専攻	2	15	—	30	修士 (医科学)	0.46	平成16年度	佐賀県佐賀市鍋島五丁目1番1号
	看護学専攻 (博士課程)	2	16	—	32	修士 (看護学)	0.62	平成16年度	
	医科学専攻	4	25	—	100	博士 (医学)	0.95	平成20年度	
	工学系研究科 (博士前期課程) 数理科学専攻	2	9	—	18	修士 (理学)	0.77	平成16年度	佐賀県佐賀市本庄町1番地
	物理科学専攻	2	15	—	30	修士 (理学)	0.69	平成16年度	
	知能情報システム学専攻	2	18	—	36	修士 (理学)	0.91	平成16年度	平成28年度入学定員増 (2人)
	循環物質化学専攻	2	27	—	54	修士 (理学) 修士 (工学)	1.18	平成22年度	
	機械システム工学専攻	2	28	—	56	修士 (工学)	1.19	平成16年度	平成28年度入学定員増 (1人)
電気電子工学専攻	2	27	—	54	修士 (工学)	1.10	平成16年度		
都市工学専攻	2	24	—	48	修士 (工学)	0.95	平成16年度	平成28年度入学定員減 (3人)	
先端融合工学専攻	2	36	—	72	修士 (学術) 修士 (理学) 修士 (工学)	1.02	平成22年度		
(博士後期課程) システム創成科学専攻	3	24	—	72	博士 (学術) 博士 (理学) 博士 (工学)	0.84	平成22年度		
農学研究科 (修士課程) 生物資源科学専攻	2	40	—	80	修士 (農学)	1.10	平成22年度	佐賀県佐賀市本庄町1番地	
	名称 : アドミッションセンター								
	目的 : 入学者選抜, 入試広報, 高大接続等に関する企画, 立案等の業務を行うとともに, 学部及び研究科で実施する入学者選抜を専門的立場から支援し, 本学の教育研究の充実発展に寄与することを目的とする。								
	所在地 : 佐賀県佐賀市本庄町1番地								
	設置年月 : 平成19年10月								
	規模等 : 土地 - m ² 建物 53 m ²								
	名称 : キャリアセンター								
	目的 : キャリア教育の調査研究及び就職支援に係る業務を行うことにより, 本学の就職支援の充実発展に寄与することを目的とする。								
	所在地 : 佐賀県佐賀市本庄町1番地								
	設置年月 : 平成19年10月								
	規模等 : 土地 - m ² 建物 110 m ²								
	名称 : 国際交流推進センター								
	目的 : 部局及び地域社会と連携し一体となって, 海外の教育研究機関との国際交流の進展に寄与することを目的とする。								
	所在地 : 佐賀県佐賀市本庄町1番地								
	設置年月 : 平成23年10月								
	規模等 : 土地 - m ² 建物 311 m ²								

<p>名称：教員免許更新講習室</p> <p>目的：教育職員がその時々に必要な資質能力を保持し、定期的に最新の知識技能を身に付け、もって教育職員が自信と誇りを持って教壇に立ち、社会の尊敬と信頼を得ることを目的とする。</p> <p>所在地：佐賀県佐賀市本庄町1番地</p> <p>設置年月：平成21年4月</p> <p>規模等：土地 - m² 建物 23 m²</p>	
<p>名称：全学教育機構</p> <p>目的：本学の共通教育、国際教育及び高等教育開発並びに本学の教育における情報通信技術の活用支援を総合的に行うことにより、「佐賀大学学士力」に基づく学士課程教育の質保証等に資することを目的とする。</p> <p>所在地：佐賀県佐賀市本庄町1番地</p> <p>設置年月：平成23年4月</p> <p>規模等：土地 - m² 建物 7,606 m²</p>	
<p>名称：附属図書館</p> <p>目的：教育、研究及び社会貢献等の諸活動を支援するため、必要な図書、雑誌等の資料はじめ学術情報を収集し、整理、作成、保存して提供することを目的とする。</p> <p>所在地：佐賀県佐賀市本庄町1番地</p> <p>設置年月：平成元年4月</p> <p>規模等：土地 - m² 建物 7,643 m²</p>	
<p>名称：美術館</p> <p>目的：本学の目的、使命にのっとり、本学の教育、研究、社会貢献等の諸活動を支援するため、必要な芸術資料等を収集、保存、管理及び調査し、並びに展示公開することを目的とする。</p> <p>所在地：佐賀県佐賀市本庄町1番地</p> <p>設置年月：平成25年6月</p> <p>規模等：土地 - m² 建物 1,502 m²</p>	
<p>名称：保健管理センター</p> <p>目的：本学の保健管理に関する専門的業務を行うことを目的とする</p> <p>所在地：佐賀県佐賀市本庄町1番地</p> <p>設置年月：昭和45年4月</p> <p>規模等：土地 - m² 建物 450 m²</p>	
<p>名称：海洋エネルギー研究センター</p> <p>目的：共同利用・共同研究拠点として、海洋エネルギーとその複合利用に関する研究を行い、かつ、全国の大学の教員その他の研究機関の研究者で、センターの目的たる研究と同一の分野の研究に従事するものの利用及び研究に供することを目的とする。</p> <p>所在地：佐賀県佐賀市本庄町1番地、佐賀県伊万里市山代町久原字平尾1番48号</p> <p>設置年月：平成14年4月</p> <p>規模等：土地 10,751 m² 建物 4,673 m²</p>	
<p>名称：総合分析実験センター</p> <p>目的：生物資源開発・機器分析・放射性同位元素利用・環境安全管理に関する体制を一元化し、各部門が有機的な連携を保ちつつ、教育・研究を効率的に推進するための拠点施設として、学際的・複合的な領域研究にも対応できる教育・研究支援体制の実現を目指すことを目的とする。</p> <p>所在地：佐賀県佐賀市本庄町1番地</p> <p>設置年月：平成14年4月</p> <p>規模等：土地 - m² 建物 5,246m²</p>	
<p>名称：総合情報基盤センター</p> <p>目的：本学の学術情報を支える基幹情報システムを統括するとともに、本学の共通的情報基盤の整備推進及び電子図書館機能の充実並びに事務情報化の推進を図ることを目的とする。</p> <p>所在地：佐賀県佐賀市本庄町1番地</p> <p>設置年月：平成18年2月</p> <p>規模等：土地 - m² 建物 939 m²</p>	
<p>名称：シンクロトロン光応用研究センター</p> <p>目的：本学の共同利用研究施設として、シンクロトロン光を応用して行う研究を推進し、その成果を公表することにより、本学の研究教育活動及び学術交流の活性化を図るとともに、地域社会における先端科学技術開発及び産学連携の振興に資することを目的とする。</p> <p>所在地：佐賀県佐賀市本庄町1番地</p> <p>設置年月：平成13年6月</p> <p>規模等：土地 - m² 建物 354 m²</p>	

附属施設の概要

<p>名称：地域学歴史文化研究センター</p> <p>目的：地域（佐賀）の歴史文化の固有性と普遍性を探求することにより，本学の文系基礎学の発展・充実を図り，もって新たな学問体系としての地域学を創造するとともに，広く地域社会に対し研究成果を提供することを目的とする。</p> <p>所在地：佐賀県佐賀市本庄町1番地 設置年月：平成18年4月 規模等：土地 - m² 建物 160 m²</p>
<p>名称：教育学部附属幼稚園</p> <p>目的：本学部における幼児の保育又は児童若しくは生徒の教育に関する研究に協力し，本学部の計画に従い，学生の教育実習の実施に当たるとともに，教育の理論的，実証的研究を行うとともに，他の学校との教育研究の協力及び教育研究の成果の交流を行うことを目的とする。</p> <p>所在地：佐賀県佐賀市水ヶ江1丁目4番45号 設置年月：昭和45年4月 規模等：土地 3,565m² 建物 744 m²</p>
<p>名称：教育学部附属小学校</p> <p>目的：本学部における幼児の保育又は児童若しくは生徒の教育に関する研究に協力し，本学部の計画に従い，学生の教育実習の実施に当たるとともに，教育の理論的，実証的研究を行うとともに，他の学校との教育研究の協力及び教育研究の成果の交流を行うことを目的とする。</p> <p>所在地：佐賀県佐賀市城内2丁目17番3号 設置年月：昭和24年5月 規模等：土地 17,426 m² 建物 5,624 m²</p>
<p>名称：教育学部附属中学校</p> <p>目的：本学部における幼児の保育又は児童若しくは生徒の教育に関する研究に協力し，本学部の計画に従い，学生の教育実習の実施に当たるとともに，教育の理論的，実証的研究を行うとともに，他の学校との教育研究の協力及び教育研究の成果の交流を行うことを目的とする。</p> <p>所在地：佐賀県佐賀市城内1丁目14番4号 設置年月：昭和24年5月 規模等：土地 22,166 m² 建物 6,379 m²</p>
<p>名称：教育学部附属特別支援学校</p> <p>目的：本学部における幼児の保育又は児童若しくは生徒の教育に関する研究に協力し，本学部の計画に従い，学生の教育実習の実施に当たるとともに，教育の理論的，実証的研究を行うとともに，他の学校との教育研究の協力及び教育研究の成果の交流を行うことを目的とする。</p> <p>所在地：佐賀県佐賀市本庄町正里46番2号 設置年月：昭和53年4月 規模等：土地 19,915 m² 建物 3,677 m²</p>
<p>名称：教育学部附属教育実践総合センター</p> <p>目的：附属学校（園）等，学内外の関係機関との連携のもとに，教育臨床，教育実践及び教職支援に関する理論的・実践的研究及び指導を行い，教育実践の向上に資することを目的とする。</p> <p>所在地：佐賀県佐賀市本庄町1番地 設置年月：平成14年4月 規模等：土地 - m² 建物 530 m²</p>
<p>名称：医学部附属病院</p> <p>目的：医学の教育及び研究に係る診療の場として機能するとともに，医療を通して医学の水準及び地域医療の向上に寄与することを目的とする。</p> <p>所在地：佐賀県佐賀市鍋島五丁目1番1号 設置年月：昭和56年4月 規模等：土地 99,233 m² 建物 70,388 m²</p>
<p>名称：医学部附属地域医療科学教育研究センター</p> <p>目的：本学における教育研究の先導的組織として，地域医療機関，保健行政機関等との連携を基盤に，地域包括医療の高度化等に関する総合的，学際的な教育研究を行うとともに，関連する医学・看護学の課題に関して重点的に研究を進展させることを目的とする。</p> <p>所在地：佐賀県佐賀市鍋島五丁目1番1号 設置年月：平成15年4月 規模等：土地 - m² 建物 222 m²</p>
<p>名称：医学部附属先端医学研究推進支援センター</p> <p>目的：本学部における医学研究活動をより一層推進するため，学際分野を含む医学研究の先端的・中心的な役割を担い，もって学内外への情報発信を行うとともに，本学部における教育研究の基盤となる高度な技術的支援とその研鑽を組織的に行うことにより，関連する医学・看護学の課題に関して重点的に研究を進展させることを目的とする。</p> <p>所在地：佐賀県佐賀市鍋島五丁目1番1号 設置年月：平成19年4月 規模等：土地 - m² 建物 53 m²</p>

	<p>名称：農学部附属アグリ創生教育研究センター</p> <p>目的：農学部の附属教育研究施設として、学内外の関係機関との連携のもとに、アグリ創生に関する教育及び研究を行い、農業・医療・環境修復等の地域社会ニーズに対応した学際的な国際化戦略の向上に資することを目的とする。</p> <p>所在地：佐賀県佐賀市久保泉町下和泉1841番地，佐賀県唐津市松南町152番1号</p> <p>設置年月：平成24年10月</p> <p>規模等：土地 180,840 m² 建物 4,018m²</p>	
	<p>名称：神集島合宿研修所</p> <p>目的：本学学生の集団行動における訓練の場として、学生相互あるいは教職員との共同生活を通じて、学生の人間形成に資することを目的とする。</p> <p>所在地：佐賀県唐津市神集島コウソ辻1430番地</p> <p>設置年月：昭和48年3月</p> <p>規模等：土地 9,940 m² 建物 205 m²</p>	

教育課程等の概要(事前伺い)

(先進健康科学研究科 先進健康科学専攻)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
大学院 院 教 養 教 育 プ ロ グ ラ ム	研究・職業倫理特論	1前	1			○									兼1	
	情報セキュリティ特論	1前	1			○									兼4	オムニバス
	データサイエンス特論	1後	1			○									兼1	
	学術英語特論	1前・後		1		○									兼1	
	ダイバーシティ・人権教育特論	1後		1		○									兼2	オムニバス、異朝(一部)
	キャリアデザイン特論	1後		1		○									兼1	
	多文化共生理解	1前		1		○									兼1	
	小計(7科目)	—	3	4		—									兼11	—
自然科学系 研 究 科 共 通 科 目	創成科学融合特論	1前	2			○			7	1					兼34	※演習
	創成科学PBL特論	1前・後	2				○		2	9					兼48	※講義 ※集中
	知的財産特論	1後	2			○									兼1	
	理工学概論	1前	1			○									兼8	オムニバス
	医学・看護学概論	1前	1			○			3						兼3	オムニバス
	農学総合概論	1前	1			○									兼4	オムニバス
	創成科学インターンシップS	1・2前・後		1				○							兼1	集中
	創成科学インターンシップL	1・2前・後		2				○							兼1	集中
	理工学特別講義	1・2前・後		2		○									兼1	
	数学概論	1後	1			○									兼8	オムニバス
	物理学概論	1後	1			○									兼1	
	知能情報工学概論	1後	1			○									兼1	
	材料化学特論	1後	1			○									兼2	オムニバス
	機械工学概論	1後	1			○									兼4	オムニバス
	電気電子工学概論	1後	1			○			2	2					兼4	オムニバス
	都市工学通論	1後	1			○									兼4	オムニバス
	人体構造機能学概論	1前	1			○			3	1					兼2	オムニバス
	人体構造実習	1・2通	1					○	3						兼3	オムニバス、共同
	看護理論	1前	1			○			4							オムニバス
	生物科学特論	1後	1			○									兼4	オムニバス
	生命機能科学特論	1後	1			○			1	3	1	1			兼5	オムニバス
	食資源環境科学特論	1後	1			○									兼8	オムニバス
	国際・地域マネジメント特論	1後	1			○									兼5	オムニバス
小計(23科目)	—	9	19		—			17	14	1	1			兼107	—	
専攻 共 通 科 目	健康機能分子科学概論	1前	1			○			2	2						オムニバス
	生体医工学概論	1前	1			○			2	1					兼1	オムニバス
	臨床医学概論	1前	1			○			4	1					兼8	オムニバス
	国際看護学概論	1前	1			○	○		1	1						オムニバス、集中
	生体機能代行装置学概論	1後		1		○			1	2					兼1	オムニバス
	生命科学倫理概論	1後		1		○			2						兼1	オムニバス
	食品分子科学概論	1後		1		○			1	2	1					オムニバス
	生物分子科学概論	1後		1		○			2	2						オムニバス
小計(8科目)	—	4	4		—			14	10	1				兼11	—	
専 門 科 目	生体医工学特別講義Ⅰ	1後		2		○			6	9						オムニバス
	生体医工学特別講義Ⅱ	1・2前・後		2		○			1							
	医工力学特論	1前		2		○				1						
	バイオロボティクス特論	1前		2		○				1						
	医工計測工学特論	1前		2		○				1						
	医工統計学特論	1前		2		○			1							
	医工数値解析特論	1前		2		○			1							
	医工流体シミュレーション特論	2前		2		○				1						
	医工インターフェース機器特論	2後		2		○			1							
	医工システム制御特論	1前		2		○			1							

医療機器設計学特論	2後	2	○			1					
バイオインフォマティクス特論	1前	2	○			1					
バイオメディカルフォトリクス特論	1前	2	○			1					
ニューロリハビリテーション特論	1後	2	○		1						
人体運動学特論	1後	2	○			1					
脳生体情報工学特論	1後	2	○			1					
分子創薬学特論 I	1前	1	○			1					
分子創薬学特論 II	1前	1	○			1					
生命錯体化学特論 I	1後	1	○		1						
生命錯体化学特論 II	1後	1	○		1						
反応化学特論 I	1前	1	○			1					
反応化学特論 II	1前	1	○			1					
分光化学特論 I	1後	1	○		1						
分光化学特論 II	1後	1	○		1						
生命物質化学特論 I	1後	1	○							兼1	
生命物質化学特論 II	1後	1	○							兼1	
生命分析化学特論 I	1前	1	○		1						
生命分析化学特論 II	1前	1	○		1						
生命環境化学特論 I	1後	1	○			1					
生命環境化学特論 II	1後	1	○			1					
タンパク質分子科学特論 I	1後	1	○		1						
タンパク質分子科学特論 II	1後	1	○		1						
生体防御機能分子特論 I	1前	1	○					1			
生体防御機能分子特論 II	1前	1	○					1			
食品機能学特論	1後	1	○				1				
細胞膜機能科学特論	1後	1	○				1				
微生物生理学特論	1後	1	○		1						
微生物機能化学特論	1後	1	○		1						
植物生理学特論	1前	1	○			1					
植物機能分子学特論	1前	1	○			1					
植物分子科学特論	1前	1	○		1						
植物バイオテクノロジー特論	1前	1	○		1						
ゲノミクス特論	1後	1	○			1					
トランスクリプトミクス特論	1後	1	○			1					
有機分子化学特論 I	1後	1	○						1		
有機分子化学特論 II	1後	1	○						1		
感覚分子細胞学特論	1前	1	○						1		
動物分子ストレス科学特論	1前	1	○						1		
ケミカルバイオロジー特論 I	1後	1	○			1					
ケミカルバイオロジー特論 II	1後	1	○			1					
分子生命科学特論	1前	1	○		1						
分子生化学特論	1前	1	○		1						
生体分子機能学特論 I	1後	1	○		1						
生体分子機能学特論 II	1後	1	○		1						
生体防御学特論	1後	1	○		1						
生体機能制御学特論	1後	1	○		1						
実験動物学特論	1・2前	1	○			1			1		オムニバス
動物発生工学特論	1前	1	○			1			1		オムニバス
分子遺伝学特論	1前	1	○		1						
基礎腫瘍学特論	1前	1	○		1						
健康機能分子科学演習 A	1前	2	○	○	10	9	1	3		兼1	
健康機能分子科学演習 B	1後	2	○	○	10	9	1	3		兼1	
健康機能分子科学演習 C	2前	2	○	○	10	9	1	3		兼1	
健康機能分子科学演習 D	2後	2	○	○	10	9	1	3		兼1	
健康機能分子科学特別演習 A	1前	2	○	○	3	4	1	2			集中
健康機能分子科学特別演習 B	1後	2	○	○	3	3				兼1	集中
健康機能分子科学特別演習 C	1前・後	2	○	○	4	2		1			集中
病因病態学概論	1後	1	○		3	1				兼4	オムニバス
社会・予防医学概論	1前	1	○		2	1				兼3	オムニバス
分子生命科学概論	1前	2	○		1						

総合ケア科学概論	1前		2	○		1								
臨床腫瘍学概論	1前		2	○			1							
病院実習	1・2前		1		○	4				兼5	オムニバス			
医用統計学特論	1・2前		1	○						兼1				
医用情報処理特論	1・2前		1	○			1							
バイオテクノロジー特論	1・2通		1	○		1								
解剖学特論	1・2後		1	○		2				兼1	オムニバス、異同(一部)			
生理学特論	1・2前		1	○			1			兼1	オムニバス			
微生物学・免疫学特論	1・2前		1	○		2	1			兼2	オムニバス			
薬物作用学特論	1・2後		1	○			1			兼2	オムニバス			
病理学特論	1・2後		1	○		1				兼2	オムニバス			
法医学特論	1・2前		1	○						兼1				
環境・衛生・疫学特論	1・2前		1	○		2					オムニバス			
精神・心理学特論	1・2後		1	○		1	1			兼3	オムニバス			
遺伝子医学特論	1・2後		1	○		1								
周産期医学特論	1・2後		1	○		2					オムニバス			
リハビリテーション医学特論	1・2前		1	○		1	1				オムニバス			
地域医療科学特論	1・2前		1	○						兼1				
アカデミックリーディング	1・2後		1	○						兼1				
臨床腫瘍学	1・2前		1	○			1							
がんゲノム医療実習	1・2通		3		○		1							
小児・希少がん医療講義	1・2通		3	○			1							
ライフステージに応じた医療	1・2通		3		○		1							
臨床腫瘍治療実習Ⅰ	1・2通		1		○		1				集中			
臨床腫瘍治療実習Ⅱ	1・2通		1		○		1				集中			
臨床腫瘍治療実習Ⅲ	1・2通		1		○		1				集中			
臨床腫瘍治療実習Ⅳ	1・2通		1		○		1				集中			
臨床腫瘍治療実習Ⅴ	1・2通		1		○		1				集中			
臨床腫瘍治療実習Ⅵ	1・2通		1		○		1				集中			
看護研究概論	1・2前		2	○		2	2			兼2	オムニバス、異同(一部)			
看護管理	1・2後		1	○			2				オムニバス			
看護倫理	1・2後		1	○		1	2			兼1	オムニバス			
看護教育論	1・2後		1	○		2					オムニバス			
コンサルテーション論	1・2前		1	○			1			兼2	オムニバス			
基礎看護学特論	1・2後		1		○	1								
急性看護学特論	1・2前		1	○		1								
老年看護学特論	1・2後		1	○		1	1			兼1	オムニバス			
がん看護学特論	1・2前		1	○		2	1				オムニバス			
慢性看護学特論	1・2前		2	○		1	1				オムニバス			
母性看護学特論	1・2前		1	○		1	1				オムニバス			
生体構造観察法	1・2後		1		○	1								
小児看護学特論	1・2前		1	○		1								
母性看護学演習	1・2通		1		○	1	1				オムニバス			
公衆衛生看護学特論	1・2後		1	○		1	1				オムニバス			
在宅看護学特論	1・2後		1	○			1							
精神看護学特論	1・2後		1	○		1								
看護統計学演習	1・2前		1	○						兼1				
看護形態科学特論	1・2後		1	○		1								
看護教育方法論	2前		1	○		1	1				オムニバス、異同(一部)			
特別研究Ⅰ	1前	5		○		8	5							
特別研究Ⅱ	1後	5		○		8	5							
特別研究Ⅲ	2前	10		○		8	5							
特別研究Ⅳ	2後	10		○		8	5							
小計(123科目)	—	30	153		—	36	33	1	3	兼31	—			
合計(161科目)	—	46	180		—	36	33	1	3	兼150	—			
学位又は称号	修士(工学), 修士(理学), 修士(農学), 修士(医科学) 修士(看護学)		学位又は学科の分野			工学関係, 理学関係, 農学関係, 医学関係, 保健衛生学関係(看護学関係)								

教育課程等の概要(事前伺い)

(先進健康科学研究科 先進健康科学専攻 生体医工学コース)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
大学院 院 教 養 教 育 プ ロ グ ラ ム	研究・職業倫理特論	1前	1			○									兼1	
	情報セキュリティ特論	1前	1			○									兼4	オムニバス
	データサイエンス特論	1後	1			○									兼1	
	学術英語特論	1前・後		1		○									兼1	
	ダイバーシティ・人権教育特論	1後		1		○									兼2	オムニバス、共同(一部)
	キャリアデザイン特論	1後		1		○									兼1	
	多文化共生理解	1前		1		○									兼1	
	小計(7科目)	—	3	4		—									兼11	—
自然科学系 研 究 科 共 通 科 目	創成科学融合特論	1前	2			○				7	1				兼34	※演習
	創成科学PBL特論	1前・後	2				○			2	9				兼48	※講義 ※集中
	知的財産特論	1後	2			○									兼1	
	理工学概論	1前	1			○									兼8	オムニバス
	医学・看護学概論	1前	1			○				3					兼3	オムニバス
	農学総合概論	1前	1			○									兼4	オムニバス
	創成科学インターンシップS	1・2前・後		1				○							兼1	集中
	創成科学インターンシップL	1・2前・後		2				○							兼1	集中
	理工学特別講義	1・2前・後		2		○									兼1	
	数学概論	1後	1			○									兼8	オムニバス
	物理学概論	1後	1			○									兼1	
	知能情報工学概論	1後	1			○									兼1	
	材料化学特論	1後	1			○									兼2	オムニバス
	機械工学概論	1後	1			○									兼4	オムニバス
	電気電子工学概論	1後	1			○				2	2				兼4	オムニバス
	都市工学通論	1後	1			○									兼4	オムニバス
	人体構造機能学概論	1前	1			○				3	1				兼2	オムニバス
	人体構造実習	1・2通	1					○		3					兼3	オムニバス、共同
	看護理論	1前	1			○				4						オムニバス
	生物科学特論	1後	1			○									兼4	オムニバス
	生命機能科学特論	1後	1			○				1	3	1	1		兼5	オムニバス
	食資源環境科学特論	1後	1			○									兼8	オムニバス
国際・地域マネジメント特論	1後	1			○									兼5	オムニバス	
小計(23科目)	—	9	19		—				17	14	1	1		兼107	—	
専攻 共 通 科 目	健康機能分子科学概論	1前	1			○				2	2					オムニバス
	生体医工学概論	1前	1			○				2	1				兼1	オムニバス
	臨床医学概論	1前	1			○				4	1				兼8	オムニバス
	国際看護学概論	1前	1			○	○			1	1					オムニバス、集中
	生体機能代行装置学概論	1後		1		○				1	2				兼1	オムニバス
	生命科学倫理概論	1後		1		○				2					兼1	オムニバス
	食品分子科学概論	1後		1		○				1	2	1				オムニバス
	生物分子科学概論	1後		1		○				2	2					オムニバス
小計(8科目)	—	4	4		—				14	10	1			兼11	—	
専門 科 目	生体医工学特別講義Ⅰ	1後		2		○				6	9					オムニバス
	生体医工学特別講義Ⅱ	1・2前・後		2		○				1						
	医工力学特論	1前		2		○					1					
	バイオロボティクス特論	1前		2		○					1					
	医工計測工学特論	1前		2		○					1					
	医工統計学特論	1前		2		○				1						
	医工数値解析特論	1前		2		○				1						
	医工流体シミュレーション特論	2前		2		○					1					
	医工インターフェース機器特論	2後		2		○				1						
	医工システム制御特論	1前		2		○				1						

医療機器設計学特論	2後		2		○			1						
バイオインフォマティクス特論	1前		2		○			1						
バイオメディカルフォトンクス特論	1前		2		○			1						
ニューロリハビリテーション特論	1後		2		○		1							
人体運動学特論	1後		2		○			1						
脳生体情報工学特論	1後		2		○			1						
特別研究Ⅰ	1前	5			○		5	9						
特別研究Ⅱ	1後	5			○		5	9						
特別研究Ⅲ	2前	10			○		5	9						
特別研究Ⅳ	2後	10			○		5	9						
小計（20科目）	—	30	32		—		6	9						—
合計（58科目）	—	46	59		—		25	23	1	1			兼126	—
学位又は称号	修士（工学）		学位又は学科の分野			工学関係								

教育課程等の概要(事前伺い)

(先進健康科学研究科 先進健康科学専攻 健康機能分子科学コース)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
大学院 院 教 養 教 育 プ ロ グ ラ ム	研究・職業倫理特論	1前	1			○									兼1	
	情報セキュリティ特論	1前	1			○									兼4	オムニバス
	データサイエンス特論	1後	1			○									兼1	
	学術英語特論	1前・後		1		○									兼1	
	ダイバーシティ・人権教育特論	1後		1		○									兼2	オムニバス、共同(一部)
	キャリアデザイン特論	1後		1		○									兼1	
	多文化共生理解	1前		1		○									兼1	
	小計(7科目)	—	3	4		—									兼11	—
自然科学系 研究科 共通科目	創成科学融合特論	1前	2			○				7	1				兼34	※演習
	創成科学PBL特論	1前・後	2				○			2	9				兼48	※講義 ※集中
	知的財産特論	1後	2			○									兼1	
	理工学概論	1前	1			○									兼8	オムニバス
	医学・看護学概論	1前	1			○				3					兼3	オムニバス
	農学総合概論	1前	1			○									兼4	オムニバス
	創成科学インターンシップS	1・2前・後		1				○							兼1	集中
	創成科学インターンシップL	1・2前・後		2				○							兼1	集中
	理工学特別講義	1・2前・後		2		○									兼1	
	数学概論	1後	1			○									兼8	オムニバス
	物理学概論	1後	1			○									兼1	
	知能情報工学概論	1後	1			○									兼1	
	材料化学特論	1後	1			○									兼2	オムニバス
	機械工学概論	1後	1			○									兼4	オムニバス
	電気電子工学概論	1後	1			○				2	2				兼4	オムニバス
	都市工学通論	1後	1			○									兼4	オムニバス
	人体構造機能学概論	1前	1			○				3	1				兼2	オムニバス
	人体構造実習	1・2通	1					○		3					兼3	オムニバス、共同
	看護理論	1前	1			○				4						オムニバス
	生物科学特論	1後	1			○									兼4	オムニバス
	生命機能科学特論	1後	1			○				1	3	1	1		兼5	オムニバス
	食資源環境科学特論	1後	1			○									兼8	オムニバス
	国際・地域マネジメント特論	1後	1			○									兼5	オムニバス
小計(23科目)	—	9	19		—				17	14	1	1		兼107	—	
専攻 共通 科目	健康機能分子科学概論	1前	1			○				2	2					オムニバス
	生体医工学概論	1前	1			○				2	1				兼1	オムニバス
	臨床医学概論	1前	1			○				4	1				兼8	オムニバス
	国際看護学概論	1前	1			○	○			1	1					オムニバス、集中
	生体機能代行装置学概論	1後		1		○				1	2				兼1	オムニバス
	生命科学倫理概論	1後		1		○				2					兼1	オムニバス
	食品分子科学概論	1後		1		○				1	2	1				オムニバス
	生物分子科学概論	1後		1		○				2	2					オムニバス
小計(8科目)	—	4	4		—				14	10	1			兼11	—	
	分子創薬学特論Ⅰ	1前		1		○					1					
	分子創薬学特論Ⅱ	1前		1		○					1					
	生命錯体化学特論Ⅰ	1後		1		○				1						
	生命錯体化学特論Ⅱ	1後		1		○				1						
	反応化学特論Ⅰ	1前		1		○					1					
	反応化学特論Ⅱ	1前		1		○					1					
	分光化学特論Ⅰ	1後		1		○				1						
	分光化学特論Ⅱ	1後		1		○				1						
	生命物質化学特論Ⅰ	1後		1		○									兼1	
	生命物質化学特論Ⅱ	1後		1		○									兼1	

専 門 科 目	生命分析化学特論Ⅰ	1前	1	○		1													
	生命分析化学特論Ⅱ	1前	1	○		1													
	生命環境化学特論Ⅰ	1後	1	○			1												
	生命環境化学特論Ⅱ	1後	1	○			1												
	タンパク質分子科学特論Ⅰ	1後	1	○		1													
	タンパク質分子科学特論Ⅱ	1後	1	○		1													
	生体防御機能分子特論Ⅰ	1前	1	○					1										
	生体防御機能分子特論Ⅱ	1前	1	○					1										
	食品機能学特論	1後	1	○				1											
	細胞膜機能科学特論	1後	1	○				1											
	微生物生理学特論	1後	1	○			1												
	微生物機能化学特論	1後	1	○			1												
	植物生理学特論	1前	1	○				1											
	植物機能分子学特論	1前	1	○				1											
	植物分子科学特論	1前	1	○			1												
	植物バイオテクノロジー特論	1前	1	○			1												
	ゲノミクス特論	1後	1	○				1											
	トランスクリプトミクス特論	1後	1	○				1											
	有機分子化学特論Ⅰ	1後	1	○											1				
	有機分子化学特論Ⅱ	1後	1	○											1				
	感覚分子細胞学特論	1前	1	○											1				
	動物分子ストレス科学特論	1前	1	○											1				
	ケミカルバイオロジー特論Ⅰ	1後	1	○					1										
	ケミカルバイオロジー特論Ⅱ	1後	1	○					1										
	分子生命科学特論	1前	1	○			1												
	分子生化学特論	1前	1	○			1												
	生体分子機能学特論Ⅰ	1後	1	○			1												
	生体分子機能学特論Ⅱ	1後	1	○			1												
	生体防御学特論	1後	1	○			1												
	生体機能制御学特論	1後	1	○			1												
	実験動物学特論	1前	1	○				1					1						オムニバス
	動物発生工学特論	1前	1	○				1					1						オムニバス
	分子遺伝学特論	1前	1	○			1												
	基礎腫瘍学特論	1前	1	○			1												
	健康機能分子科学演習A	1前	2		○		10	9	1	3					兼1				
	健康機能分子科学演習B	1後	2		○		10	9	1	3					兼1				
	健康機能分子科学演習C	2前	2		○		10	9	1	3					兼1				
	健康機能分子科学演習D	2後	2		○		10	9	1	3					兼1				
	健康機能分子科学特別演習A	1前	2		○		3	4	1	2									集中
	健康機能分子科学特別演習B	1後	2		○		3	3							兼1				集中
健康機能分子科学特別演習C	1前・後	2		○		4	2		1									集中	
特別研究Ⅰ	1前	5		○		10	9	1	3					兼1					
特別研究Ⅱ	1後	5		○		10	9	1	3					兼1					
特別研究Ⅲ	2前	10		○		10	9	1	3					兼1					
特別研究Ⅳ	2後	10		○		10	9	1	3					兼1					
小計(55科目)	—	30	58		—	10	9	1	3					兼1					
合計(93科目)		—	46	85		—	28	22	1	3				兼127					
学位又は称号	修士(理学), 修士(農学), 修士(医科学)		学位又は学科の分野			理学関係, 農学関係, 医学関係													

教育課程等の概要(事前伺い)

(先進健康科学研究科 先進健康科学専攻 医科学コース)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
大学院 院 教 養 教 育 プ ロ グ ラ ム	研究・職業倫理特論	1前	1			○									兼1	
	情報セキュリティ特論	1前	1			○									兼4	オムニバス
	データサイエンス特論	1後	1			○									兼1	
	学術英語特論	1前・後		1		○									兼1	
	ダイバーシティ・人権教育特論	1後		1		○									兼2	オムニバス、異時(一部)
	キャリアデザイン特論	1後		1		○									兼1	
	多文化共生理解	1前		1		○									兼1	
	小計(7科目)	—	3	4		—									兼11	—
自然科学系 研 究 科 共 通 科 目	創成科学融合特論	1前	2			○			7	1					兼34	※演習
	創成科学PBL特論	1前・後	2				○		2	9					兼48	※講義 ※集中
	知的財産特論	1後	2			○									兼1	
	理工学概論	1前	1			○									兼8	オムニバス
	医学・看護学概論	1前	1			○			3						兼3	オムニバス
	農学総合概論	1前	1			○									兼4	オムニバス
	創成科学インターンシップS	1・2前・後		1				○							兼1	集中
	創成科学インターンシップL	1・2前・後		2				○							兼1	集中
	理工学特別講義	1・2前・後		2		○									兼1	
	数学概論	1後		1		○									兼8	オムニバス
	物理学概論	1後		1		○									兼1	
	知能情報工学概論	1後		1		○									兼1	
	材料化学特論	1後		1		○									兼2	オムニバス
	機械工学概論	1後		1		○									兼4	オムニバス
	電気電子工学概論	1後		1		○			2	2					兼4	オムニバス
	都市工学通論	1後		1		○									兼4	オムニバス
	人体構造機能学概論	1前		1		○			3	1					兼2	オムニバス
	人体構造実習	1・2通		1				○	3						兼3	オムニバス、共同
	看護理論	1前		1		○			4							オムニバス
	生物科学特論	1後		1		○									兼4	オムニバス
	生命機能科学特論	1後		1		○			1	3	1	1			兼5	オムニバス
	食資源環境科学特論	1後		1		○									兼8	オムニバス
	国際・地域マネジメント特論	1後		1		○									兼5	オムニバス
小計(23科目)	—	9	19		—			17	14	1	1			兼107	—	
専攻 共 通 科 目	健康機能分子科学概論	1前	1			○			2	2						オムニバス
	生体医工学概論	1前	1			○			2	1					兼1	オムニバス
	臨床医学概論	1前	1			○			4	1					兼8	オムニバス
	国際看護学概論	1前	1			○	○		1	1						オムニバス、集中
	生体機能代行装置学概論	1後		1		○			1	2					兼1	オムニバス
	生命科学倫理概論	1後		1		○			2						兼1	オムニバス
	食品分子科学概論	1後		1		○			1	2	1					オムニバス
	生物分子科学概論	1後		1		○			2	2						オムニバス
小計(8科目)	—	4	4		—			14	10	1				兼11	—	
	病因病態学概論	1後	1			○			3	1					兼4	オムニバス
	社会・予防医学概論	1前	1			○			2	1					兼3	オムニバス
	分子生命科学概論	1前		2		○			1							
	総合ケア科学概論	1前		2		○			1							
	臨床腫瘍学概論	1前		2		○				1						
	病院実習	1・2前		1				○	4						兼5	オムニバス
	医用統計学特論	1・2前		1		○									兼1	
	医用情報処理特論	1・2前		1		○				1						
	実験動物学特論	1・2前		1		○				1		1				オムニバス
	バイオテクノロジー特論	1・2通		1		○			1							

専門科目 I	解剖学特論	1・2後	1		○		2				兼1	オムニバス、英訳(一部)
	生理学特論	1・2前	1		○			1			兼1	オムニバス
	分子生化学特論	1・2後	1		○		1					
	微生物学・免疫学特論	1・2前	1		○		2	1			兼2	オムニバス
	薬物作用学特論	1・2後	1		○			1			兼2	オムニバス
	病理学特論	1・2後	1		○		1				兼2	オムニバス
	法医学特論	1・2前	1		○						兼1	
	環境・衛生・疫学特論	1・2前	1		○		2					オムニバス
	精神・心理学特論	1・2後	1		○		1	1			兼3	オムニバス
	遺伝子医学特論	1・2後	1		○		1					
	周産期医学特論	1・2後	1		○		2					オムニバス
	リハビリテーション医学特論	1・2前	1		○		1	1				オムニバス
	地域医療科学特論	1・2前	1		○						兼1	
	アカデミックリーディング	1・2後	1		○						兼1	
	臨床腫瘍学	1・2前	1		○				1			
	特別研究 I	1前	5		○		12	8				
	特別研究 II	1後	5		○		12	8				
	特別研究 III	2前	10		○		12	8				
	特別研究 IV	2後	10		○		12	8				
	小計 (29科目)	—	32	26		—	16	11		1		兼24
専門科目 II	がんゲノム医療実習	1・2通		3		○		1				
	小児・希少がん医療講義	1・2通		3		○		1				
	ライフステージに応じた医療	1・2通		3				1				
	臨床腫瘍治療実習 I	1・2通	1			○		1				集中
	臨床腫瘍治療実習 II	1・2通	1			○		1				集中
	臨床腫瘍治療実習 III	1・2通	1			○		1				集中
	臨床腫瘍治療実習 IV	1・2通	1			○		1				集中
	臨床腫瘍治療実習 V	1・2通	1			○		1				集中
臨床腫瘍治療実習 VI	1・2通	1			○		1				集中	
小計 (9科目)	—	6	9		—		1					—
合計 (76科目)		—	54	62		—	32	26	1	2	兼143	—
学位又は称号		修士 (医科学)		学位又は学科の分野			医学関係					

教育課程等の概要(事前伺い)

(先進健康科学研究科 先進健康科学専攻 総合看護科学コース)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
大学院 院 教 養 教 育 プ ロ グ ラ ム	研究・職業倫理特論	1前	1			○									兼1	
	情報セキュリティ特論	1前	1			○									兼4	オムニバス
	データサイエンス特論	1後	1			○									兼1	
	学術英語特論	1前・後		1		○									兼1	
	ダイバーシティ・人権教育特論	1後		1		○									兼2	オムニバス、共同(一部)
	キャリアデザイン特論	1後		1		○									兼1	
	多文化共生理解	1前		1		○									兼1	
	小計(7科目)	—	3	4		—									兼11	—
自然科学系 研 究 科 共 通 科 目	創成科学融合特論	1前	2			○			7	1					兼34	※演習
	創成科学PBL特論	1前・後	2				○		2	9					兼48	※講義 ※集中
	知的財産特論	1後	2			○									兼1	
	理工学概論	1前	1			○									兼8	オムニバス
	医学・看護学概論	1前	1			○			3						兼3	オムニバス
	農学総合概論	1前	1			○									兼4	オムニバス
	創成科学インターンシップS	1・2前・後		1				○							兼1	集中
	創成科学インターンシップL	1・2前・後		2				○							兼1	集中
	理工学特別講義	1・2前・後		2		○									兼1	
	数学概論	1後	1			○									兼8	オムニバス
	物理学概論	1後	1			○									兼1	
	知能情報工学概論	1後	1			○									兼1	
	材料化学特論	1後	1			○									兼2	オムニバス
	機械工学概論	1後	1			○									兼4	オムニバス
	電気電子工学概論	1後	1			○			2	2					兼4	オムニバス
	都市工学通論	1後	1			○									兼4	オムニバス
	人体構造機能学概論	1前	1			○			3	1					兼2	オムニバス
	人体構造実習	1・2通	1					○	3						兼3	オムニバス、共同
	看護理論	1前	1			○			4							オムニバス
	生物科学特論	1後	1			○									兼4	オムニバス
	生命機能科学特論	1後	1			○			1	3	1	1			兼5	オムニバス
	食資源環境科学特論	1後	1			○									兼8	オムニバス
	国際・地域マネジメント特論	1後	1			○									兼5	オムニバス
小計(23科目)	—	9	19		—			17	14	1	1			兼107	—	
専攻 共 通 科 目	健康機能分子科学概論	1前	1			○			2	2						オムニバス
	生体医工学概論	1前	1			○			2	1					兼1	オムニバス
	臨床医学概論	1前	1			○			4	1					兼8	オムニバス
	国際看護学概論	1前	1			○	○		1	1						オムニバス、集中
	生体機能代行装置学概論	1後		1		○			1	2					兼1	オムニバス
	生命科学倫理概論	1後		1		○			2						兼1	オムニバス
	食品分子科学概論	1後		1		○			1	2	1					オムニバス
	生物分子科学概論	1後		1		○			2	2						オムニバス
小計(8科目)	—	4	4		—			14	10	1				兼11	—	
	看護研究概論	1・2前		2		○			2	2					兼2	オムニバス、共同(一部)
	看護管理	1・2後		1		○				2						オムニバス
	看護倫理	1・2後		1		○			1	2					兼1	オムニバス
	看護教育論	1・2後		1		○			2							オムニバス
	コンサルテーション論	1・2前		1		○				1					兼2	オムニバス
	基礎看護学特論	1・2後		1			○		1							
	急性看護学特論	1・2前		1		○			1							
	老年看護学特論	1・2後		1		○			1	1					兼1	オムニバス
	がん看護学特論	1・2前		1		○			2	1						オムニバス
	慢性看護学特論	1・2前		2		○			1	1						オムニバス

専門科目	母性看護学特論	1・2前	1		○		1	1				オムニバス
	生体構造観察法	1・2後	1			○	1					
	小児看護学特論	1・2前	1		○		1					
	母性看護学演習	1・2通	1			○	1	1				オムニバス
	公衆衛生看護学特論	1・2後	1		○		1	1				オムニバス
	在宅看護学特論	1・2後	1		○			1				
	精神看護学特論	1・2後	1		○		1					
	看護統計学演習	1・2前	1		○							兼1
	看護形態科学特論	1・2後	1		○		1					
	看護教育方法論	2前	1		○		1	1				オムニバス、異時(一部)
	特別研究Ⅰ	1前	5		○		8	5				
	特別研究Ⅱ	1後	5		○		8	5				
	特別研究Ⅲ	2前	10		○		8	5				
	特別研究Ⅳ	2後	10		○		8	5				
	小計(24科目)	—	30	22		—	10	6				兼7
合計(62科目)	—	46	49		—	28	23	1	1		兼132	—
学位又は称号	修士(看護学)		学位又は学科の分野			保健衛生学関係(看護学関係)						

I 設置の趣旨・必要性

1. 趣旨

経済組織、産業構造や生活環境がグローバルに変化している現代において、ローカルな地域でもグローバルな変化に対応して産業や生活を変えなければ衰退してしまう時代になった。地域を活性化するためには新産業の創生が不可欠であり、そのために持続発展的な科学技術イノベーションが求められている。特に最近では、異なる分野間の境界領域において新技術が生まれ、発展している。健康科学の領域もその例外ではなく、医療・介護用ロボット、ICT技術の介護・福祉への活用、機能的食品の開発など、医学・看護学はもとより、理工学、農学分野を含めた幅広い視点と柔軟な発想に基づく融合的な研究推進が必要な時代となり、この状況に対応できる研究体制の確立と、大学院に求められる高度人材の養成が急務となっている。

佐賀大学ではミッションの再定義により、地域創生の核となる‘知の拠点’として学部・研究科の特色・強みや社会的な役割を明確にし、学部横断的なプロジェクト型研究所の設置など、教育・研究機能の強化と組織の再構築を行ってきた。しかし、特に研究科あるいは専攻ごとに教育プログラムが設定されている現状では、学生の所属専攻を越えた教育や研究指導が基本的に不可能であることから、変容する社会からの要請、ならびに求められる人材像の変化への十分な対応ができなくなってきた。研究についても、例えば、生体医工学が目指す、新しい生体計測技術の人体運動機能制御やリハビリテーションへの応用に関連する研究では、患者を対象とした臨床研究が不可欠であり、また、今後大きな展開が期待される分野のICTやロボット技術の看護領域への活用は、工学サイドが臨床現場と密接に連携し、そのニーズを的確かつ迅速に取り込む必要があるが、医系キャンパスと理工学部・農学部との距離的制約を補う遠隔講義・テレビ会議システム、スクールバス等の手立ては成されているものの、研究科間の十分な協力体制が構築されているとは言えない。これらの研究を推進するには、医と工の緊密な連携が必須である。これら教育及び研究に関する課題を解決するため、従来の工学系研究科及び農学研究科の改組・再編と時を同じくして、医学系研究科及び健康科学領域に密接に関連する農学系分野、工学系分野が融合した先進健康科学研究科を新設するものである【図1】。

先進健康科学研究科は、健康科学分野における新時代の産業需要に対応する技術革新と医療及び看護を含む臨床現場での先端技術の総合的応用を目指すものである。健康科学領域の教育研究組織として、医学、看護学の医療系に加えて、農学と理工学系が協働する新しいタイプの「先進」的な体制が構築されることで、先端的な専門性が幅広く融合した教育、研究が実施される。そこでは、健康科学領域における実践的な異分野融合体制により、最先端の専門知識と医療技術が幅広く提供され、従来踏み込めなかった未開拓領域における教育研究で応えることができる。その結果、専門分野に特化したプロフェッショナルな研究者に加えて、「橋渡し」機能も担える健康科学系の研究開発人材や、幅広い専門知識と先端技術に対応出来る高度医療・看護人材を養成することにおいても「先進」的である。

理学・医学・看護学・農学に跨がる融合領域である、先進的な健康科学分野で活躍できる高度人材を輩出するためには、従来の型にとらわれない教育カリキュラムが必要となる。そこで、研究科間共通科目に農学系、医学系及び工学系の専門導入科目を配すことで、これまでの体系的カリキュラムとともに分野間の境界領域も学べるよう配慮している。さらに、専門以外の知識や技術を実践授業科目として身につけることができる異分野融合教育プログラム「創成科学融合特論」、「創成科学PBL特論」の導入により、事象を多面的にとらえることができ、ひいては、通常学ぶ専門的知識と技術に異分野の知識及び考え方（以下「複眼的視点」という。）を取り入れ、[地域社会の課題発見→解決策企画→実施→結果解析→改善策の実施]サイクルの実施（以下「科学的思考」という。）により科学技術イノベーションを起こせる人材が養成できる。

2. 本学に設置する必要性

佐賀大学は、医療・エネルギー・食・生命・環境を基盤とした‘知の拠点’として、学長のリーダーシップのもと教育研究を推進している。特に医療の分野では、全国一の症例数を誇る人工股関節手術、糖尿病などの生活習慣病に関する地域のデータに基づいた先端的疫学研究、三次元細胞培養技術を駆使した人工臓器開発、肝炎・肝臓がん対策やその啓発活動等において様々な強みを有しており、産学官連携を活用した取り組みをとおして、地域づくりを支える実績を挙げてきた。

佐賀大学が立地する佐賀県は、農水産業、窯業、製菓業などが地場産業として長い歴史を持ち、近年はマイクロソフトイノベーションセンターやICT関連企業の県内進出により、データサイエンスやITビジネスに関する新時代のプラットフォーム作りも加速している。一方、主要基盤産業の一つは医療、福祉であり、全国平均を大きく上回る数の在宅医療施設や療養病床を含む豊富な医療資源に加え、基幹病院の適切な配置など、脳卒中等の緊急性の高い疾患に対する急性期医療供給体制が整っている。さらに、九州国際重粒子線がん治療センターも設置され、高度ながん治療拠点として稼働している。しかし、平成28年に佐賀県が策定した「佐賀県地域医療構想」では、効率的かつ質の高い医療提供体制と共に、市町ごとの地域包括ケアの構築が課題とされており、今後、少子化に伴って増加する高齢者世帯向けの対策、あるいは増加の一途をたどる生活習慣病患者のQOL維持といった健康寿命向上への取り組みも重要である。今後、これらの課題を克服し、地域の発展につなげていくためには、少子高齢社会に対応する新たな医療システムの構築、ICT・ロボット技術の看護への活用促進、健康維持や心身機能の改善に効果のある食品の開発など、理工学・農学分野の専門的知識や技術が必要となり、従来の狭い専門領域に偏ることなく、他分野を理解するための複眼的視点を持つことが求められる。そのために、理工、農、医の英知を結集して健康医療を追求する総合研究科を設置することで、新産業及び新システムの開発、ならびに理工系人材養成戦略の方向性に従い、社会的な役割である「さが地域創生」に求められる新時代のニーズに対応可能な人材養成を行う必要がある。

博士前期課程・修士課程 改組前後の組織対応図

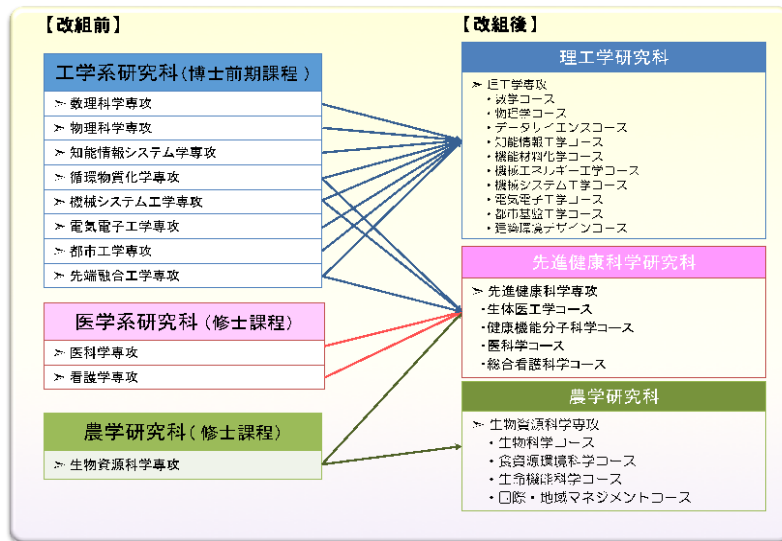


図1 改組前・後の組織対応図

II 教育課程編成の考え方・特色

本研究科では、主たる専門分野における知識を身につけるとともに、大学院教養教育プログラム及び研究科間共通科目、専攻共通科目の履修により、複眼的視点から科学的な思考ができる専門職業人材を養成することを教育目標とする。

1. 三つの方針

(1) 学位授与の方針

本研究科では、学生が身につけるべき以下の具体的な学習成果の達成を学位授与の方針とする。所定の単位を修得するとともに、修士論文を提出した者に対して修了判定を行い、先進健康科学研究科委員会の議を経て、学長が修了を認定し、学位を授与する。

- ① 所属する専攻やコースなどの専門分野における学問領域において、先端の高度な専門知識を身につけている。
- ② 研究活動を通して実践的な知識を身につけるとともに、科学的思考力と洞察力を養い、専門分野及び関連する分野における諸問題の解決に自律的に取り組む能力を身につけている。
- ③ 専門分野の枠を超えて、幅広い教養と広範な視野をもち、地域や社会に貢献するための意欲と実践力を身につけている。

(2) 教育課程編成・実施の方針

本研究科において学位授与の方針を具現化するため、以下の方針の下に教育課程を編成し、教育を実施する。

- ① 学位授与の方針①を達成するために、「専攻共通科目」及び「専門科目」を配置する。
- ② 学位授与の方針②を達成するために、「特別研究」を配置する。
- ③ 学位授与の方針③を達成するために、「大学院教養教育プログラム」及び「自然科学系研究科共通科目」を配置する。
- ④ 学位授与の方針①②③を達成するために、修士論文の審査及び最終試験を実施する。

1) 教育の実施体制

- ① 全ての授業科目で開講前にオンラインシラバスを作成する。
- ② 開講後には学生による授業評価アンケートに基づく教育改善を実施する。

2) 教育・指導の方法

- ① 各授業科目は、シラバスに明示された講義概要、授業計画に従って実施する。
- ② 各学生に指導教員ならびに副指導教員を配置し、履修指導や研究支援、修士論文執筆指導を行う。

3) 成績の評価

- ① 成績評価は、シラバスに明示された基準に従って厳格に行う。
- ② 修士論文審査及び最終試験は、主査1名、副査2名以上によって実施する。

(3) 入学者受け入れの方針

本研究科における各教育科目を修得するために必要な素質を元に、次の学生を求める。

- ① 専門分野に関する基礎学力及び基礎知識を持つ人
- ② 専門分野に関する課題発見・解決能力を養うために必要な思考力・創造力・判断力を持つ人
- ③ 研究者倫理や連携研究に対し積極的に取り組める人
- ④ 異分野にも関心があり、社会貢献や国際交流にも意欲的な人

先進健康科学研究科の各コースに対して、理工学部、農学部、医学部看護学科からの学生受け入れを想定しており（図2）、上記①～④の各項目に対応する適切な選抜方法を、コース毎に設定している（表1）。

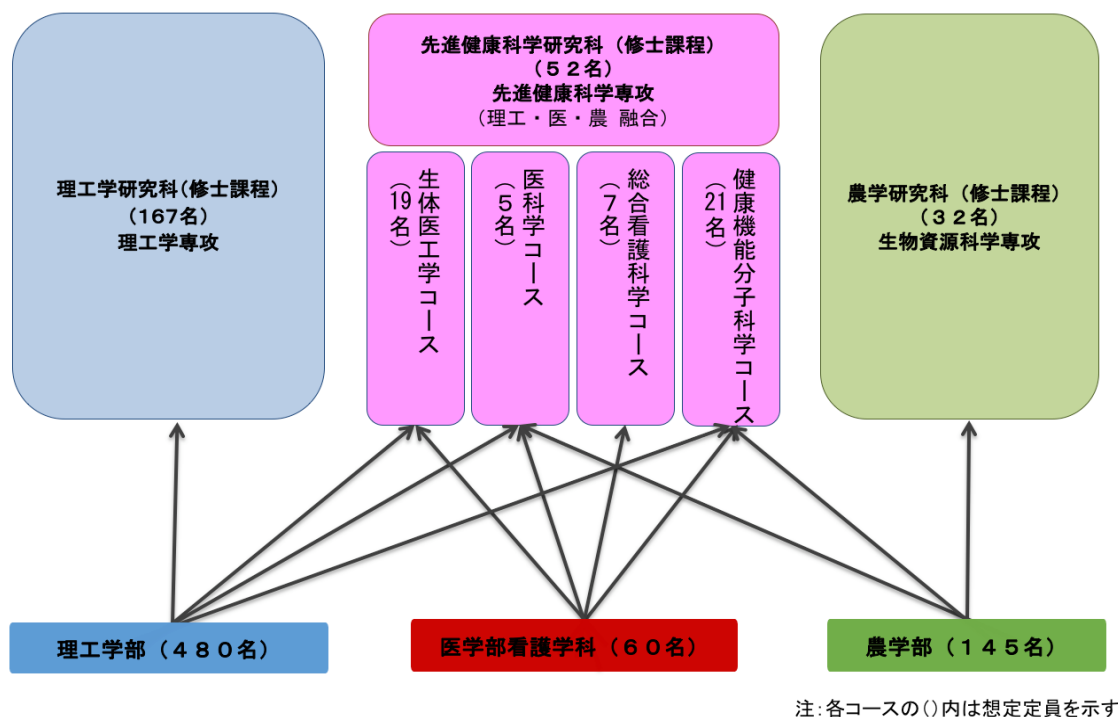


図2 研究科・コースへの進学イメージ

先進健康科学研究科（修士課程）で学ぶために必要な能力や適性等とその評価方法

視点	入学後に必要な能力や適性等	評価方法	入試方法	対象コース	
知識・理解・思考・判断	大学院で学ぶために必要な専門分野に関する基礎学力及び基礎知識	専門科目の筆記試験と TOEIC 等のスコアによって、専門分野で学ぶために必要な基礎学力及び基礎知識を評価します。	一般入試	生体医工学コース 健康機能分子科学コース	
		英文読解能力等を問う筆記試験と小論文によって、基礎学力及び専門分野の基礎知識を評価します。	一般入試	医科学コース	
		小論文と口頭試問によって、基礎学力及び専門分野の基礎知識を評価します。	社会人特別入試	総合看護科学コース	
		成績証明書によって、最終出身学校での学業成績、学習態度を評価します。	一般入試 社会人特別入試	全コース	
			推薦入試 外国人留学生特別入試	生体医工学コース 健康機能分子科学コース	
	推薦書によって、在学中の成績順位や現在の評価、将来性等を参考にします。	推薦入試	生体医工学コース 健康機能分子科学コース		
	専門分野に関する課題発見・解決能力を養うために必要な思考力・創造力・判断力	口頭試問によって、専門分野での学習及び研究を遂行するための能力や資質を評価します。	一般入試 社会人特別入試	全コース	
		業績報告書によって、これまでの研究実績及び研究内容を評価します。	推薦入試 外国人留学生特別入試	生体医工学コース 健康機能分子科学コース	
	興味・関心・態度・意欲	研究者倫理，連携研究等への関心・積極性，ならびに社会貢献や国際交流への意欲	面接試験と志願理由書によって、志望専攻で学ぶ動機，意欲，積極性等を評価します。	一般入試 社会人特別入試	全コース
			面接試験と推薦書によって、志望コースで学ぶ動機，意欲，積極性等を評価します。※	外国人留学生特別入試	生体医工学コース 健康機能分子科学コース
推薦入試		生体医工学コース 健康機能分子科学コース			

表1 アドミッション・ポリシーと評価方法の対応（募集要項案より抜粋）

2. 教育プログラム及び科目の構成

本研究科の教育プログラムは、下記の科目群から構成される。

(1) 大学院教養教育プログラム

大学院教養教育プログラムは、本学のすべての研究科が連携し大学院教養を意図して開設する科目群である。授業内容は、科学技術者として必要な倫理を学ぶ「研究・職業倫理特論」、情報化社会で必須となるセキュリティを学ぶ「情報セキュリティ特論」、IoT、AIやビッグデータの利活用について学ぶ「データサイエンス特論」を必修科目とし、グローバル社会において必要な英語及び文化、科学技術者として必要な倫理及び人権、企業人として必要なキャリア教育等を学ぶ選択科目からなる。本科目は自然科学系研究科共通科目の支援科目と位置付けている。

(2) 自然科学系研究科共通科目

理工学研究科、先進健康科学研究科、農学研究科との間で連携して開設する科目群で、企業人及び研究者として複眼的視点及び科学的思考を養うことを目的とする。授業科目は、必修科目である「創成科学融合特論」、「創成科学PBL特論」、「知的財産特論」、「理工学概論」、「医学・看護学概論」、「農学総合概論」及び選択科目である「創成科学インターンシップS」、「創成科学インターンシップL」と各専攻の専門内容に関する科目群から成る。選択科目からは1単位以上の修得を課しており、その科目の選択は、指導教員が学生の研究内容に応じて指導する。「創成科学融合特論」および「創成科学PBL特論」は、理工学研究科、先進健康科学研究科、農学研究科の3研究科が協力して実施する。これらの科目は、各研究科からの様々な専門分野の教員が担当し、受講する学生も、各研究科からの混成でクラスやグループを組む。創成科学融合特論では学生のプレゼンテーションやレポートを多様な観点から評価する。創成科学PBL特論では、教員のアドバイスの下で学生が主体的に決定したPBLの課題に取り組むことにより、学生の視野を広げる。

「創成科学融合特論」、「創成科学PBL特論」、「知的財産特論」、「創成科学インターンシップS」、「創成科学インターンシップL」、「理工学概論」、「医学・看護学概論」、「農学総合概論」の概要を次に示す。

・「創成科学融合特論」では学生グループでのアクティブ・ラーニングを行う。学生が自身の研究内容のプレゼンテーションを行い、他の学生はそのプレゼンテーションから研究概要をまとめる。これにより発表学生は自身の研究理解が深まり、また異分野の学生とのディスカッションによる新たな展開も期待される。一方、受講生は異なる分野のプレゼンテーションを聴講し、レポートとしてまとめることにより異分野の知識や考え方を理解し自分の研究に取り込むことで、複眼的視点から新しい展開が期待される【図3】。

・「創成科学PBL特論」では5名で1グループを形成し、このグループ内で実験、解析、演習、報告書作成などを実施する。3つの研究テーマに対して教員のサポートの元で研究を実施し、研究結果を解析・評価し、レポートとしてまとめ担当教員に提出する。この授業により、創造性、総合力、実践力、自主性を養う。また、異なる学問分野の高度な知識・技術が修得でき、科学的思考力も養うことができる【図4】。

・「知的財産特論」では、企業人として必須である知的財産（特許、実用新案、意匠、商標など）に係る知的財産制度の概要、特許明細書の書き方、登録の方法、権利の解釈、権利の活用法などについて講義及び演習で理解する。

・「創成科学インターンシップS」、「創成科学インターンシップL」では、海外を含む社会との繋がりにおける実践的教育としてインターンシップを単位として認定する科目であり、地方自治体、産業界や海外の大学等と連携・交流を図ることにより実務での課題解決や遂行能力を養い、自分の職業適性や将来計画などについて考える機会を提供する。創成科学インターンシップSでは、短期(7.5時間×5日以上10日未満)の就業体験や研究活動を通して、自らの実務における課題を見出す能力を養わせる。創成科学インターンシップLでは、長期(7.5時間×10日以上)の就業体験や海外の大学での研究活動の中で自らの実務における課題とその解決に向けて取り組む能力を養わせる。これによりインターンシップを通じた専門分野の連携の理解と人材育成を図る。インターンシップの評価は、学生が作成する報告書、受入先の評価票、インターンシップ報告会での発表内容と質疑応答に基づく評価事項を設けて適切に行う。

・「理工学概論」、「医学・看護学概論」、「農学総合概論」では、理工学、医学、看護学、農学それぞれの専門分野における最近の進歩・課題等を交えた多面的な概論を、研究科の学生全員にオムニバス方式で講義し、複眼的視点を身に付けさせる。学部で当該分野を学んでいない学生に対しては、講義を録画したDVD、あるいはe-ラーニングの活用による反復学習を行えるように配慮した上で、授業担当教員が十分なアドバイスをを行う機会を設けるなど、学修支援体制を充実させる。

創成科学融合特論

授業概要

- 3研究科混成の学生(50名程度)でクラス分け
- 各学生は自分の研究に関するプレゼンテーション(4名/1コマ)およびディスカッションを実施
- 聴講学生はディスカッションし、プレゼンテーション内容に自己調査を加え、レポートを提出

ねらい

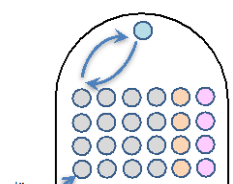
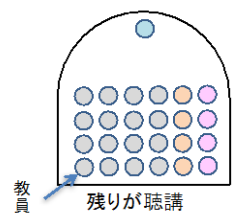
- プレゼンテーション学生は、異分野の学生に説明するための調査、水準の設定、発表内容の検討を通じて「教え方」を修得、かつ、自身の専門基礎を再認識
- 聴講学生は、プレゼンテーションのローテーションにより複数の異分野についての知識を修得し、分野の枠を越えた視点を涵養

運用と評価

- 教員は学生の作成したプレゼンテーション資料と内容をルーブリックで評価(評価A)
- 教員は聴講学生が作成したレポート(異なる分野の発表を3件選択)をルーブリックで評価(評価B)
- 評価AとBを総合して成績評価

第1回: 科目の説明, クラス分け

1名: 20分の発表



計13回の発表会

第15回レポートの作成

図3 創成科学融合特論の説明

創成科学PBL特論

授業概要

- 3研究科混成の5名でグループを構成しPBLを実施
- 実施時期: 1年前学期夏休み集中を基本
- PBLの課題: ゼミ参加, 実験見学や補助, 結果の整理や解析等を実施

ねらい

- 異なる分野の課題の解決により、科学的思考力を養い、分野の枠を越えた視点を身に付ける
- 科学的思考: 問題を把握し、その原因を調べる観察・実験を計画・実施し、観察・実験の結果などを考察し、科学概念を形成するとともに、既知の原理・法則などを基に、事象を論理的に説明すること

運用と評価

- PBLで実施する課題は教員のアドバイスの下で学生が主体的に決定
- クループ5名が協力して合計3つの課題を実施
- 学生は課題毎にPBL報告書作成とプレゼンテーションを実施
- 教員は、研究活動, PBL報告書, プレゼンテーションに対してルーブリックで評価

創成科学PBL特論実施イメージ

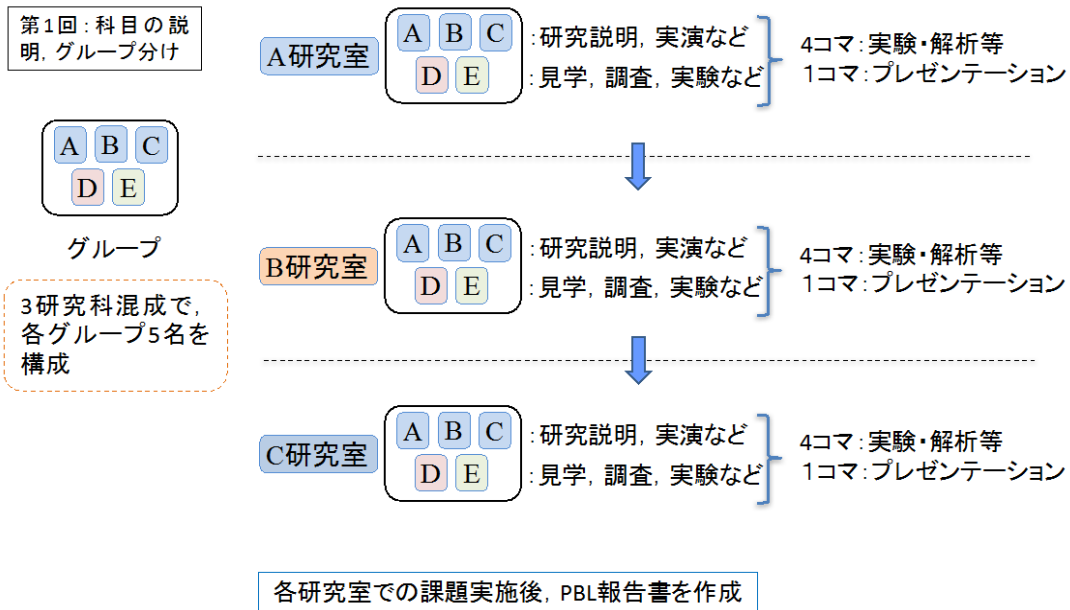


図4 創成科学PBL特論の説明

(3) 専攻共通科目

各コース間で連携して開設する科目群であり、日進月歩の学際領域である健康科学を様々な切り口から概観することで、その幅広さを認識し、多面的アプローチによる問題解決プロセスの重要性を学ぶことを目的とする。

(4) 専門科目

各コースにおける専門分野として開設する科目である。

特別研究Ⅰ～Ⅳは、専門分野の先端的研究課題を設定し、次の内容に従い段階的に実践教育する。

特別研究Ⅰ：専門分野の基礎的な知識・技術を修得する。

特別研究Ⅱ：さまざまな基礎的な知識・技術を融合して研究を計画・遂行する能力を養う。

特別研究Ⅲ：複眼的視点を交えて基礎的な知識・技術を統合し、創造性を発揮して研究テーマの解決に向け方策を組み立て、解析する能力を養う。

特別研究Ⅳ：特別研究Ⅲの解析結果を考察し、かつ説明する能力及び既存の知識並びに技術を進展させうる能力を養う。

(5) 科目の構成

これまでの教育科目及び科目群の位置づけを図5に示す。「大学院教養教育プログラム」を基礎的な学習レベルとし、次に「自然科学系研究科共通科目」の「理工学概論」、「医学・看護学概論」、「農学総合概論」で複眼的視点を身に付ける。特に、「創成科学融合特論」、「創成科学PBL特論」は“複眼的視点”と“科学的思考力”を涵養するもので、プログラムの中核を成すものである。「特別研究Ⅰ、Ⅱ」で専門の基礎を学び、「特別研究Ⅲ、Ⅳ」では「創成科学融合特論」及び「創成科学PBL特論」で学んだことを活用し、「専門科目」により各コースの専門的な内容を修得する。

創成科学融合特論、創成科学PBL特論、自然科学系研究科共通科目での他分野の内容を含む科目により、分野の枠を越えた知識および考え方を評価する。また、創成科学融合特論、創成科学PBL特論、修士論文等において、学生が自主的・主体的に取り組む姿勢、自分の考えをまとめ、文章で表現できる能力、考えを適切に伝えるためのプレゼンテーション能力、課題設定と課題解決の過程をルーブリックで評価する。

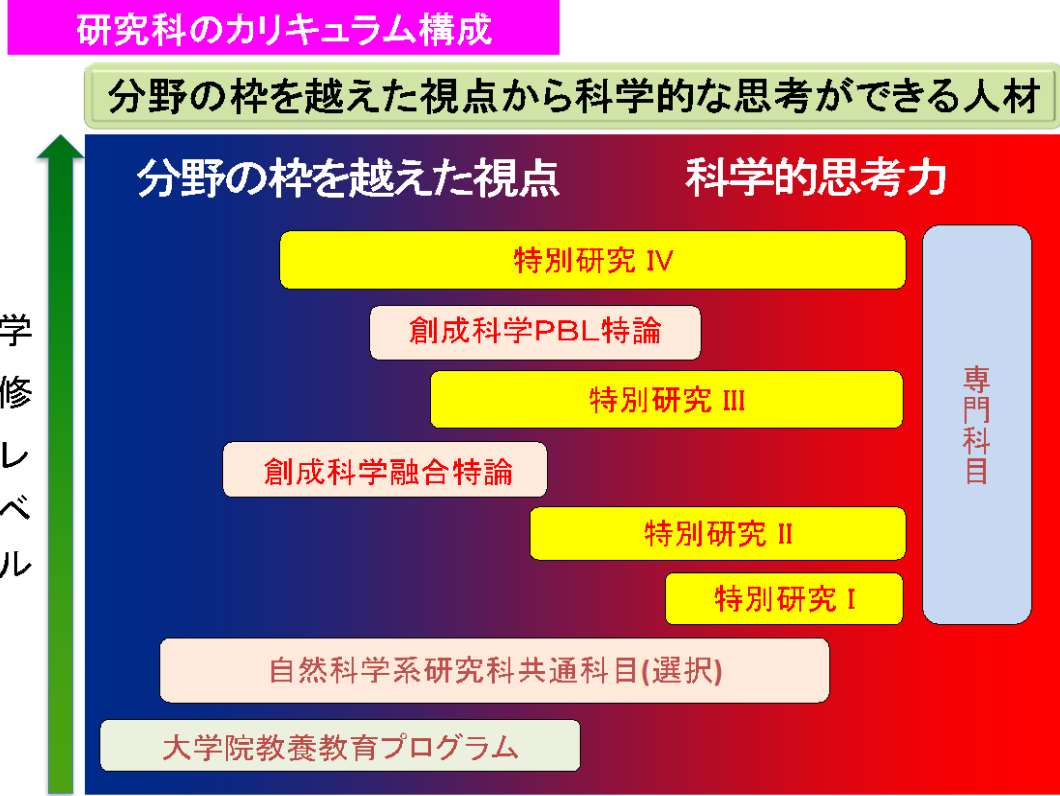


図5 カリキュラム構成

3. 教育上の工夫

(1) 先行履修認定制度

先進健康科学研究科進学予定者には大学院科目の先行履修を認めている。先行履修した学生が進学した場合、履修科目を修士単位として認定できるため時間的余裕が生じ、特別研究における更なる研究の推進や、専門科目や創成科学インターンシップ等の自然科学系研究科共通科目を数多く受講することができ、卓越した研究能力や、より幅の広い視点を身に付けることができる。

他大学から進学する学生は、先行履修認定制度を利用できないため、入学手続終了後すみやかにコース教員（主指導教員予定者）が、履修科目の選択、特別研究の研究課題の決定や研究推進において十分にアドバイスするとともに、創成科学インターンシップ等の履修により他の科目に影響する場合には、欠席分を補講で代替する等の配慮を行う。

(2) 教育の実施体制

研究科における共通体制を以下に示す。この体制を基本とし、各コースは独自のものを追加実施する。

- ① 研究科は、教育課程の編成・実施に関する課題分析及びその改善について検討し、研究科委員会で審議・決定し、これを実施する。
- ② 各学生に対し1年次より主指導教員1名、副指導教員1名を配置し、適切な指導が行われることを担保する。
- ③ 学期の初めと終わりに面談による履修指導を行い、その内容を主指導教員及び副指導教員がチェックし研究指導実施報告書として提出する。提出物を研究科長が点検し、問題がある場合には指導する。
- ④ カリキュラムの体系を示すために、科目間の関連や科目内容の難易度を表現するコースナンバリングを行い、カリキュラムの構造をわかりやすく明示する。
- ⑤ ルーブリックを用いて、2年間にわたる研究活動を総括的に評価する。

(3) 研究の指導体制

主指導1名と副指導1名の複数の教員による指導体制を採る。

受験生の入学手続き期間終了後、直ちに修士指導希望教員の調査を行い、主指導教員を仮決定する。その後、主指導教員予定者は研究課題に即した副指導教員を、本人の了解のもとで仮決定する。副指導教員については、例えば研究課題の専門性が非常に高い場合には自コースの教員から選出し、一方で医用関連のシステムなどの複合的領域の場合には、自コース以外（他研究科も含める）から選出する。最終的に、入学年度の4月に開催される研究科委員会において主指導教員1名、副指導教員1名を確定する。

全ての入学予定者について主指導教員と副指導教員を仮決定した後に、主指導教員と副指導教員が学生と相談の上、入学前年度の3月末までに研究課題を設定する。入学後の1年前学期は、学期始めに主指導教員は学生と面談し、副指導教員との協議の上で研究課題を確定し、5月中に研究指導計画を記載する。その後、学生は9月末までに1年前学期の研究実施報告を行う。主指導教員は学生と面談し、副指導教員との協議の上、10月末までに、1年前学期分の研究経過の点検・評価・助言および1年後学期の研究指導計画を行う。1年後学期は、コースの全教員体制で特別研究の中間発表を実施し、学生は3月末までに1年後学期の研究実施報告を行う。主指導教員は学生と面談し、副指導教員との協議の上、4月末までに1年後学期分の研究経過の点検・評価・助言および2年前学期の研究指導計画を行う。2年前学期は、学生は9月末までに2年前学期の研究実施報告を行う。主指導教員は学生と面談し、副指導教員との協議の上、10月末までに、2年前学期分の研究経過の点検・評価・助言および2年後学期の研究指導計画を行う。2年後学期は、学生は2月初旬までに修士論文を提出し、2月中旬にコースの全教員体制で修士論文の発表会を実施する。学生は2月中旬までに2年後学期の研究実施報告を行う。主指導教員は学生と面談し、副指導教員との相談の上、2月末までに2年後学期分の研究経過の点検・評価・助言を行う。これらの、主指導教員と副指導教員による研究指導計画と研究経過の点検・評価・助言、学生による研究指導報告は、全て、Web上の研究指導実施報告に記載する。

(4) 学位の授与

修士論文の学位審査は3名以上の審査員によって行う。主査は学生の所属するコースより選出し、副査は、修士論文の研究課題に応じて研究科内の他コースあるいは他研究科の教員を選出することができる。学位審査を希望する学生が申請した学位と称号について、学位審査会で最終試験と審査を実施した後、試験と審査の概要を研究科委員会に報告し、可否案を提案する。委員会はこの報告に基づき審議の上、学生が申請した学位と称号について可否を決定する。

(5) 転コース（転プログラム）について

1年次終了時点までの転コース（転プログラム）の要望に対しては、学生の意志を最大限に尊重する方針で対応する。転コースの場合、当該学生が受け入れを希望するコース教員間で、新たな主・副指導教員、研究テーマ等に関し、学生の意見を踏まえた上で速やかに協議・提案し、コース会議、研究科委員会の議を経て決定する。また、転コース先での学位取得に必要な専門科目、特別研究の履修によって、他の科目の受講に影響が出る場合には、欠席分を補講で代替する等、教員間で緊密な連携を取りつつ十分な配慮を行う。転プログラム（健康機能分子科学コース、医科学コースが該当）への対応も上記に準じるが、最終決定はコース会議に委ねられる。

【先進健康科学専攻の設置】

先進健康科学専攻は、工学系研究科先端融合工学専攻医工学コース、循環物質化学専攻（有機分野）、農学研究科生物資源科学専攻、医学系研究科医科学専攻、医学系研究科看護学専攻を統合し、生体医工学コース、健康機能分子科学コース、医科学コース及び総合看護科学コースの4コースで構成される。理工医農が有機的に連携する地域密着型の教育研究組織であり、健康科学分野における新時代の産業需要に対応する技術革新と医療及び看護を含む臨床現場での先端技術の総合的応用を目指す。

・各コースの特色

【生体医工学コース】

生体医工学コースでは、これまで積み重ねてきた生体計測と人体運動機能制御に関連する研究を融合発展させた研究を推進し、介護・リハビリテーション分野を中心とした臨床への展開を図る。その際、臨床のニーズを的確かつ迅速に取り込むために、本専攻の医科学コース、総合看護科学コースのみならず本学病院に設置されているロボットリハビリテーション外来と密接に連携する。また、専攻他コースと共同で、典型的な融合型産業である医工学に関連した製造・サービス業等で活躍する高度人材を養成する。さらには、総合看護科学コース及び医科学コースの学生に対して、機械工学や電子工学の学理及び先端技術の教授を通じて、主として前者においては患者介護、後者においてはリハビリテーションや医用電子機器・生命維持管理装置の使用について、確かな学問的バックグラウンドに基づく臨床プラクティスを可能とし、地域医療レベルの一段の底上げを目指すとともにコメディカル系人材を養成する。

(1) 学位授与の方針

専門分野の学問領域は、生体医工学の領域であり、生体医工学の各分野における問題を理解し、それらを解決するための論理を修得し、直面する諸問題を正確に理解し解決する能力を身につけている。

(2) 教育課程編成・実施の方針

1) 教育課程の編成

工学的な見地から医学・医療の発展を支える人材養成のために、機械工学、電気電子工学を基礎とした生体医工学に関するカリキュラムプログラムを配置する。

2) 教育・指導の方法

① 指導教員が、研究テーマの設定及び研究計画の立案に対して適切に指導を行い、修士論文作成に必要な専門知識や技術を修得するために研究指導を行う。

② 研究室のゼミ及び中間発表会、修論発表会などを開催し、プレゼンテーション技術の指導を行い、学会、研究集会などへの参加機会を積極的に提供する。

③ カリキュラムや教育内容の定期的な検討と改善を組織的に行う。

3) 教育課程の特色

先進健康科学専攻では、専攻共通科目(必修)として、「健康機能分子科学概論」、「生体医工学概論」、「臨床医学概論」、「国際看護学概論」を開講し、健康科学の根幹となる先進的な専門知識を教授する。また、各コースから提供される「生体機能代行装置学概論」、「生命科学倫理概論」等を専攻共通科目(選択)として配置し、幅広い専門性と先端分野への興味を涵養する。

「生体医工学コース」では、機械工学・電気電子工学を基盤とする知識や技術を健康科学の諸問題解決に応用できる能力を有する人材の育成のために、専門科目において「医工力学特論」、「医工計測工学特論」、「医工流体シミュレーション特論」、「医工システム制御特論」等の基礎的科目に加え、臨床を意識した応用的科目として、「バイオロボティクス特論」、「医療機器設計学特論」、「人体運動学特論」、「脳生体情報工学特論」等を開講する。これらの授業及び研究指導によって、健康科学に深い理解を有する、生体医工学関連産業や試験研究機関等で活躍できる高度専門職業人及び博士後期課程進学候補者を養成する。

4) 修了後の進路

- ・ 医工学に関連した製造・サービス業
- ・ 医療機関、医療従事者

【健康機能分子科学コース】

健康機能分子科学コースでは、理学・医学・農学を跨ぐ、先端健康科学とも呼べる融合領域の教育研究を推進する。近年、生命科学・ビッグデータ解析・ゲノム解析・システム生物学などの分野における技術革新により、先端健康科学を含む生命科学分野全体で、研究手法のパラダイムシフトが起こっている。そこで、理学、医学、農学の三者を跨ぐ融合領域での一丸となった教育体制により、新技術を活用した基礎研究を行い、食品や医療分野での応用を展開する総合的教育研究を推進する。より具体的には、基礎科学をベースにした生体分子の機能解明、機能性をもつ分子や細胞の開発・創成の基礎研究、ならびに、それらの生理機能の実証と強化の「橋渡し」による食品や医療分野での活用を目指した応用研究を展開する。本コースの教育課程は、融合的な共通教育を基盤とするとともに、理学、医学、農学分野の専門科目が体系的に配置されており、健康機能分子科学に関する幅広い専門を理解するとともに、それぞれの専門分野で実践力と強みを発揮する修士(理学、医科学、農学)の養成を目標としている。理学、医学、農学の融合した健康機能分子科学の先進性を経験するとともに、それぞれの深い専門を体系的に学ぶことで、新技術の台頭により予測される産業構造の変化に対応できる応用力ある人材、新産業の勃興に対応しうる先導的人材を養成する。

「理学」

(1) 学位授与の方針

専門分野の学問領域は、健康機能分子科学の領域であり、健康機能分子の物性に関する理学の問題を理解し、それらを解決するための論理を修得し、直面する諸問題を正確に理解し解決する能力を身につけている。

(2) 教育課程編成・実施の方針

1) 教育課程の編成

健康機能分子科学コースにおいては、理学、医学、農学を跨ぐ健康科学に関する学際的なカリキュラムプログラムを配置する。理学系、医学系、および農学系教員が開講する専門科目が体系的に配置されており、「健康機能分子科学コース(理学)」では、主として理学分野の科目を修了要件科目とする。

2) 教育・指導の方法

① 理学系の教員が主指導教員となり、研究テーマの設定及び研究計画の立案に対して適切に指導する。入学時に個別の履修計画及び研究指導計画を策定するなど、学生のニーズに則した研究指導を行う。

② 研究室のゼミ及び中間発表会、修論発表会などを開催し、プレゼンテーション技術の指導を行う。また、学会、研究集会などへの参加機会を積極的に提供する。

③ カリキュラムや教育内容の定期的な検討と改善を組織的に行う。

3) 教育課程の特色

先進健康科学専攻では、専攻共通科目(必修)として、「健康機能分子科学概論」、「生体医工学概論」、「臨床医学概論」、「国際看護学概論」を開講し、健康科学の根幹となる先進的な専門知識を教授する。また、各コースから提供される「生体機能代行装置学概論」、「生命科学倫理概論」等を専攻共通科目(選択)として配置し、幅広い専門性と先端分野への興味を涵養する。

健康機能分子科学コースでは、これら専攻共通科目の履修により、健康科学に関する幅広い基礎を学ぶとともに、理学系、医学系、および農学系教員が開講するコース専門科目を選択履修することで、健康機能分子に関する基礎から応用までの体系的な理解が深まる。さらに、「健康機能分子科学コース(理学)」では、理学系教員が開講する理学と健康科学の融合領域科目である、分子創薬学、生命物質化学を中心とし、専門科目における「分子創薬学特論Ⅰ、Ⅱ」、「生命物質化学特論Ⅰ、Ⅱ」などの開講科目により、健康機能分子の物性解析や化学合成に関する幅広い先端知識を活用する創造性を養う。また、理学系のコース教員が協力して実験を指導する「健康機能分子科学演習」や「健康機能分子科学特別演習B」により、健康機能分子の構造解析や機能活用に関する先端技術を修得することで、特に理学の専門性を深める。これらコース科目を体系的に履修することで、健康機能分子科学の基礎から応用までの「橋渡し」的な実践力や応用力を有し、特に理学の専門性に強みを発揮する修士(理学)として製薬企業等の健康科学分野の関連産業や試験研究機関等で活躍できる高度専門職業人及び博士後期課程進学候補者を養成する。

4) 修了後の進路

- ・健康関連産業、食品・医薬品産業の研究者
- ・医療機関、医療従事者
- ・科学技術ジャーナリスト

「農学」

(1) 学位授与の方針

専門分野の学問領域は、健康機能分子科学の領域であり、健康機能分子の生産と機能に関する農学の問題を理解し、それらを解決するための論理を修得し、直面する諸問題を正確に理解し解決する能力を身につけている。

(2) 教育課程編成・実施の方針

1) 教育課程の編成

健康機能分子科学コースにおいては、理学、医学、農学を跨ぐ健康科学に関する学際的なカリキュラムプログラムを配置する。理学系、医学系、および農学系教員が開講する専門科目が体系的に配置されており、「健康機能分子科学コース(農学)」では、主として農学分野の科目を修了要件科目とする。

2) 教育・指導の方法

- ① 農学系の教員が主指導教員となり、研究テーマの設定及び研究計画の立案に対して適切に指導する。入学時に個別の履修計画及び研究指導計画を策定するなど、学生のニーズに則した研究指導を行う。
- ② 研究室のゼミ及び中間発表会、修論発表会などを開催し、プレゼンテーション技術の指導を行う。また、学会、研究集会などへの参加機会を積極的に提供する。
- ③ カリキュラムや教育内容の定期的な検討と改善を組織的に行う。

3) 教育課程の特色

先進健康科学専攻では、専攻共通科目(必修)として、「健康機能分子科学概論」、「生体医工学概論」、「臨床医学概論」、「国際看護学概論」を開講し、健康科学の根幹となる先進的な専門知識を教授する。また、各コースから提供される「生体機能代行装置学概論」、「生命科学倫理概論」等を専攻共通科目(選択)として配置し、幅広い専門性と先端分野への興味を涵養する。

健康機能分子科学コースでは、これら専攻共通科目の履修により、健康科学に関する幅広い基礎を学ぶとともに、理学系、医学系、および農学系教員が開講するコース専門科目を選択履修することで、健康機能分子に関する基礎から応用までの体系的な理解が深まる。さらに、「健康機能分子科学コース(農学)」では、農学系教員が開講する農学と健康科学の融合領域科目である、タンパク質分子科学、天然物化学、生体防御機能学を中心とし、専門科目における「食品機能学特論」、「ゲノミクス特論」などの開講科目により、生物資源からの健康機能分子の調製や生理機能解析に関する幅広い先端知識を活用する創造性を養う。特に、農芸化学領域のうち、健康に関与する機能性分子の化学構造や機能解析等、分子をターゲットとした研究への専門性と能力を培う。また、農学系のコース教員が協力して実験を指導する「健康機能分子科学演習」や「健康機能分子科学特別演習A」により、バイオテクノロジーを活用した健康機能分子の食品や臨床での応用に関する先端技術を修得することで、特に農学の専門性を深める。これらコース科目を体系的に履修することで、健康機能分子科学の基礎から応用までの「橋渡し」的な実践力や応用力を有し、特に農学の専門性に強みを発揮する修士(農学)として食品企業等の健康科学分野の関連産業や試験研究機関等で活躍できる高度専門職業人及び博士後期課程進学候補者を養成する。

4) 修了後の進路

- ・健康関連産業、食品・医薬品産業の研究者
- ・試験場研究員

「医科学」

(1) 学位授与の方針

専門分野の学問領域は、健康機能分子科学の領域であり、健康機能分子の医療分野での応用に関する医科学の問題を理解し、それらを解決するための論理を修得し、直面する諸問題を正確に理解し解決する能力を身につけている。

(2) 教育課程編成・実施の方針

1) 教育課程の編成

健康機能分子科学コースにおいては、理学、医学、農学を跨ぐ健康科学に関する学際的なカリキュラムプログラムを配置する。理学系、医学系、および農学系教員が開講する専門科目が体系的に配置されており、「健康機能分子科学コース(医科学)」では、主として医学分野の科目を修了要件科目とする。

2) 教育・指導の方法

① 医学系の教員が主指導教員となり、研究テーマの設定及び研究計画の立案に対して適切に指導する。入学時に個別の履修計画及び研究指導計画を策定するなど、学生のニーズに則した研究指導を行う。

② 研究室のゼミ及び中間発表会、修論発表会などを開催し、プレゼンテーション技術の指導を行う。また、学会、研究集会などへの参加機会を積極的に提供する。

③ カリキュラムや教育内容の定期的な検討と改善を組織的に行う。

3) 教育課程の特色

先進健康科学専攻では、専攻共通科目(必修)として、「健康機能分子科学概論」、「生体医工学概論」、「臨床医学概論」、「国際看護学概論」を開講し、健康科学の根幹となる先進的な専門知識を教授する。また、各コースから提供される「生体機能代行装置学概論」、「生命科学倫理概論」等を専攻共通科目(選択)として配置し、幅広い専門性と先端分野への興味を涵養する。

健康機能分子科学コースでは、これら専攻共通科目の履修により、健康科学に関する幅広い基礎を学ぶとともに、理学系、医学系、および農学系教員が開講するコース専門科目を選択履修することで、健康機能分子に関する基礎から応用までの体系的な理解が深まる。さらに、「健康機能分子科学コース(医科学)」では、医学系教員が開講する医学と健康科学の融合領域のうち、特にヒトの健康に関わる物質を分子レベルで解析し、臨床医療での応用を目指す「橋渡し」的な融合分野において教育研究を行う。医科学の専門科目を選択必修とした上で、健康科学の先進的な融合領域である、分子遺伝学、生体分子機能学、分子生命科学を中心とし、専門科目における「生体防御学特論」などの開講科目により、健康機能分子の臨床応用に関する幅広い先端知識を活用する創造性を養う。また、医学系のコース教員が協力して実験を指導する「健康機能分子科学演習」や「健康機能分子科学特別演習C」により、健康機能分子の薬理の実証や医療素材としての応用に関する先端技術を修得することで、特に医学の専門性を深める。これらコース科目を体系的に履修することで、健康機能分子科学の基礎から応用までの「橋渡し」的な実践力や応用力を有し、特に医学の専門性に強みを発揮する修士(医科学)として医療機関、健康科学分野の関連産業や試験研究機関等で活躍できる高度専門職業人及び博士後期課程進学候補者を養成する。

4) 修了後の進路

- ・健康関連産業の研究者
- ・医療機関、医療従事者
- ・科学技術ジャーナリスト

【医科学コース】

医科学コースでは、理工学・農学とのフレキシブルな連携によってより幅広い専門知識と先進技術を修得させることで、学際的思考基盤を有する新世代の医療系生命科学者を養成する。特に、健康機能性素材・食品、組織再生工学、介護福祉など先端的な専門知識や技術により、これまでの医科学専攻修士課程単独では達成し得なかった、農学・理工学のバックボーンと学際的視点を有する人材輩出が可能となる。本コースの位置づけとして、主に基礎領域を担当する生体医工学との連携に基づき、実際の臨床現場への応用や生体適合性の検討など、応用分野に特化した領域を担うほか、医学は理工学・農学そして看護学すべてとつながりを有することから、ヒトを中心とする生命科学の重要な命題である新たなトランスレーショナルリサーチ分野の開拓にあたり、融合研究科の体制づくりに貢献することが期待される。

(1) 学位授与の方針

専門分野の学問領域は、医科学の領域であり、医科学に関連する問題を理解し、それらを解決するための論理を修得し、直面する諸問題を正確に理解し解決する能力を身につけている。

(2) 教育課程編成・実施の方針

1) 教育課程の編成

多様なバックグラウンドを持つ学生に医学の基礎的素養ならびに学際的領域への幅広い視野を涵養するカリキュラムを配置し、基礎生命科学、医療科学、総合ケア科学、がん地域医療の実践的な4つのプログラムで教育課程を編成する。

2) 教育・指導の方法

① 指導教員と学生が相談の上、個別の履修計画及び研究指導計画（コースワーク）を策定することで、指導学生のニーズに則した教育及び研究指導を行う。

② 別に定める必修科目と選択科目の授業を設け、それらを履修することにより医学の基礎知識と研究技能を修得させると同時に、研究室ゼミ等を開催し、少人数の対話・討論型教育及び個別指導に重点を置いた教育を行う。さらにプレゼンテーション技術についても随時指導を行い、国内外の学会、研究集会などへの参加の機会を積極的に提供することで、幅広い視野と専門領域における交流能力を育む。

③ カリキュラムや教育内容の定期的な検討と改善を組織的に行う。

3) 教育課程の特色

先進健康科学専攻では、専攻共通科目（必修）として、「健康機能分子科学概論」、「生体医工学概論」、「臨床医学概論」、「国際看護学概論」を開講し、健康科学の根幹となる先進的な専門知識を教授する。また、各コースから提供される「生体機能代行装置学概論」、「生命科学倫理概論」等を専攻共通科目（選択）として配置し、幅広い専門性と先端分野への興味を涵養する。

「医科学コース」では、専門科目として「分子生命科学概論」などの基礎医学教育、そして「臨床医学概論」などの臨床医学教育を早期に履修させることで、ヒトを対象とした次世代の生命研究を担う得る教養的基盤の完成を目指す。その上で高度な専門的理解を深めるための専門医科学特論を選択履修させることで、多様な生命科学関連分野への幅広い視野を育み、医学、生命科学、ヒューマンケアなど包括医療の諸分野において活躍できる課題解決能力に優れた人材ならびに博士後期課程進学候補者を養成する。

4) 修了後の進路

- ・ 医療機関、医療従事者
- ・ 健康関連産業の研究者
- ・ 科学技術ジャーナリスト

【総合看護科学コース】

総合看護科学コースでは、看護学領域にかかわる保健医療システムのめざましい変化や医療看護の高度化、多様化、国際化の社会変動に対応できるように、高い倫理観と幅広く深い学識を修得できる教育課程を編成し、看護を巡る現代の多様な課題に対して、これまでに無いユニークな視点・着想に基づいた総合的看護プログラムを構築してアプローチできる人材を養成する。

(1) 学位授与の方針

専門分野の学問領域は、看護学の領域であり、看護学に関連する問題を理解し、それらを解決するための論理を修得し、直面する諸問題を正確に理解し解決する能力を身につけている。

(2) 教育課程編成・実施の方針

1) 教育課程の編成

健康医療分野での新領域開拓に繋がる基礎から臨床までの幅広い先端技術を修得し、地域の医療レベル向上に貢献できる幅広い専門知識と実践力を身につけ、創造性の高い研究者及び看護職者を養成する。

2) 教育・指導の方法

① 指導教員と学生が相談の上、個別の履修計画及び研究指導計画（コースワーク）を策定し、学生のニーズに即した学習及び研究指導を行う。

② 講義による知識の学習と実験・実習による実証的学習、研究グループ内でのグループダイナミクスによる自己学習と問題解決法の獲得などをバランスよく組み合わせ、少人数の対話・討論型教育及び個別指導に重点を置いた教育を行う。また、国内外の学会・研究会等への参加を研究指導計画に盛り込み、積極的に参加させ、幅広い視野と専門領域における交流能力を育てる。

③ 学生にとって過度の負担とならないように、1単位の必修科目を同じコマ枠に連続して開講するなど、時間割編成には工夫を講じる（表2）。履修・学習時間の確保が困難な社会人学生に対しては、主指導教員は個々の学生の科目履修状況に合わせて特別研究の指導時間帯を設定する等、教育方法の特例を適用した柔軟な授業形態による履修を考慮する。また、大学院教養教育プログラム、自然科学系研究科共通科目、専攻共通科目については、講義を録画し、e-learningを活用した学習が可能となるよう教育指導の工夫を行う。

総合看護科学コース 履修例示モデル

		1限	2限	3限	4限	5限
		8:50～10:20	10:30～12:00	13:00～14:30	14:40～16:10	16:20～17:50
1 年 前 期	月	国際看護学概論 【医学・看護学概論】		看護研究概論		
	火		研究・職業倫理特論 【情報セキュリティ特論】	特別研究Ⅰ (2単位)	特別研究Ⅰ (1単位)	
	水	理工学概論 【農学総合概論】		臨床医学概論		
	木	創成科学融合特論		特別研究Ⅰ (2単位)		
	金		健康機能分子科学概論 【生体医工学概論】			
1 年 後 期	月		基礎看護学特論 【老年看護学特論】			
	火	精神看護学特論 【なし】		特別研究Ⅱ (2単位)	特別研究Ⅱ (1単位)	
	水		データサイエンス特論 【学術英語特論】	知的財産特論		
	木	看護倫理 【看護教育論】				
	金			特別研究Ⅱ (2単位)		
2 年 前 期	月	急性看護学特論 【コンサルテーション論】		看護統計学演習 【がん看護学特論】		
	火			特別研究Ⅲ (2単位)	特別研究Ⅲ (2単位)	
	水	慢性看護学特論				
	木			特別研究Ⅲ (2単位)	特別研究Ⅲ (2単位)	特別研究Ⅲ (2単位)
	金		看護教育方法論			
2 年 後 期	月					
	火			特別研究Ⅳ (2単位)	特別研究Ⅳ (2単位)	
	水					
	木			特別研究Ⅳ (2単位)	特別研究Ⅳ (2単位)	特別研究Ⅳ (2単位)
	金					

・赤字は必修科目、【 】内は、学期の後半に履修する科目を示す。
 ・創成科学PBL特論（必修2単位）は、1年次に集中講義の形式で開講される。

表2 総合看護科学コースにおける履修例示モデル（時間割表）

3) 教育課程の特色

先進健康科学専攻では、専攻共通科目(必修)として、「健康機能分子科学概論」、「生体医工学概論」、「臨床医学概論」、「国際看護学概論」を開講し、健康科学の根幹となる先進的な専門知識を教授する。また、各コースから提供される「生体機能代行装置学概論」、「生命科学倫理概論」等を専攻共通科目(選択)として配置し、幅広い専門性と先端分野への興味を涵養する。特に、「生体機能代行装置学特論」では、医用電子機器や生命維持管理装置等、看護臨床を支える理工学技術の最新理論と実践に触れることで、視野を広げることができる(図6)。

「総合看護科学コース」では、「看護倫理」、「看護研究概論」、「看護教育論」、「看護管理」、「コンサルテーション論」など看護学の基礎を学ぶ教育科目と、「基礎看護学特論」、「看護形態科学特論」、「老年看護学特論」、「がん看護学特論」などの専門科目の体系的履修により、豊かな学識と優れた技能を有し、国内及び国際的に看護学の教育、研究、実践の各分野で指導的役割を果たせる人材ならびに博士後期課程進学候補者を養成する。さらに、他コースの専門科目である「バイオロボティクス特論」、「ニューロリハビリテーション特論」、「生体防御学特論」、「食品機能学特論」等の履修は、医療・介護用ロボット、ICT技術、機能性食品の介護・福祉領域への活用など、看護をめぐる現代の多様な課題に対してユニークな視点・柔軟な発想をもたらす、融合的な研究推進のきっかけとなり得る。このように、理工学、農学分野を含めた異なる分野間の融合は、特に看護学領域において、これまでにないシナジー効果をもたらすことが大いに期待される(図6)。

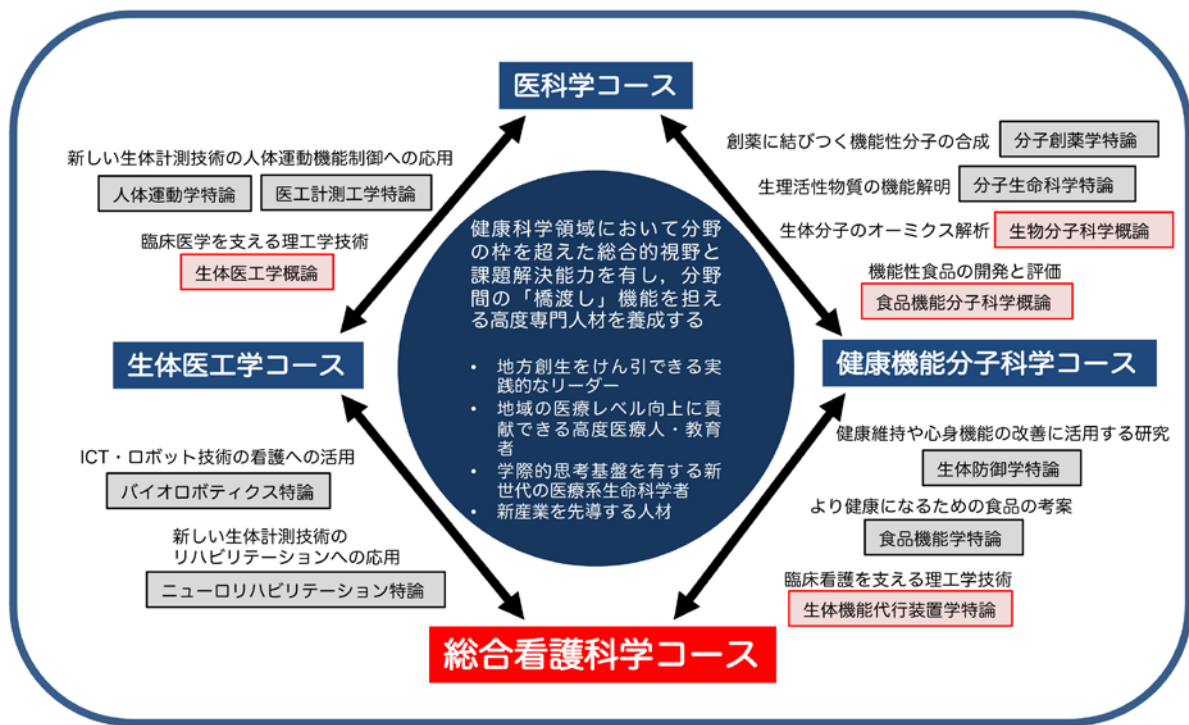


図6 総合看護科学コースに対する分野融合のシナジー効果

4) 修了後の進路

- ・ 医療機関, 医療従事者
- ・ 看護大学教員, 教育担当看護師, 看護管理者

修了要件及び履修方法	授業期間等	
<p>大学院先進健康科学研究科に2年以上在学し、大学院教養教育プログラム、自然科学系研究科共通科目、専攻共通科目及び専門科目の各条件を満たして、修得した単位の合計が60単位以上（医科学コースの統合的地域がん医療人養成プログラムのみ65単位以上）でかつ修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格すること。</p>	1 学年の学期区分	2 学期
<p>大学院設置基準第14条における教育方法の特例を実施する。</p>	1 学期の授業期間	1 5 週
<p>大学院教養教育プログラム及び自然科学系研究科共通科目の各修得条件は、以下の通りである。 ○大学院教養教育プログラムから必修科目3単位を含めて4単位以上。 ○自然科学系研究科共通科目から必修科目9単位を含めて10単位以上。</p>	1 時限の授業時間	9 0 分
<p>各コースの修了要件は、以下の通りである。 他研究科の専門科目、自然科学系研究科共通科目の修得要件を超えた選択科目及び他コースの授業科目を履修した場合、10単位を限度として各コースの選択科目の修了要件に含めることができる。</p> <p><生体医工学コース> ○専攻共通科目の必修科目4単位。 ○専門科目の必修科目30単位。 ○専攻共通科目の選択科目および専門科目の選択科目から12単位以上。</p>		

<健康機能分子科学コース>

- 専攻共通科目の必修科目4単位。
- 専門科目の必修科目30単位。
- 専攻共通科目の選択科目および専門科目の選択科目から12単位以上。
- 学位に付記する専攻分野の名称については、特別研究(I-IV)の研究内容及び履修科目を総合して判定する。それぞれの学位においては、以下の科目群から4単位以上を修得していること。

修士(理学)：生物分子科学概論，食品分子科学概論，分子創薬学特論Ⅰ，Ⅱ，生命錯体化学特論Ⅰ，Ⅱ，反応化学特論Ⅰ，Ⅱ，分光化学特論Ⅰ，Ⅱ，生命物質化学特論Ⅰ，Ⅱ，生命分析化学特論Ⅰ，Ⅱ，生命環境化学特論Ⅰ，Ⅱ

修士(農学)：生物分子科学概論，食品分子科学概論，タンパク質分子科学特論Ⅰ，Ⅱ，食品機能学特論，細胞膜機能科学特論，微生物生理学特論，微生物機能化学特論，植物生理学特論，植物機能分子学特論，植物分子科学特論，植物バイオテクノロジー特論，生体防御機能分子特論Ⅰ，Ⅱ，有機分子化学特論Ⅰ，Ⅱ，ゲノミクス特論，トランスクリプトミクス特論，感覚分子細胞学特論，動物分子ストレス科学特論，ケミカルバイオロジー特論Ⅰ，Ⅱ

修士(医科学)：人体構造機能学概論(必修)，生体機能代行装置学概論，生命科学倫理概論，食品機能分子科学概論，生物分子科学概論，分子生命科学特論，分子生化学特論，生体分子機能学特論Ⅰ，Ⅱ，生体防御学特論，生体機能制御学特論，実験動物学特論，動物発生工学特論，分子遺伝学特論，基礎腫瘍学特論

<医科学コース>

【プログラム共通】

- 自然科学系研究科共通科目の人体構造機能学概論1単位。
- 専攻共通科目の必修科目5単位。
- 専門科目Ⅰの必修科目(病因病態学概論，社会・予防医学概論，特別研究Ⅰ～Ⅳ)32単位。

【基礎生命科学・臨床医学・総合ケア科学系プログラム】

- 専攻共通科目の選択科目及び専門科目Ⅰの選択科目から9単位以上。

・なお，以下の科目を修得していること。

基礎生命科学系プログラム：分子生命科学概論

総合ケア科学系プログラム：総合ケア科学概論

【統合的地域がん医療人育成プログラム】

- 専攻共通科目の選択科目及び専門科目Ⅰの選択科目から臨床腫瘍学概論，臨床腫瘍学，医用統計学特論を含め5単位以上。
- 専門科目Ⅱの必修科目(臨床腫瘍治療実習Ⅰ～Ⅵ)6単位及び選択科目から3単位(1科目)以上。

<総合看護科学コース>

- 専攻共通科目の必修科目4単位。
- 専門科目の必修科目30単位。
- 専攻共通科目の選択科目および専門科目の選択科目から12単位以上。

教 育 課 程 等 の 概 要

【既設】 (工学系研究科 数理科学専攻)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
基礎教育科目 専門科目 専門教育科目	代数学特論Ⅰ	1・2前	2			○			1							
	幾何学特論Ⅰ	1・2前	2			○			1							
	解析学特論Ⅰ	1・2前	2			○			1							
	小計 (3科目)	—	6	0	0	—			3	0	0	0	0			
	代数学特論Ⅱ	1・2後		2		○				1						
	代数学特論Ⅲ	1前		2		○				1						
	代数学特論Ⅳ	2前		2		○					1					
	幾何学特論Ⅱ	1・2後		2		○						1				
	多様体特論Ⅰ	1前		2		○				1						
	多様体特論Ⅱ	2前		2		○				1						
	解析学特論Ⅱ	1前・2後		2		○					1					
	関数方程式特論Ⅰ	1・2後		2		○						1				
	応用数学特論Ⅰ	2後		2		○				1						
	応用数学特論Ⅱ	1後		2		○				1						
	確率数学特論Ⅰ	2前		2		○					1					
	数理科学特別講義Ⅰ	2後		2		○									兼1 集中	
	数理科学特別講義Ⅱ	1後		2		○									兼1 集中	
	数理科学セミナーⅠ	1・2前	2					○		5						
	数理科学セミナーⅡ	1・2後	2					○		5						
	数理科学セミナーⅢ	1・2前	2					○		5						
数理科学セミナーⅣ	1・2後	2					○		5							
小計 (17科目)	—	—	8	26	0	—			5	4	2	0	0	兼2	—	
研究科間共通科目	学術英語特論	1・2前・後		2		○						1			兼3	
	職業倫理特論	1・2前・後		2		○									兼2	
	ビジネスマネージメント特論	1・2後		2		○									兼1 集中	
	数値計算法特論	1・2通		4		○									兼3 集中	
	産学連携特論	1・2後		2		○			1							
	情報セキュリティ特論	1・2前		2		○									兼1 集中	
	人権教育特論	1・2前		2		○			1							
	プレゼンテーション英語特論	1・2前		2		○			1						集中	
小計 (8科目)	—	—	0	18	0	—			3	0	1	0	0	兼10	—	
合計 (28科目)		—	—	14	44	0	—			8	0	1	0	0	兼12	—
学位又は称号		修士 (理学)		学位又は学科の分野				理学関係								

教 育 課 程 等 の 概 要

【既設】 (工学系研究科 物理科学専攻)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎教育科目	量子力学	1・2前	2			○			1						
	統計力学	1・2前	2			○			1						
	小計 (2科目)	—	4	0	0	—			1	0	0	0	0		
専門科目	専門教育科目	数理物理学特論	1・2前		2		○			1					
		場の理論	1・2後		2		○			1					
		素粒子物理学	1・2後		2		○			1					
		宇宙物理学特論	1・2後		2		○				1				
		高エネルギー特論Ⅰ	1前		2		○				1				
		高エネルギー特論Ⅱ	1・2後		2		○			1					
		量子力学特論Ⅰ	1・2前		2		○				1				
		量子力学特論Ⅱ	1・2後		2		○			1					
		物性物理学特論Ⅰ	1・2前		2		○				1				
		凝縮系物理学特論	1・2前		2		○				1				
		低温物理学特論	1後		2		○				1				
		超伝導体物理学特論	1・2後		2		○			1					
		量子光学	1・2後		2		○			1					
		シンクロトロン光応用物理学特論	1・2前		2		○								兼1
		宇宙論セミナーⅠ	1・2前		4				○	1	1				
		宇宙論セミナーⅡ	1・2後		4				○	1	1				
		ハドロン物理セミナーⅠ	1・2前		4				○	1	1				
		ハドロン物理セミナーⅡ	1・2後		4				○	1	1				
		素粒子論セミナーⅠ	1・2前		4				○	2					
		素粒子論セミナーⅡ	1・2後		4				○	2					
		高エネルギー物理セミナーⅠ	1・2前		4				○	1	1				
		高エネルギー物理セミナーⅡ	1・2後		4				○	1	1				
		物性物理セミナーⅠ	1・2前		4				○	1	2				
物性物理セミナーⅡ	1・2後		4				○	1	2						
量子干渉物理セミナーⅠ	1・2前		4				○	1							
量子干渉物理セミナーⅡ	1・2後		4				○	1							
シンクロトロン光応用物理セミナーⅠ	1・2前		4				○						兼1		
シンクロトロン光応用物理セミナーⅡ	1・2後		4				○						兼1		
	小計 (28科目)	—	0	84	0	—			7	5	0	0	0	兼1	—
研究科間共通科目	学術英語特論	1・2前・後		2		○					1			兼3	
	職業倫理特論	1・2前・後		2		○								兼2	
	ビジネスマネジメント特論	1・2後		2		○								兼1	集中
	数値計算法特論	1・2通		4		○								兼3	集中
	産学連携特論	1・2後		2		○			1						
	情報セキュリティ特論	1・2前		2		○								兼1	集中
	人権教育特論	1・2前		2		○			1						
	プレゼンテーション英語特論	1・2前		2		○			1						集中
	小計 (8科目)	—	0	18	0	—			3	0	1	0	0	兼10	—
合計 (38科目)		—	4	102	0	—			10	5	1	0	0	兼11	—
学位又は称号	修士 (理学)		学位又は学科の分野			理学関係									

教 育 課 程 等 の 概 要

【既設】 (工学系研究科 知能情報システム学専攻)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
基礎教育科目	情報セキュリティ・倫理特論	1・2後	2			○				1					兼1	
	計算機アルゴリズム特論	1・2前	2			○				1					兼1	
	ソフトウェア設計特論	1・2後	2			○				1	1					
	小計 (3科目)	—	6	0	0	—	—	—	—	1	2	1	0	0	兼2	
専門科目	専門教育科目	情報数理構造特論	1後		2	○					1					
		情報離散数理特論	2後		2	○					1					
		言語処理系特論	1前		2	○					1					
		情報数理特論	2後		2	○					1					
		構造化プログラミング特論	1前		2	○					1					
		線形計算特論	2前		2	○					1					
		オブジェクト指向プログラミング特論	1前		2	○					1					
		コンピュータアーキテクチャ特論	1前		2	○					1					
		オペレーティングシステム特論	2前		2	○					1					
		ネットワーク指向システム特論	2前		2	○										兼1
		情報ネットワーク特論	1前		2	○					1					
		情報可視化特論	1後		2	○					1					
		知覚情報処理特論	2後		2	○					1					
		知的システム特論	2前		2	○					1					
		人工知能特論	1前		2	○					1					
		データベース特論	2前		2	○							1			
		ソフトウェアモデリング特論	1後		2	○						1				
		計算科学特論	2後		2	○										兼1
		認知モデル特論	1・2後		2	○					1					集中
		機械学習特論	2前		2	○						1				
		学習システム特論	1後		2	○						1				
		知能情報システム学特別セミナーⅠ	1・2前	2					○		1					
知能情報システム学特別セミナーⅡ	1・2後	2					○		1							
知能情報システム学特別講義	1・2前・後	2				○			1							
小計 (24科目)	—	—	4	44	0	—	—	—	—	7	5	1	0	0	兼2	
研究科間共通科目	学術英語特論	1・2前・後		2		○						1			兼3	
	職業倫理特論	1・2前・後		2		○									兼2	
	ビジネスマネジメント特論	1・2後		2		○									兼1 集中	
	数値計算法特論	1・2通		4		○									兼3 集中	
	産学連携特論	1・2後		2		○				1						
	情報セキュリティ特論	1・2前		2		○									兼1 集中	
	人権教育特論	1・2前		2		○				1						
	プレゼンテーション英語特論	1・2前		2		○				1					集中	
小計 (8科目)	—	—	0	18	0	—	—	—	—	3	0	1	0	0	兼10	
合計 (35科目)		—	—	10	62	0	—	—	—	10	5	2	0	0	兼14	
学位又は称号	修士 (理学)		学位又は学科の分野			理学関係										

教 育 課 程 等 の 概 要

【既設】 (工学系研究科 循環物質化学専攻)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
基礎教育科目	基礎無機化学特論	1・2前	2			○			2							
	基礎有機化学特論	1・2後	2			○			4	1						
	基礎物理化学特論	1・2前	2			○			2	3						
	基礎反応化学特論	1・2後	2			○			2	2					兼1	
	小計 (4科目)	—	8	0	0	—	—	—	10	6	0	0	0		兼1	
専門科目	専門教育科目	無機構造化学特論	1・2後		2		○			1						
		反応有機化学特論	1・2前		2		○			1						
		分子会合化学特論	2前		2		○			1						
		物性構造化学特論	2前		2		○			1						
		物質環境化学特論	1・2後		2		○									兼1
		反応器設計特論	1前		2		○			1						
		生命錯体化学特論	1・2後		2		○			1						
		電子セラミックス工学特論	1・2前		2		○				1					
		グリーンケミストリー特論	1・2後		2		○			1						
		高分子物性特論	1・2後		2		○			1						
		生命物質化学特論	1・2後		2		○			1						
		電子機能材料工学特論	2前		2		○				1					
		地球循環化学特論	2後		2		○				1					
		物質循環工学特論	1・2前		2		○				1					
		物質分析化学特論	1前		2		○			1						
		環境超微量分析化学特論	1・2後		2		○				1					
		高温化学特論	1・2前		2		○				1					
		循環物質化学特別講義Ⅰ	1・2後		2		○			1						集中
		循環物質化学特別講義Ⅱ	1・2後		2		○				1					集中
		循環物質化学インターンシップ特論	1・2前・後		1		○			1						
		循環物質化学セミナー	1・2前・後		2				○	10	6					
		循環物質化学特別実習・演習Ⅰ	1・2前		2				○	10	6					
		循環物質化学特別実習・演習Ⅱ	1・2後		2				○	10	6					
		循環物質化学特別実習・演習Ⅲ	1・2前		2				○	10	6					
	小計 (24科目)	—	6	41	0	—	—	—	10	6	0	0	0		兼1	
研究科間共通科目	学術英語特論	1・2前・後		2		○					1				兼3	
	職業倫理特論	1・2前・後		2		○									兼2	
	ビジネスマネジメント特論	1・2後		2		○									兼1 集中	
	数値計算法特論	1・2通		4		○									兼3 集中	
	産学連携特論	1・2後		2		○			1							
	情報セキュリティ特論	1・2前		2		○									兼1 集中	
	人権教育特論	1・2前		2		○			1							
	プレゼンテーション英語特論	1・2前		2		○			1						集中	
	小計 (8科目)	—	0	18	0	—	—	—	3	0	1	0	0		兼10	
合計 (36科目)		—	14	59	0	—	—	—	13	6	1	0	0		兼11	
学位又は称号	修士 (理学) 修士 (工学)		学位又は学科の分野				理学関係 工学関係									

教 育 課 程 等 の 概 要

【既設】 (工学系研究科 機械システム工学専攻)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎教育科目	熱流体力学特論	1・2前	2			○			1						兼1
	機械設計特論	1・2前	2			○			3	6					
	小計 (2科目)	—	4	0	0	—			4	6	0	0	0	兼1	
専門科目	流体力学特論	1・2後		2		○			1						兼1 集中
	流体力学特論	1・2前		2		○									
	流体機械特論	1・2後		2		○				1					兼1 集中
	流動システム工学特論	1・2後		2		○									兼1 集中
	海洋流体力学特論	1・2前		2		○									兼1 集中
	熱輸送工学特論	1・2前		2		○					1				兼1 集中
	熱工学特論	1・2後		2		○									兼1 集中
	熱力学特論	1・2後		2		○				1					兼1 集中
	伝熱工学特論	1・2後		2		○			1						兼1 集中
	エネルギー変換特論	1・2後		2		○									兼1 集中
	熱物質移動工学特論	1・2前		2		○					1				兼1 集中
	固体力学特論	1前		2		○			1						兼1 集中
	材料力学特論	1・2前		2		○			1						兼1 集中
	計算力学特論	1・2後		2		○					1				兼1 集中
	材料強度学特論	1・2前		2		○					1				兼1 集中
	機械材料学特論	1・2前		2		○					1				兼1 集中
	表面工学特論	1・2前		2		○					1				兼1 集中
	精密機器工学特論	1・2前		2		○			1						兼1 集中
	生産加工学特論	1・2前		2		○					1				兼1 集中
	潤滑工学特論	1・2後		2		○					1				兼1 集中
	機械力学特論	1・2後		2		○			1						兼1 集中
	ロボット工学特論	1・2後		2		○			1						兼1 集中
	計測制御特論	1前		2		○					1				兼1 集中
	応用力学特論	2前		2		○					1				兼1 集中
	機械インターンシップ	1・2前・後		1		○			1						兼1 集中
	機械システム工学特論 I	1・2後		2		○			1						兼1 集中
	小計 (26科目)	—	0	51	0	—			7	9	1	0	0	兼5	—
研究科間共通科目	学術英語特論	1・2前・後		2		○					1				兼3 集中
	職業倫理特論	1・2前・後		2		○									兼2 集中
	ビジネスマネジメント特論	1・2後		2		○									兼1 集中
	数値計算法特論	1・2通		4		○									兼3 集中
	産学連携特論	1・2後		2		○			1						兼1 集中
	情報セキュリティ特論	1・2前		2		○									兼1 集中
	人権教育特論	1・2前		2		○			1						兼1 集中
	プレゼンテーション英語特論	1・2前		2		○			1						兼1 集中
	小計 (8科目)	—	0	18	0	—			3	0	1	0	0	兼10	—
合計 (36科目)		—	4	69	0	—			10	9	2	0	0	兼15	—
学位又は称号	修士 (工学)		学位又は学科の分野				工学関係								

教 育 課 程 等 の 概 要

【既設】 (工学系研究科 電気電子工学専攻)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎教育科目	電気電子工学特論	1・2前	2			○			3	1					兼4
	応用電気電子工学特論	1・2後	2			○			1	4					兼3
	小計 (2科目)	—	4	0	0	—			4	5	0	0	0		兼7
専門科目	電気電子実務者教育特論	1・2後		2		○			1						兼1
	超短波長光利用科学技術工学特論	1・2後		2		○				1					
	計算論的知能工学特論	1・2後		2		○				1					
	グラフィカル・ユーザ・インターフェース特論	1・2後		2		○			1						
	適応システム特論	1・2後		2		○				1					
	プロセスプラズマ工学特論	1・2後		2		○			1						
	パルスパワー工学特論	1・2後		2		○				1					
	電力システム工学特論	1・2後		2		○			1						
	光量子エレクトロニクス特論	1・2前		2		○									兼1
	集積回路プロセス工学特論	1・2前		2		○			1						
	高周波回路設計特論	1・2後		2		○				1					
	マイクロ波集積回路特論	1・2前		2		○			1						
	電子情報システム設計特論	1・2前		2		○				1					
	システムLSI回路設計特論	1・2前		2		○				1					
	脳型情報処理特論	1・2後		2		○				1					
	情報通信ネットワーク特論	1・2前		2		○			1						
	電気電子工学特別セミナー	1・2前	2					○	6	7					
	電気電子工学専攻特別講義	1・2通		2				○							兼1 集中
	電気電子工学専攻特別演習A	1・2後	2					○	6	7					
	電気電子工学専攻特別演習B	1・2前	2					○	6	7					
	電気電子工学専攻特別演習C	1・2後	2					○	6	7					
	小計 (21科目)	—	8	34	0	—			6	7	0	0	0	兼3	—
研究科間共通科目	学術英語特論	1・2前・後		2		○					1				兼3
	職業倫理特論	1・2前・後		2		○									兼2
	ビジネスマネジメント特論	1・2後		2		○									兼1 集中
	数値計算法特論	1・2通		4		○									兼3 集中
	産学連携特論	1・2後		2		○			1						
	情報セキュリティ特論	1・2前		2		○									兼1 集中
	人権教育特論	1・2前		2		○			1						
	プレゼンテーション英語特論	1・2前		2		○			1						集中
	小計 (8科目)	—	0	18	0	—			3	0	1	0	0	兼10	—
合計 (31科目)		—	12	52	0	—			9	7	1	0	0	兼20	—
学位又は称号	修士 (工学)	学位又は学科の分野			工学関係										

教 育 課 程 等 の 概 要

【既設】 (工学系研究科 都市工学専攻)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎教育科目	文献調査研究	1・2前	2			○			7	8					集中
	都市工学コロキウム	1・2後	2			○			1						
	小計 (2科目)	—	4	0	0	—			7	8	0	0	0		
専門科目	都市工学特別演習	1・2前		2			○		2	1					
	地震工学特論	1後		2			○		1						
	構造工学特論	2後		2			○		1						
	計算力学特論	1前		2			○		1						
	応用力学特論	2前		2			○		1						
	建設材料学特論	1後		2			○		1						
	維持管理工学特論	2後		2			○		1						
	防災地盤工学特論	1前		2			○								兼1
	低平地地圏環境学特論	2前		2			○								兼1
	環境地盤工学特論	1前		2			○		1						
	地盤動力学特論	1・2前		2			○			1					
	地盤工学特論	2前		2			○								兼1
	土質力学特論	1前		2			○								兼1
	応用流体力学特論	1・2前・後		2			○				1				
	水環境情報学特論	1前		2			○			1					
	水工学特論	2前		2			○			1					
	水環境システム工学特論	1・2前		2			○				1				
	水環境管理工学特論	1・2前		2			○					1			
	水処理工学特論	1後		2			○			1					
	環境輸送特論	2前		2			○								兼1
	低平地水圏環境学特論	1前		2			○								兼1
	都市構成システム論	1・2後		2			○				1				
	国際都市・環境特別演習 (都市・環境工学)	1・2後		2				○			2				集中
	国際都市・環境特別演習 (建築・都市デザイン)	1・2通		2				○		1	1				集中
	都市環境性能特論	1前		2				○			1				
	都市環境演習	2後		2					○		1				
	建築・都市デザイン特別演習 I	1・2前		3					○		1				
	都市デザイン論	2前		2					○		1				
	建築空間計画特論	1・2前・後		2					○		1				
	建築・都市デザイン特別演習 II	1・2後		3							1				
	住環境論	1前		2					○			1			
	建築環境工学特論	2前		2					○		1				
建築デザイン論	2前		2					○			1				
建築環境設計特論	1前		2					○			1				
建築環境設計特別演習	1・2後		2						○	1	1				
地域デザイン特別演習	1・2後		2						○		1				
建築特別インターンシップ I	1・2前		2						○	1	2			集中	
建築特別インターンシップ II	1・2前		2						○	1	2			集中	
	小計 (38科目)	—	0	78	0	—			7	8	1	0	0	兼3	—
研究科目	学術英語特論	1・2前・後		2				○				1			兼3
	職業倫理特論	1・2前・後		2				○							兼2
	ビジネスマネジメント特論	1・2後		2				○							兼1 集中
	数値計算法特論	1・2通		4				○							兼3 集中

開 共 通 科 目	産学連携特論	1・2後		2		○			1								
	情報セキュリティ特論	1・2前		2		○											兼1 集中
	人権教育特論	1・2前		2		○			1								
	プレゼンテーション英語特論	1・2前		2		○			1								集中
	小計 (8科目)	—	0	18	0	—			3	0	1	0	0				兼10 —
	合計 (48科目)	—	4	96	0	—			10	8	2	0	0				兼13 —
学位又は称号		修士 (工学)		学位又は学科の分野				工学関係									

教 育 課 程 等 の 概 要

【既設】 (工学系研究科 先端融合工学専攻)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎教育科目	プロジェクトスタディ	1・2通	2			○			1						集中
	医学概論	1・2前		2		○			1						
	医工センシング特論	1・2前		2		○			1						
	医用信号解析特論	1・2前		2		○									兼1
	先端無機化学特論	1・2前		2		○			1	1					
	先端有機化学特論	1・2後		2		○			2	1					
	小計 (6科目)	—	2	10	0	—			6	2	0	0	0		兼1
専攻共通科目	融合数学特論	2前		2		○									兼3
	融合物理学特論	2後		2		○									兼1
	融合機械工学特論	2前		2		○									兼5
	融合電気電子工学特論	1前		2		○									兼5
	融合循環物質化学特論	1前		2		○									兼2
	融合都市工学特論	2後		2		○									兼4
	融合情報工学特論	1後		2		○									兼1
	先端融合工学特別講義Ⅰ	1・2後		2		○			1						
	先端融合工学特別講義Ⅱ	1・2前・後		2		○			1						
	先端融合工学セミナー	1・2前・後		2			○		3	2					
	先端融合インターンシップ特論	1・2前・後		1		○		○	9	8					兼6
	先端融合工学特別実習・演習Ⅰ	1・2前	2					○	9	8					兼6
	先端融合工学特別実習・演習Ⅱ	1・2後	2					○	9	8					兼6
先端融合工学特別実習・演習Ⅲ	1・2前	2					○	9	8					兼6	
	小計 (14科目)	—	6	21	0	—			9	8	0	0	0		兼21
	医工材料力学特論	2後		2		○									兼1
	医工ロボティクス特論	1・2後		2		○			1						
	医工制御特論	2前		2		○									兼1
	医工力学特論	1・2前		2		○				1					
	医工流体機器特論	1・2前		2		○			1						
	医工流体応用学特論	1・2後		2		○				1					
	医工数値流体工学特論	1・2前		2		○				1					
	医工トライボロジー特論	1後		2		○									兼1
	医工伝熱特論	1後		2		○									兼1
	医用統計学特論	1・2後		2		○			1						
	医用数値解析特論	1・2前		2		○			1						
	医用電磁気学特論	2後		2		○			1						
	医用システム制御工学特論	1前		2		○			1						
	医用計測工学特論	1・2前		2		○				1					
	脳生体情報工学特論	1・2後		2		○									兼1
	医用画像処理工学特論	1・2前		2		○				1					
	バイオメディカルフォトンクス特論	1・2前		2		○				1					
	小計 (17科目)	—	0	34	0	—			6	6	0	0	0		兼5
専門教育科目	先端無機材料工学特論	1・2前		2		○			1						
	先端有機材料工学特論	1・2前		2		○			1						
	先端機能分子特論	1・2前		2		○				1					
	先端物性化学特論	1・2後		2		○			1						
	先端物性工学特論	1・2後		2		○				1					
	先端生命化学特論	1後		2		○									兼1

(機能材料工学コース科目)	先端物質生産化学特論	1後		2		○								兼1	
	先端分離工学特論	2前		2		○								兼1	
	先端複合材料工学特論	2後		2		○								兼1	
	先端分析化学特論	2前		2		○								兼1	
	セラミックス機能発現学特論	1後		2		○								兼1	
	高温構造材料工学特論	2後		2		○								兼1	
	耐熱材料設計学特論	2前		2		○								兼1	
	機能性分子集積化技術特論	2後		2		○								兼1	
	天然高分子系機能材料特論	2前		2		○								兼1	
	粉末冶金工学特論	1後		2		○								兼1	
	小計 (16科目)	—	0	32	0	—			3	2	0	0	0	兼11	—
研究科間共通科目	学術英語特論	1・2前・後		2		○				1				兼3	
	職業倫理特論	1・2前・後		2		○								兼2	
	ビジネスマネージメント特論	1・2後		2		○								兼1	集中
	数値計算法特論	1・2通		4		○								兼3	集中
	産学連携特論	1・2後		2		○		1							
	情報セキュリティ特論	1・2前		2		○								兼1	集中
	人権教育特論	1・2前		2		○		1							
	プレゼンテーション英語特論	1・2前		2		○		1							集中
小計 (8科目)	—	0	18	0	—		3	0	1	0	0	0	兼10	—	
合計 (61科目)		—	8	115	0	—		12	8	1	0	0	0	兼44	—
学位又は称号	修士 (学術) 修士 (理学) 修士 (工学)	学位又は学科の分野				理学関係 工学関係									

教 育 課 程 等 の 概 要

【既設】 (農学研究科 生物資源科学専攻)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
研究科間共通科目	学術英語特論	1・2前・後		2		○									兼4
	職業倫理特論	1・2前・後		2		○									兼2
	ビジネスマネジメント特論	1・2後		2		○									兼1 集中
	数値計算法特論	1・2前・後		4		○									兼3 集中
	産学連携特論	1・2後		2		○									兼1
	情報セキュリティ特論	1・2前		2		○									兼1 集中
	人権教育特論	1・2前		2		○									兼1
	プレゼンテーション英語特論	1・2前		2		○									兼1 集中
小計(8科目)	—	0	18	0	—			0	0	0	0	0	0	兼10	—
専攻共通科目	農学総合講義	1・2前	2			○			8	3					
	小計(1科目)	—	2	0	0	—			8	3	0	0	0	—	—
基礎教育科目	応用生物科学特論	1・2前		1		○			1	3					
	生物環境保全学特論	1・2前		1		○			2	4					兼1
	作物生産学特論	1・2後		1		○			1						
	生命機能科学特論	1・2前		1		○			8	3					
	農業経済学特論	1・2前		1		○			1						
	小計(5科目)	—	0	5	0	—			13	10	0	0	0	—	—
専門科目 応用生物学コース科目	熱帯農業資源学特論	1・2前		1		○			1						
	熱帯資源植物利用学特論	1・2前		1		○			1						
	熱帯作物改良学特論	1・2後		1		○				1					
	熱帯作物生理学特論	1・2後		1		○				1					
	動物資源開発学特論	1・2後		1		○			1						
	動物ゲノム情報学特論	1・2後		1		○			1						
	動物発生学特論	1・2後		1		○				1					
	動物繁殖生理学特論	1・2後		1		○				1					
	植物機能学特論	1・2後		1		○			1						
	植物代謝先端科学特論	1・2後		1		○			1						
	蔬菜花卉園芸学特論	1・2後		1		○			1						
	園芸植物資源開発学特論	1・2後		1		○			1						
	花卉園芸学特論	1・2前		1		○				1					
	植物系統分類学特論	1・2前		1		○				1					
	果樹育種学特論	1・2前		1		○				1					
	果樹遺伝学特論	1・2前		1		○				1					
	植物ゲノム育種学特論	1・2前		1		○			1						
	植物分子遺伝学特論	1・2前		1		○			1						
	植物病原学特論	1・2前		1		○				1					
	植物感染病学特論	1・2前		1		○				1					
	植物病学特論	1・2後		1		○			1						
	先端植物ウイルス病学特論	1・2後		1		○			1						
	線虫学特論	1・2前		1		○				1					
先端線虫科学特論	1・2前		1		○				1						
昆虫分子生物学特論	1・2後		1		○			1							
先端昆虫分子生物学特論	1・2後		1		○			1							
システム生態学特論	1・2後		1		○				1						
進化生態学特論	1・2後		1		○				1						
動物行動生態学特論	1・2後		1		○			1							

専門科目	地域社会開発学コース	農産物市場流通特論	1・2前	1		○			1								
		農業経営学特論	1・2後	1		○				1							
		アジア農村開発学特論	1・2後	1		○					1						
		人類生態学特論	1・2前	1		○			1								
		国際環境保健学特論	1・2前	1		○			1								
		農村景観保全学特論	1・2前	1		○									兼1		
		環境社会学特論	1・2前	1		○					1						
		農村社会学特論	1・2前	1		○					1						
		生態人類学特論	1・2後	1		○					1						
		地域資源開発学特論	1・2後	1		○					1						
		農業技術経営管理学概論	1・2前	1		○				1							
		インターンシップ I	1・2前・後	1				○		2	3				兼1	集中	
		インターンシップ II	1・2前・後	2					○	2	3				兼1	集中	
		地域社会開発学特別演習 I	1前・後	2				○		2	3				兼1		
		地域社会開発学特別演習 II	2前・後	2				○		2	3				兼1		
		特別研究D	2通	10				○		2	3				兼1		
小計 (16科目)	—	14	14	0	—	—	—	2	3	0	0	0	—	—			
専門科目	生命機能科学コース	先端分析科学特論 I	1・2前	2		○			4	2							
		先端分析科学特論 II	1・2後	2		○			4	1	1				兼1		
		生化学特論	1・2前	1		○			1								
		タンパク質科学特論	1・2前	1		○			1								
		微生物遺伝学特論	1・2前	1		○			1								
		真核微生物学特論	1・2前	1		○			1								
		応用微生物学特論	1・2前	1		○			1								
		微生物学特論	1・2前	1		○			1								
		生物有機化学特論	1・2前	1		○					1						
		分子生物学特論	1・2前	1		○					1						
		バイオセンシング特論	1・2前	1		○			1								
		バイオ材料特論	1・2前	1		○			1								
		分子細胞生物学特論	1・2後	1		○									兼1		
		細胞情報学特論	1・2後	1		○									兼1		
		食品生化学特論	1・2後	1		○					1						
		食糧流通貯蔵学特論	1・2後	1		○					1						
		食品科学工学特論	1・2後	1		○			1								
		バイオマス利用特論	1・2後	1		○			1								
		食品化学特論	1・2後	1		○			1								
		糖鎖工学特論	1・2後	1		○			1								
		海洋資源化学特論	1・2後	1		○			1								
		グリコバイオロジー特論	1・2後	1		○			1								
		食品機能学特論	1・2後	1		○					1						
		食糧安全学特論	1・2後	1		○					1						
		分子栄養学特論	1・2後	1		○			1								
		脂質生化学特論	1・2後	1		○			1								
		インターンシップ I	1・2前・後	1					○	8	3				兼1	集中	
		インターンシップ II	1・2前・後	2						8	3				兼1	集中	
		生命化学演習	1・2通	2					○	4	1	1			兼1		
		食糧科学演習	1・2通	2					○	4	2						
特別研究E	2通	10					○	8	3	1			兼1				
小計 (31科目)	—	14	31	0	—	—	—	8	3	1	0	0	—	—			
外国人留学生特別科目		アグロサイエンス特論	1・2前		1					1							
		アグロサイエンス特別演習	1・2通		2					1							
		小計 (2科目)	—	0	3	0	—	—	0	0	1	0	0	—	—		
合計 (145科目)		—	65	155	0	—	—	26	22	1	0	0	—	—			
学位又は称号		修士 (農学)		学位又は学科の分野				農学関係									

教 育 課 程 等 の 概 要

【既設】 (医学系研究科 医科学専攻)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通必修科目	人体構造機能学概説	1前	2			○			2	2					兼1
	病因病態学概論	1後	2			○			4	2					兼2
	社会・予防医学概論	1前	2			○			2	2	1				
	生命科学倫理概論	1後	1			○			2	1					
	小計(4科目)	—	7	0	0				10	7	1	5	0		—
系必修科目	科学コー	分子生命科学概論	1前	2			○		2	2					
	基礎生命科学研究法	1・2通年	2				○		1	3					
	基礎生命科学研究実習	1～2通年	8					○	1	3					
	医療科学	臨床医学概論	1前	2			○		11	2					
	医療科学研究法	1・2通年	2				○		3	1					
	医療科学研究実習	1～2通年	8					○	3	1					
	学系コー	総合ケア科学概論	1前	2			○		1						
	総合ケア科学研究法	1・2通年	2				○		4	1					
	総合ケア科学研究実習	1～2通年	8					○	4	1					
	療系コー	臨床腫瘍学概論	1前	2			○			3					
	がん地域医療研究法	1・2通年	2					○		1					
	がん地域医療研究実習	1～2通年	8							1					
小計(12科目)	—	48	0	0				19	12	0	2	0		—	
(研究科選択間共通必修科目)	学術英語特論	1・2前・後		2			○								兼1
	職業倫理特論	1・2前・後		2			○								兼1
	数値計算法特論	1・2通年		4			○								兼3
	情報セキュリティ特論	1・2前		2			○								兼1
	人権教育特論	1・2前		2			○								兼1
	プレゼンテーション英語特論	1・2前		2			○								兼1
	ビジネスマネジメント特論	1・2後		2			○								兼1
	産学連携特論	1・2後		2			○								兼1
小計(8科目)	—	0	18	0				0	0	0	0	0		—	
専門選択科目I	人体構造実習	1・2前		1				○	2	1	1	1			兼1
	病院実習	1・2前		1				○	9						
	医用統計学特論	1・2前		1			○		1						
	医用情報処理特論	1・2前		1			○			2					
	実験動物学特論	1・2前		1			○			1		1			
	実験・検査機器特論	1・2前		1			○			1					
	バイオテクノロジー特論	1・2通年		1			○		3	2			2		
	解剖学特論	1・2後		1			○		2	1					
	生理学特論	1・2前		1			○			1		1			
	分子生化学特論	1・2後		1			○		3	2					
	微生物学・免疫学特論	1・2前		1			○		2	2		2			
	薬物作用学特論	1・2後		1			○		3	1					
	病理学特論	1・2後		1			○		2	1					
	法医学特論	1・2前		1			○			1					
	環境・衛生・疫学特論	1・2前		1			○		2						
	精神・心理学特論	1・2後		1			○		3						兼1
	遺伝子医学特論	1・2後		1			○		2						
周産期医学特論	1・2後		1			○		2							
障害者・高齢者支援にみる差別と偏見	1・2後		1			○		1							

	高齢者・障害者の生活環境（道具と住宅）特論	1・2前	1		○			1						
	リハビリテーション医学特論	1・2前	1		○			1	1					
	健康スポーツ医学特論	1・2前	1		○			2		1				兼1
	心理学的社会生活行動支援特論	1・2前	1		○			1						
	高齢者・障害者生活支援特論	1・2前	1		○				1					兼1
	対人支援技術特論Ⅰ	1・2後	1		○			1						
	対人支援技術特論Ⅱ	1・2後	1		○				1					
	地域医療科学特論	1・2前	1		○			1						
	アカデミックリーディング	1・2後	1		○				1					
	臨床腫瘍学	1・2前	1		○			6	3					
	小計（30科目）	—	0	29	0	—		32	20	1	8	0	—	—
専 門 選 択 科 目 Ⅱ	臨床腫瘍治療実習Ⅰ	1・2通年	1				○		3					
	臨床腫瘍治療実習Ⅱ	1・2通年	1				○		3					
	臨床腫瘍治療実習Ⅲ	1・2通年	1				○		3					
	臨床腫瘍治療実習Ⅳ	1・2通年	1				○		3					
	臨床腫瘍治療実習Ⅴ	1・2通年	1				○		3					
	臨床腫瘍治療実習Ⅵ	1・2通年	1				○		3					
	小計（6科目）	—	0	6	0	—		0	3	0	0	0	—	—
合計（60科目）		—	55	53	0	—		33	25	2	11	0	—	—
学位又は称号	修士（医科学）		学位又は学科の分野				医学関係							

教 育 課 程 等 の 概 要

【既設】 (医学系研究科 看護学専攻)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
必修科目	看護学研究法演習	1・2通	2				○		9	2					
	看護学特別研究	1~2通	12				○		9	2					
	小計(2科目)	—	14	0	0		—		9	2	0	0	0	—	—
	課題研究	2通	4				○		9	2					
	小計(1科目)	—	4	0	0		—		9	2	0	0	0	—	—
共通選択必修科目	看護理論	1・2前		2			○		4						
	看護倫理	1・2後		2			○		2	2					兼2
	看護研究概論	1・2前		2			○		2	2					兼2
	看護教育論	1・2後		2			○		2						兼2
	看護管理	1・2後		2			○			2					兼2
	コンサルテーション論	1・2前		2			○			1					兼2
	学術英語特論	1・2前・後		2			○								兼1
	職業倫理特論	1・2前・後		2			○								兼1
	数値計算法特論	1・2通年		4			○								兼3
	情報セキュリティ特論	1・2前		2			○								兼1
	人権教育特論	1・2前		2			○								兼1
	プレゼンテーション英語特論	1・2前		2			○								兼1
	ビジネスマネジメント特論	1・2後		2			○								兼1
	産学連携特論	1・2後		2			○								兼1
小計(14科目)	—	0	30	0		—		6	4	0	0	0	—	—	
専門選択科目I	看護援助学特論	1・2後		1			○		1						
	看護機能形態学特論	1・2後		1			○		1						
	急性期看護学特論	1・2前		1			○		1		1				
	慢性看護論	1・2前		2			○		2	1					兼2
	母性看護学特論	1・2前		1			○		1						
	小児看護学特論	1・2前		1			○		1						
	母子看護展開論	1・2通		1			○		2						
	老年看護学特論	1・2後		1			○		1	1					兼1
	地域看護学特論	1・2後		1			○		1	1					
	在宅看護学特論	1・2後		1			○			1					
	国際看護学特論	1・2前		1			○		1						
	精神看護学特論	1・2後		1			○		1						
	看護統計学演習	1・2前		1			○								兼1
	看護教育方法論	1・2前		1			○		1	1					
	がん看護学特論	1・2前		1			○		1	1					兼5
生体構造観察法	1・2通		2				○	1							
実践課題実習	1・2通		2				○	9	2						
小計(17科目)	—	0	20	0		—		9	5	1	0	0	—	—	
専門選択科目II	慢性看護対象論	1・2前	2				○		1	1					兼1
	慢性看護方法論I	1・2前	1				○			1					兼2
	慢性看護方法論II	1・2前	1				○		1	1					兼2
	慢性看護展開論	1・2前	2				○		1						兼2
	慢性看護援助論I	1・2後	2				○		2						兼3
	慢性看護援助論II	1・2後	2				○		2	1					兼2
	小計(6科目)	—	10	0	0		—		2	3	0	0	0	—	—
慢性看護学実習I	1・2通	2					○	2							

看護 師 専 門 科	慢性看護学実習Ⅱ	1・2通	4				○	2						
	小計（2科目）	—	6	0	0	—		2	0	0	0	0	—	—
	合計（42科目）	—	34	50	0	—		9	6	1	0	0	—	—
学位又は称号		修士（看護学）		学位又は学科の分野				保健衛生学関係						

授 業 科 目 の 概 要			
(先進健康科学研究科 先進健康科学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院 教養 教育 プログラム	研究・職業倫理特論	(概要)本学大学院の修了生は、将来、様々な倫理的問題に直面することが予想される。これらの倫理的問題に対応できるように、本講義ではまず人間社会が形成してきた社会のシステムを学ぶ。その後、現代における個人としての倫理、専門家としての倫理、組織としての倫理について理解し、実例を見ながら考えをまとめる。課題の発表を課し、情報の収集、分析、思考集約、まとめと発表能力を促す。研究者・職業倫理の重要概念と様々な事例を論じる能力を身につける。	
	情報セキュリティ特論	(概要)情報技術とインターネットの普及は、大きな利便性をもたらすとともに、以前とは異なる危険性を発生させている。不正プログラムによって、自らの情報を盗まれるだけに止まらず、知らずして他人への攻撃に加担してしまうこともある。本講義では、大学院における研究等を目的とした情報収集も視野に入れ、情報セキュリティの基礎について講義する。 (オムニバス方式/全8回) (95 只木進一/2回) 情報セキュリティの現状を概観するとともに、情報セキュリティの基礎について講義する。 (137 堀良彰/2回) 組織の一員として対応すべき情報セキュリティ対策について概観するとともに、情報セキュリティに関連した法と制度について講義する。 (181 大谷誠/2回) 認証技術、暗号技術、ファイアウォールなどの基礎技術、攻撃者側の手法などについて解説し、セキュリティ対策の技術的側面について講義する。 (192 廣友雅徳/2回) 情報セキュリティに関する脅威について概観するとともに、個人として行うべき対策について講義する。	オムニバス方式
	データサイエンス特論	(概要)本授業では、専門分野を越えて、地域・社会の課題に対し、データに基づく思考や判断のできる能力を育成するため、データサイエンスの素養を有し、自身の経験や勘ではなくデータを活用して円滑なコミュニケーションが行える力、「データコミュニケーション力」の育成を図る。そのために、本授業では、自治体や企業等におけるデータサイエンスのニーズや問題解決事例、オープンデータの活用例、そこで使われている手法等を紹介し、それを踏まえ、学生にはデータに基づいた改善策を考えてもらう。	

<p>学術英語特論</p>	<p>(Summary) The class contents are as follows: Since the students in this class intend to publish research papers in English-written journals or give presentations in domestic or international conferences in English, they will practice writing and talking in English about their research. In particular, most class time will be spent doing activities in the text book, English-language pronunciation and intonation practice, presentation style practice, and giving presentations. The students' writing skills will be trained by classwork assignments.</p> <p>(概要)この授業の内容は以下の通りである:本授業を履修する学生は、英語で出版される学術雑誌での論文発表や、国内学会もしくは国際学会において英語で発表することを目的としているため、研究分野に関する英語のライティング及びスピーキングの訓練を行う。具体的には、授業時間の多くを教科書内のアクティビティ、英語の発音とイントネーションの訓練、プレゼンテーションスタイルの訓練、そして実際のプレゼンテーションに充てる。学生のライティングスキルは授業外の課題によって訓練する。</p>	
<p>ダイバーシティ ・人権教育特論</p>	<p>(概要)基礎的な知識として、個別の差別問題や人権の歴史を概観し、ダイバーシティという概念が生まれた背景と、その概念の変化について知る。雇用や教育におけるダイバーシティの意義と理念を理解したうえで、今後の方向性について主体的に調査し、考察を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(78 松下一世・217 荒木薫/1回)(共同) (第1回)ダイバーシティとは</p> <p>(78 松下一世/4回) (第2回)マイノリティーの人権, 差別, 偏見について (第3回)レイシズムとセクシズムについて (第4回)セクシュアルオリエンテーションとジェンダーアイデンティティについて (第5回)ソーシャルインクルージョンと障害者差別</p> <p>(217 荒木薫/3回) (第6回)教育や雇用におけるダイバーシティ (第7回)我が国の現状から課題の発見 (第8回)国内外の先進事例から問題解決に向けての考察</p>	<p>オムニバス方式, 共同 (一部)</p>
<p>キャリアデザイン特論</p>	<p>(概要)産業構造や生活環境のグローバル化、科学技術の著しい進展に伴い、専門性の高い人材が社会に出て活躍するためには、専門分野の枠を超えて、幅広い教養と広範な視野を持つことが要求されている。また、高度専門職業人として必要な倫理観、社会性、国際性、リーダーシップなどを身につける必要がある。本授業では、企業、公的機関、教育機関等において第一線で活躍するゲストを招聘し、実践的な講義を行う。多彩なゲストの講義とディスカッションを通じて、専門性の高い人材のキャリア形成に必要な能力や資質等を理解する。</p>	
<p>多文化共生理解</p>	<p>(概要)昨今、世界のさまざまな国、地域において、異文化の衝突や摩擦が起きていますが、それでも人々はやはり異者を理解し、また受け入れながら、平和に生きることを願い、そのために努力しています。それはまさに多文化の中に自己を相対化し、共生をめざす人々の姿であります。この授業では、そうしたいくつかの典型的な国の多文化共生の歴史と現状を学ぶことによって、多文化共生への理解を深め、広い視野、柔軟な思考力、多様な価値観を身につけ、バランスのとれた専門知識を修得していくうえで必要な基本教養を身につけていきます。</p>	

自然科学系研究科共通科目	創成科学融合特論	<p>(概要) 学生グループでのアクティブ・ラーニング型授業を行う。学生が自身の研究内容のプレゼンテーションを行い、他の学生はそのプレゼンテーションから研究概要をまとめる。これにより発表学生は自身の研究理解が深まり、また、異分野の学生とのディスカッションによる新たな展開も期待される。一方、受講生は異なる分野のプレゼンテーションを聴講してレポートにまとめることにより、異分野の知識や考え方を理解し自分の研究に取り込むことで、分野の枠を越えた視点から新しい展開が期待される。</p>	
	創成科学PBL特論	<p>(概要) 5名で1グループを形成し、このグループ内で実験、解析、演習、報告書作成などを実施する。3つの研究テーマに対して教員のサポートの下で研究を実施し、研究結果を解析・評価し、レポートとしてまとめて担当教員に提出する。この授業により、創造性、総合力、実践力、自主性を養う。また、異なる学問分野の高度な知識・技術が修得でき、科学的思考力も養うことができる。各教員が担当する研究テーマは下記の通りである。</p> <p>(93 梶木屋龍治／5回) 偏微分方程式</p> <p>(85 市川尚志／5回) 整数論及び数論幾何学</p> <p>(123 中川泰宏／5回) 複素多様体論及び微分幾何学</p> <p>(112 半田賢司／5回) 確率論</p> <p>(154 日比野雄嗣／5回) 確率論</p> <p>(195 中村健太郎／5回) 整数論</p> <p>(198 岡田拓三／5回) 代数幾何学</p> <p>(208 猿子幸弘／5回) 微分幾何学</p> <p>(211 加藤孝盛／5回) 偏微分方程式</p> <p>(113 鄭旭光／5回) 教員のアドバイスの下で、学生は主体的に物理学に関する研究テーマを選択し、互いに協力しあいながら実験及び考察を行い、その理解の確認として発表を行う。</p> <p>(163 橘基／5回) 教員のアドバイスの下で、学生は主体的に物理学に関する研究テーマを選択する。選択した研究テーマを、学生が互いに協力しあいながら考察し、その理解の確認として発表を行う。</p> <p>(200 山内一宏／5回) すべての物質は、原子・分子が多数集まってできている。目に見えない原子の存在がどのように確立されたかを学ぶことで、科学的なものの見方を身に付ける。</p>	

- (116 奥村浩／5回)
地球観測衛星センサから得られたデータを元に、環境観測、災害対応、都市計画などに有用な情報を得るリモートセンシング画像処理に関するPBL演習を行う。
- (109 花田英輔／5回)
IoTの概念及び必要な通信インフラについて演習的に学ぶことで、現場での応用力を高める。
- (140 福田修／5回)
インターネット上には様々な情報が溢れているが、その内容が人に伝わらない限り、意思決定に役立つ知識や英知にはなり得ない。このテーマでは、情報技術に基づくグラフィカルな「データの見える化」について PBL演習を行う。
- (124 岡崎泰久／5回)
ICTを活用して、人間が行う活動を支援することに関するPBL演習を行う。
- (167 日永田泰啓／5回)
単純なルールに従って繰り返し遷移するシステムは、単純な現象を示すのか？ これをテーマとする演習を行う。
- (87 大石祐司／5回)
潜熱蓄熱材料を用いてその機能について学び、中温域での潜熱蓄熱材の用途について提案させる。
- (96 花本猛士／5回)
酸とアルコールからエステルを合成して化学反応を理解するとともに、新規の香り成分について提案させる。
- (117 竹下道範／5回)
さまざまなフォトクロミック化合物に紫外光や可視光などを当てて、化合物の違いによる色の変化などを確認し、新しい利用法について提案させる。
- (134 大渡啓介／5回)
模擬廃水をイオン交換樹脂で処理し、処理前後のイオン濃度の定量により廃水処理を検証する。実際の廃液に含まれる様々なイオンの種類と濃度、それらの環境基準などを調べ、それぞれのイオンの回収や除去方法について提案させる。
- (168 矢田光徳／5回)
酸化チタンの光触媒を用いて、防染について検証する。光触媒の新たな利用法について提案させる。
- (160 兒玉宏樹／5回)
化学実験室の汚染状況を簡易的に測定し、大気環境を健全に保つ方法について提案させる。
- (155 塩見憲正／5回)
流れのふしぎにみる流体力学
- (199 仮屋圭史／5回)
蒸気動力サイクルの熱力学的設計
- (204 石田賢治／5回)
身近な熱問題の解決策を探る
- (161 今井康貴／5回)
フーリエと波

- (193 只野裕一／5回)
CAEを活用した構造設計・評価
- (179 森田繁樹／5回)
金属材料のはりのひずみ測定
- (156 馬渡 俊文／5回)
機械要素の潤滑状態
- (175 大島 史洋／5回)
機械装置の製作工程
- (94 辻村 健／5回)
ロボットのからくりを語る
- (81 古川達也／5回)
CAEツールを用いた電熱現象に関する解析，評価，報告書作成を実施する。
- (149 佐々木伸一／5回)
LED照明を利用した可視光通信用の受光回路における課題検討，仕様検討，Spiceシミュレーションを用いた回路設計を行い，その評価を行うとともに，ブレッドボードを用いて作製し，実施した研究内容を報告書にまとめる。
- (151 原重臣／5回)
太陽光発電に関する実験，解析，評価，報告書作成を実施する。
- (152 田中高行／5回)
オペアンプを用いたアクティブフィルタに関する実験，解析，評価，報告書作成を実施する。
- (180 伊藤秀昭／5回)
人工知能に関する実験，解析，評価，報告書作成を実施する。
- (153 西山英輔／5回)
基礎的なアンテナに関する実験，解析，評価，報告書作成を実施する。
- (88 柴錦春／5回)
地盤工学に関する実験および数値解析演習
- (207 根上武仁／5回)
地盤環境に関する実験および解析演習
- (120 山西博幸／5回)
水環境に関するフィールドワークおよび水質分析演習
- (128 小島昌一／5回)
建築環境工学からみた建築熱環境分析
- (197 中大窪千晶／5回)
建築環境工学からみた都市熱環境分析
- (119 三島伸雄／5回)
歴史的環境保全からみた建築空間分析

- (55 山岡禎久／5回)
生体の光イメージングに関連する生体医工学研究法について指導する。
- (53 杉剛直／5回)
脳機能の解析に関連する生体医工学研究法について指導する。
- (65 橋本時忠／5回)
流体力学，気泡力学および粘弾性力学に関連する生体医工学研究法について指導する。
- (51 泉清高／5回)
機械学習，ソフトコンピューティングに関連する生体医工学研究法について指導する。
- (27 鯉川雅之／5回)
健康機能分子科学研究法について指導する。
- (30 海野雅司／5回)
健康機能分子科学研究法について指導する。
- (57 古藤田信博／5回)
健康機能分子科学研究法について指導する。
- (63 光武進／5回)
健康機能分子科学研究法について指導する。
- (44 富永広貴・59 原めぐみ・40 村久保雅孝／各5回)
(共同)
医学・看護学研究法について指導する。
- (125 一色司郎・139 田中宗浩・114 濱洋一郎・75 稲岡司／5回) (共同)
生物資源の生産と利用
- (125 一色司郎・139 田中宗浩・114 濱洋一郎・75 稲岡司／5回) (共同)
生物資源の開発と保護
- (125 一色司郎・139 田中宗浩・114 濱洋一郎・75 稲岡司／5回) (共同)
農業生産基盤と農村環境の保全
- (125 一色司郎・139 田中宗浩・114 濱洋一郎・75 稲岡司／5回) (共同)
農業生産情報
- (125 一色司郎・139 田中宗浩・114 濱洋一郎・75 稲岡司／5回) (共同)
生命機能
- (125 一色司郎・139 田中宗浩・114 濱洋一郎・75 稲岡司／5回) (共同)
食品栄養と製造
- (125 一色司郎・139 田中宗浩・114 濱洋一郎・75 稲岡司／5回) (共同)
農業経営と農村社会

<p>知的財産特論</p>	<p>(概要) 知的財産権は、特許、実用新案、意匠、商標、著作物、営業秘密などを対象として、人間の創造的活動により生み出される価値である情報や知識を保護し、発明者や創作者に排他的独占権を付与して創造性や独創性の高揚を図り、これによって社会・経済や文化の発展を図るものである。知的財産権法の理解、権利の内容や権利解釈の仕方を学び、知的財産の創造・保護・活用の各場面における実務的能力の習得を目指す。</p>	
<p>理工学概論</p>	<p>(概要) 分野の枠を越えた幅広い視点を身に付け、今後の医学・理工学・農学の融合科学の発展について自ら考えることができるよう、理工学の基盤的分野である数学、物理学、知能情報工学、材料化学、機械工学、電気電子工学、都市工学を概説するとともに、最近の進歩・現状の課題等を多面的にオムニバス形式で講義する。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(80 渡孝則／1回) 理工学の基盤的分野および最近の動向について概説する。</p> <p>(85 市川尚志／1回) 数学における先端的研究を分かりやすく紹介する。</p> <p>(103 船久保公一／1回) 理論と観測・実験を両輪として発展してきた物理学の1つの分野である宇宙物理学を取り上げ、ビッグバン宇宙論の考え方と宇宙に関する最新の知見について解説する。</p> <p>(124 岡崎泰久／1回) 社会に大きな変化をもたらしている情報通信技術 (ICT) の最新技術、およびその応用事例について講義する。</p> <p>(190 森貞真太郎／1回) 無機化学、有機化学、物理化学、分析化学、および化学工学などの化学分野における先端材料研究の最近の展開に関して講義する。</p> <p>(105 服部信祐／1回) 機械工学の柱となる4力学 (流体力学、熱力学、材料力学、機械力学) について概説するとともに最近の研究動向について解説する。</p> <p>(141 田中徹／1回) 半導体ナノ構造、光・量子エレクトロニクスなどの電気電子工学分野における最新技術を概説するとともに最近の研究動向について解説する。</p> <p>(82 井嶋克志／1回) 地震について、日本に居住する人たちが最低限理解しておくべきことを授業する。例えば、地震前後に気象庁が発信する情報について、また、九州北部 (特に佐賀) において直下型地震や津波等の可能性に関すること、さらに、地震時における一般家屋やビルディングの被害 (可能性を含めて) について説明する。</p>	<p>オムニバス方式</p>

<p>医学・看護学概論</p>	<p>(概要) 分野の枠を越えた幅広い視点を身に付け、今後の医療のあり方について自ら考えることができるよう、医学・看護学の哲学、歴史に加え、最近の進歩・課題等を多面的にオムニバス方式で講義する。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(147 尾崎岩太／1回) 健康科学に関する最新の研究成果、トピック等について学ぶ。</p> <p>(20 倉岡晃夫／1回) 医学の定義、歴史、そしてその礎となった基礎医科学研究の進歩・最前線について学ぶ。</p> <p>(37 相島慎一／1回) 病因・発生機序など、疾病概念の本質を踏まえ、病態医科学研究の進歩・最前線について学ぶ。</p> <p>(102 野出孝一／1回) 内科系臨床分野における治療法の進歩・最前線について学ぶ。</p> <p>(101 能城浩和／1回) 外科系臨床分野における手術手技等の進歩・最前線について学ぶ。</p> <p>(5 長家智子／3回) 諸外国及びわが国の看護の歴史、看護教育制度の変遷、看護の役割について学ぶ。</p>	<p>オムニバス方式</p>
<p>農学総合概論</p>	<p>(概要) 複眼的視点を持つ研究者の育成を目的に、農学研究科以外の学生を受講対象に開講する科目である。本講義では、農学研究に関連する近年の動向、特に食料生産技術、生命倫理、資源環境、生産情報、食品機能と加工、農業経営及び農村社会など多分野にわたり、農学に関する各分野の発展及び技術開発の最前線をオムニバス形式で解説し、分野の枠を越えた幅広い視点を身に付けさせる。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(125 一色司郎／2回) 生物科学及び生物資源の開発利用に関する研究の発展と最新成果を解説する。</p> <p>(139 田中宗浩／2回) 農業生産環境及び生産情報に関する研究の発展と最新成果を解説する。</p> <p>(114 濱洋一郎／2回) 生命機能及び食品栄養加工に関する研究の発展と最新成果を解説する。</p> <p>(75 稲岡司／2回) 国際的な視点での農山村環境・社会・生活および農業経営に関する研究の発展と最新成果を解説する。</p>	<p>オムニバス方式</p>

<p>創成科学インターンシップS</p>	<p>(概要) 海外を含む社会との繋がりにおける実践的教育としてインターンシップを単位として認定する科目であり、地方自治体、産業界や海外の大学等と連携・交流を図ることにより実務での課題解決や遂行能力を養い、自分の職業適性や将来計画などについて考える機会を提供する。創成科学インターンシップSでは、短期(7.5時間×5日以上10日未満)の就業体験や研究活動を通して、自らの実務における課題を見出す能力を養わせる。これによりインターンシップを通じた専門分野の連携の理解と人材育成を図る。インターンシップの評価は、学生が作成する報告書、受入先の評価票、インターンシップ報告会での発表内容と質疑応答に基づく評価事項を設けて適切に行う。</p>	
<p>創成科学インターンシップL</p>	<p>(概要) 海外を含む社会との繋がりにおける実践的教育としてインターンシップを単位として認定する科目であり、地方自治体、産業界や海外の大学等と連携・交流を図ることにより実務での課題解決や遂行能力を養い、自分の職業適性や将来計画などについて考える機会を提供する。創成科学インターンシップLでは、長期(7.5時間×10日以上)の就業体験や海外の大学での研究活動の中で自らの実務における課題とその解決に向けて取り組む能力を養わせる。これによりインターンシップを通じた専門分野の連携の理解と人材育成を図る。インターンシップの評価は、学生が作成する報告書、受入先の評価票、インターンシップ報告会での発表内容と質疑応答に基づく評価事項を設けて適切に行う。</p>	
<p>理工学特別講義</p>	<p>(概要) 理工学に関連するトピックスに関して、先端や前線で活躍している外部有識者と専任教員が共同で、それぞれの専門分野における最新の動向について講義する。さらに、外部有識者、教員、学生が参加してセミナー形式でプレゼンテーションおよびディスカッションを行うことで、専門分野の理解を深める。</p>	
<p>数学概論</p>	<p>(概要) 代数、幾何、解析など、数学の各分野における先端的研究と、理工学の諸分野への応用について分かりやすく紹介する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(93 梶木屋龍治/1回) 偏微分方程式に関する先端的研究とその応用について紹介する。</p> <p>(123 中川泰宏/1回) 複素多様体、及び微分幾何学に関する先端的研究とその応用について紹介する。</p> <p>(112 半田賢司/1回) 確率論に関する先端的研究とその応用について紹介する。</p> <p>(154 日比野雄嗣/1回) 確率論に関する先端的研究とその応用について紹介する。</p>	<p>オムニバス方式</p>

	<p>(195 中村健太郎／1回) 整数論に関する先端的研究とその応用について紹介する。</p> <p>(198 岡田拓三／1回) 代数幾何学に関する先端的研究とその応用について紹介する。</p> <p>(208 猿子幸弘／1回) 微分幾何学に関する先端的研究とその応用について紹介する。</p> <p>(211 加藤孝盛／1回) 偏微分方程式に関する先端的研究とその応用について紹介する。</p>	
物理学概論	<p>(概要) 現代物理学の大きな柱の1つである相対論について、講義形式で授業を行う。「相対性」の意味を説明し、電磁気学に基づく光速の考え方を再確認した後、光速不変の原理を満たす、相対速度を持つ座標系の変換としてローレンツ変換を導入する。 物理法則にローレンツ変換の下での不変性を要請することで、力学や電磁気学の法則がどのように書き換えられるかを解説する。また、相対論がその後の科学技術に与えた影響を紹介する。</p>	
知能情報工学概論	<p>(概要) 知能情報工学は理工学の基盤となる分野であり、深層学習をはじめとする人工知能技術、IoTといったコンピュータネットワーク技術、それらの有効的な利用を促進するソフトウェア技術など様々な理論・技術が含まれ、今日の社会を維持・発展させるために必要不可欠な分野となっている。ここで挙げた知能情報工学に関する技術は日進月歩で更新されており、最新の研究成果が日常生活で用いる様々な製品・サービスに用いられている。本講義では、知能情報工学の技術を網羅的に紹介するとともに、いくつかの最新の成果を講義する。</p>	
材料化学特論	<p>(概要) 化学を専門としない他コースの学生に対して、化学系教員が無機化学、有機化学、物理化学、分析化学、および化学工学などの化学分野に関連した専門分野の最近の研究内容について、オムニバス形式の多岐にわたる専門的かつ最先端研究の講義の提供により、高度的かつ包括的専門知識の学修を図る。学生は、これまでの基礎専門知識に基づく最先端の研究内容の理解に加えて、教員との質疑を通しての理解の整理と深化を図り、ディスカッション能力の向上も合わせて目指す。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(134 大渡啓介／4回) 無機化学、分析化学、および化学工学などの化学分野に関連した専門分野の最近の研究内容</p> <p>(117 竹下道範／4回) 有機化学、および物理化学などの化学分野に関連した専門分野の最近の研究内容</p>	オムニバス方式

<p>機械工学概論</p>	<p>(概要) 本講義では、機械工学が我々の生活とどのように結びついているのかを概説し、機械工学に対する関心、理解を深めることを目的とする。機械工学は、人々の暮らしを豊かにするため、様々な「ものづくり」を目的として発展してきた学問体系である。機械とは「力や運動を伝え有効な仕事をするもの」と定義されており、機械工学を学ぶということは「力学」を学ぶことにほかならない。 以下に示す内容にて機械工学という学問体系のアウトラインを横断的に講義し、これを通じて、機械工学の全体像を把握できるようになることが、本講義の到達目標である。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(183 長谷川裕之／2回) 授業全体の概要を説明した後、機械工学の基礎を構成する力学の基礎について概説する。</p> <p>(196 武富紳也／2回) 機械工学の基礎を構成する材料力学について概説する。</p> <p>(155 塩見憲正／2回) 機械工学の基礎を構成する流体力学について概説する。</p> <p>(204 石田賢治／2回) 機械工学の基礎を構成する熱力学について概説する。</p>	<p>オムニバス方式</p>
<p>電気電子工学概論</p>	<p>(概要) 電気電子工学分野の基礎学問である電気回路、電磁気学、電子回路の基礎的内容の理解を目標とし、適用例を含めた講義を行う。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(53 杉剛直／1回) 電気回路：直流回路（オームの法則、電力、キルヒホッフ、テブナン、ノートン）</p> <p>(33 後藤聡／1回) 電気回路：交流回路（正弦波、RLC回路、3相交流回路）</p> <p>(107 大石敏之／1回) 電気回路：過渡現象（ラプラス変換、過渡応答解析）</p> <p>(141 田中徹／1回) 電磁気学：静電界（電界、クーロン、静電容量）</p> <p>(32 村松和弘／1回) 電磁気学：静磁界（磁界、アンペール、ビオ・サバル）</p> <p>(111 豊田一彦／1回) 電磁気学：電磁誘導・電磁波（ファラデー、マクスウェル）</p> <p>(149 佐々木伸一／1回) 電子回路：電子回路素子（半導体、ダイオード、トランジスタ、サイリスタ、フォトTr）</p> <p>(56 木本晃／1回) 電子回路：増幅回路（基本回路、演算増幅器）</p>	<p>オムニバス方式</p>

<p>都市工学通論</p>	<p>(概要) 都市の発展に関わる4つの技術、水資源管理、都市計画、都市環境、建築デザインについて講義し、医学、看護学、農学、理工学の学生に対して分野の枠を越えた視点を身に付けさせる。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(191 VONGTHANASUNTHORN (MATSUYAMA) NARUMOL/2回) 都市生活、及び経済活動に関する水利用やその活動から発生する水質汚濁について解説し、必要な水資源の確保や水環境の保全の観点から、都市における総合的な水資源管理について概説する。</p> <p>(194 猪八重拓郎/2回) 都市計画法に基づく都市計画制度の概要、並びに人口減少や少子高齢化に対応するための計画技術、さらに都市計画を策定するための情報技術について紹介し、その理解を深める。</p> <p>(165 李海峰/2回) 都市における様々な環境問題を焦点に当て、持続可能な都市開発が資源や地域環境へ与えるインパクトをできるだけ小さくするような環境技術や手法を紹介し、その理解を深める。</p> <p>(201 宮原真美子/2回) 人間工学のようなミクロなデザインから、住宅・都市スケールのようなマクロなデザインまで、私たちの日常生活に関わる建築デザインの基礎知識を網羅的に学ぶ。</p>	<p>オムニバス方式</p>
<p>人体構造機能学概論</p>	<p>(概要) 本授業科目は、人体の構造と生理機能、ならびに制御機構について、器官系ごとに系統的な学習を行い、人体で営まれている生命現象の仕組みを総合的に理解することを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(28 城戸瑞穂/1回) 細胞・組織の構造と機能、人体の構成の概要について学ぶ。</p> <p>(60 藤田亜美/2回) 神経系の構成、伝導・情報処理機構、および消化・吸収機構について学ぶ。</p> <p>(20 倉岡晃夫/1回) 骨の構造と代謝、骨格筋の構造と収縮機構、骨格系と筋系の概要について学ぶ。</p> <p>(212 塩谷孝夫/2回) 心臓の構造と機能、血圧・血流の調節機構、および呼吸器系、泌尿器系の概要について学ぶ。</p> <p>(145 村田祐造/1回) 感覚器系の構造と機能、内分泌調節機構について学ぶ。</p> <p>(4 河野史/1回) 生殖器系の構造と機能、受精の仕組み、ヒト発生過程の概略について学ぶ。</p>	<p>オムニバス方式</p>

<p>人体構造実習</p>	<p>(概要) 本実習科目は、人体の構成について、細胞から、組織、器官の各レベルで系統的に理解し、それらの知識を個体へと還元できる能力を身につける目的で行う。</p> <p>(オムニバス方式／全16回)</p> <p>(20 倉岡晃夫・209 菊池泰弘・214 川久保善智／10回) (共同)</p> <p>骨標本ならびに解剖体の見学実習を通じて、骨格系や各臓器の正常構造、器官の位置関係など、肉眼レベルの正常構造を学ぶ。遺体を扱う実習であるため、合わせて献体運動やその意義について解説することで、献体者への礼意を育み、生命の尊厳、医の倫理的諸問題についても考えを深めていく。</p> <p>(28 城戸瑞穂・145 村田祐造・4 河野史／6回) (共同)</p> <p>細胞・組織標本の顕微鏡観察実習を通じて、細胞内小器官の構造・機能、組織を構成する細胞とその形態学的・機能学的特異性、ならびに各器官がどのような組織で構成されているか理解し、それらの機能的意義について学ぶ。</p>	<p>オムニバス方式、 共同</p>
<p>看護理論</p>	<p>(概要) 合理的で、卓越した看護実践の基盤となる理論・概念の基本的な構造や特徴、発達段階を学ぶとともに、それぞれの理論の実践における活用の現状と課題について分析・検討することにより、既存の理論を発展させる、あるいは新たな理論を探求し、看護学の学問的体系化に寄与できる能力を養う。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(5 長家智子／2回)</p> <p>看護理論・実践・研究の環状的性質、看護理論発表過程と歴史的変遷、看護諸理論の概要（ニーズ論・対人関係論・システム論・適応論等）について教授する。</p> <p>(25 古賀明美／2回)</p> <p>オレム看護論をもとに、看護実践への看護理論・概念活用の現状と課題を踏まえ、理論・概念の実践における検証方法や発展に向けた取り組みの方向性を考察する。</p> <p>(34 鈴木智恵子／2回)</p> <p>小児期の主要な発達理論を通して、子どもが健康な生活を送れるようにセルフケア理論との統合について教授する。</p> <p>(35 藤野成美／2回)</p> <p>ストレス・コーピング、危機理論、発達課題論などの中範囲理論の概要と重要性について教授する。</p>	<p>オムニバス方式</p>

<p>生物科学特論</p>	<p>(概要) 生物科学に関する最新の研究成果や先端技術について解説し、その理解に必要な知識を教授する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(129 鈴木章弘/2回) 植物の生長と植物ホルモン、および植物と微生物間の共生成立のメカニズムに関する研究成果や先端技術について紹介する。</p> <p>(13 穴井豊昭/2回) 作物ゲノム研究の概要、および作物の分子育種技術に関する研究成果や先端技術について紹介する。</p> <p>(90 大島一里/2回) 植物ウイルスの進化機構、および植物ウイルスの拡散時期に関する研究成果や先端技術について紹介する。</p> <p>(83 早川洋一/2回) 昆虫のサイトカインによる発育調節、および昆虫のサイトカインによる免疫調節に関する研究成果や先端技術について紹介する。</p>	<p>オムニバス方式</p>
<p>生命機能科学特論</p>	<p>(概要) 本講義では、生命現象や生物資源の構造と機能に関する総合的な知識と研究手法を学び、自らの研究活動に活用することを目標とする。本講義は、生命機能科学コースに所属する教員が中心となって持ち回りで担当し、各教員が専門とする分野について、自らの研究成果を中心に詳しく解説する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(121 小林元太/2回) 概要説明、自然界からの微生物の分離と同定方法</p> <p>(131 後藤正利/1回) 偏性嫌気性細菌の還元的脱ハロゲン呼吸</p> <p>(142 宗伸明/1回) 生物資源を利用した材料について</p> <p>(2 渡邊啓一/1回) タンパク質の構造解析について</p> <p>(146 上田敏久/2回) 機能性高分子化合物の紹介と機能性分子開発の際の着眼点について、ペプチドの機能について</p> <p>(114 濱洋一郎/1回) 食糧資源としての海洋資源について</p> <p>なお、本講義内容は平成31年度に予定しているものであり、平成32年度以降においては、当該年度に担当となった各教員が専門とする分野についての講義を行う。(担当教員全14名)</p>	<p>オムニバス方式</p>

<p>食資源環境科学特論</p>	<p>(概要) 地球レベルから地域レベルに至るまでの様々なスケールで生じている環境問題に対処するため、受講生は環境に負荷の少ない生物生産環境の創出・保全と、豊かな生活環境の創造について理解する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(184 弓削こずえ/1回) ガイダンス, 浅海干潟環境学に関する最近の話題 1</p> <p>(76 長裕幸/1回) 地圏環境学に関する最近の話題</p> <p>(188 阿南光政/1回) 水環境工学に関する最近の話題</p> <p>(176 郡山益実/1回) 浅海干潟環境学に関する最近の話題 2</p> <p>(126 近藤文義/1回) 環境地盤学に関する最近の話題 1</p> <p>(185 宮本英揮/1回) 環境地盤学に関する最近の話題 2</p> <p>(173 原口智和/1回) 海浜環境情報学に関する最近の話題</p> <p>(186 上野大介/1回) 生物環境学に関する最近の話題</p>	<p>オムニバス方式</p>
<p>国際・地域マネジメント特論</p>	<p>(概要) 世界の様々な地域の農業・農村問題を理解する視点について、各専門分野の方法論を示しながら、受講者と近年の研究動向を議論する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(75 稲岡司/3回) はじめに, 地域を理解する視点－人類生態学, まとめ</p> <p>(157 辻一成/2回) 地域を理解する視点－農業経済学, 地域を理解する視点－農業経営学</p> <p>(89 五十嵐勉/1回) 地域を理解する視点－人文地理学</p> <p>(158 藤村美穂/1回) 地域を理解する視点－農村社会学</p> <p>(189 中井信介/1回) 地域を理解する視点－生態人類学</p>	<p>オムニバス方式</p>

<p>健康機能分子科学概論</p>	<p>(概要) 生体分子に対する分子間相互作用ならびに分子レベルでそれを捉える方法を解説し、タンパク質や酵素の反応に対する水の影響について紹介する。健康機能性物質の化学構造や生成ならびに生理活性を例にし、生体分子に作用する小分子の役割を説明する。また、新規機能性分子の発見と先端機器分析による構造解析、さらに天然物由来の新規機能性分子を利用し、ケミカルバイオロジー手法によって見出された新規標的タンパク質の発見手法を解説し、その標的タンパクに対する創薬について、天然物の化学的改変として分子設計され創出された医薬品について紹介する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(19 高椋利幸/2回) 生体反応に係わる水の役割</p> <p>(57 古藤田信博/2回) 植物の健康機能性成分の化学構造と生理活性</p> <p>(10 石丸幹二/2回) 新しい機能性分子を含む農水産資源</p> <p>(50 長田聰史/2回) 天然物の化学構造の化学的改変による創薬</p>	<p>オムニバス方式</p>
<p>生体医工学概論</p>	<p>(概要) 臨床で用いられている各種の医工学機器について、その動作原理を理工学の観点から解説するとともに、臨床における使用の実際を提示する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(3 高橋英嗣/5回) 生体電気現象の記録、および生体構造・機能の画像化に用いられる各種医工学機器について、その動作原理を理工学の観点から解説する。</p> <p>(98 末岡榮三郎/1回) 種々の臨床検査機器、生体試料分析装置等について、医療現場における使用の実際を説明する。</p> <p>(39 浅見豊子/1回) リハビリテーション医学の領域における各種医工学技術の応用例について概説する。</p> <p>(4 河野史/1回) 関節靭帯の正常構造・機能について、その動作原理を解説する。</p>	<p>オムニバス方式</p>

<p>臨床医学概論</p>	<p>(概要) 臨床医学全般について、疾患との関連を中心に系統的に学ぶことにより、大学において学習してきた項目と臨床医学の接点を理解する。また、今後の修士課程における研究項目に応用可能な知識を習得する。</p> <p>(オムニバス方式/全14回)</p> <p>(14 松尾宗明/2回) 臨床医学の倫理的側面、医師患者関係、チーム医療などについて学ぶ。小児領域の疾患の病態、予防や治療に関する問題を学ぶ。</p> <p>(24 坂口嘉郎/1回) 麻酔蘇生学の臨床について学ぶ。</p> <p>(100 野口満/1回) 泌尿器科学の臨床について学ぶ。</p> <p>(77 成澤寛/1回) 皮膚科学の臨床について学ぶ。</p> <p>(115 阿部竜也/1回) 脳神経外科学の臨床について学ぶ。</p> <p>(47 園畑素樹/1回) 整形外科の臨床について学ぶ。</p> <p>(102 野出孝一/1回) 内科学、循環器内科学の臨床について学ぶ。</p> <p>(101 能城浩和/1回) 消化器外科が扱う主な疾患についての概略と、治療法についての知識を得る。</p> <p>(11 横山正俊/1回) 産婦人科学の臨床について学ぶ。</p> <p>(133 江内田寛/1回) 眼科学の臨床について学ぶ。</p> <p>(6 倉富勇一郎/1回) 日本耳鼻咽喉科学会ホームページの以下のURLにアクセスし、「一般の皆さん」の内容について学習する。 http://www.jibika.or.jp/index.html</p> <p>(84 門司晃/1回) 精神医学の臨床について学ぶ。</p> <p>(132 山下佳雄/1回) 歯科口腔外科学の臨床について学ぶ。</p>	<p>オムニバス方式</p>
---------------	--	----------------

<p>国際看護学概論</p>	<p>(概要) 国際保健および国際看護の動向を理解し、海外における看護活動を実践展開するための理論と方法を教授する。また、これからの国際化社会における看護学のあり方について教育する。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(23 新地浩一／7回) 国際保健医療協力、及び国際緊急援助活動に関する基本的知識、途上国の保健医療の実態、国際保健プロジェクトについて教授する。国際緊急援助活動に関する図上演習を教育に導入して、実践的な国際看護活動のシミュレーション教育を実施する。実際の事例をモデルにした課題付与による演習を行うことで、国際保健医療活動を疑似体験させる。</p> <p>(61 福山由美／1回) 異文化における看護、グローバル化する看護（外国人看護師の導入に関する問題、海外における在宅看護の現状と課題など）について基本的な知識を教授する。</p>	<p>オムニバス方式</p>
<p>生体機能代行装置学概論</p>	<p>(概要) 臨床で用いられている各種の生体機能代行装置（人工心肺装置、人工呼吸器、人工腎臓装置、左心補助人工心臓、機能的電気刺激装置、BMI機器等）についてその動作原理を理工学の観点から解説するとともに、臨床における使用の実際を説明する。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(3 高橋英嗣／5回) 臨床で用いられている各種の生体機能代行装置について、その動作原理を理工学の観点から解説する。</p> <p>(108 西田誉浩／1回) 心臓外科領域で用いられる補助人工心臓、人工弁等について、使用の実際を説明する。また、今後実用化が見込まれる、患者の細胞から作成した自家人工血管についても紹介する。</p> <p>(39 浅見豊子／1回) リハビリテーションロボットの開発・臨床応用の現況について概説する。</p> <p>(40 村久保雅孝／1回) ヒトと生体機能代行装置の関連性について心理学的観点から解説する。</p>	<p>オムニバス方式</p>

<p>生命科学倫理概論</p>	<p>(概要) 生命科学と医療に関する倫理的課題についての基礎知識や考え方を習得し、研究者と医療従事者が遵守すべき倫理規範と対応法を理解する。また、将来の生命科学・医療の進歩と社会の変遷によって新たに生じ得る倫理的課題に対して、適切に判断し、行動する能力を養う。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(37 相島慎一／1回) 研究倫理指針，医学研究を行うに当たっての倫理的留意点，倫理委員会への申請などについて講義を行う。</p> <p>(26 副島英伸／1回) ヒトゲノム・遺伝子解析，ヒト由来試料の研究利用に関する倫理的留意点について講義を行う。</p> <p>(187 坂本麻衣子／6回) 医療従事者の職業倫理綱要，安楽死・尊厳死問題，脳死と臓器移植，患者の自己決定権，緩和ケアなどについて，症例を挙げながら講義および討論を行う。</p>	<p>オムニバス方式</p>
<p>食品分子科学概論</p>	<p>(概要) 食品に含まれる分子に関する研究の現状について講義する。特に，食品に含まれる分子を扱う際に，即戦力となる分析法についても積極的に紹介する。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(63 光武進／2回) 脂肪の過剰摂取は健康に望ましくないとされてきた。しかし，これを否定するコホート研究もある。最新の論文を紹介しながら，この矛盾に関して議論しつつ，食品脂質分子の生理機能を紹介する。</p> <p>(46 永野幸生／2回) 食品の分子レベルでの鑑定技術として，DNA分析技術が重要である。そこで，PCR法の活用等の古典的な判別法，および，今後の普及が見込まれる高速シーケンサーによる方法について紹介する。</p> <p>(2 渡邊啓一／2回) 食品に含まれる機能性分子の化学構造と性質，生理作用機構について概説する。特に，機能性分子と標的タンパク質の相互作用に関する最新の研究例を紹介する。</p> <p>(71 辻田忠志／2回) 機能性食品の認可に必要な検証実験や医薬品との違いについて，実例を用いて紹介を行う。加えて，最新の論文等から導かれた食品成分の評価法についても概説する。</p>	<p>オムニバス方式</p>

<p>専攻共通科目</p>	<p>生物分子科学概論</p>	<p>(概要) 生体関連分子の機能や性質を分子構造との関係から理解することを目的に、量子化学や熱力学、化学反応理論などの物理化学的な観点と生物無機・有機化学的な観点から解説を行う。特に、生体内でおこる化学反応の基礎とその実時間観測の方法、分子分光学の基本について紹介する。生体分子の熱力学についても概説し、最近の先端的な高圧力研究を紹介する。また、地球上のほとんどの生命体が活用している酸素分子や必須微量元素元素について、その化学的性質と生体関連物質との反応について教授する。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(30 海野雅司／2回) 量子力学と分子分光学の基礎、生体関連分子の応用研究</p> <p>(69 藤澤知績／2回) 化学反応理論などの物理化学の基礎、生体内でおこる化学反応の実時間観測</p> <p>(68 梅木辰也／2回) 熱力学などの物理化学の基礎、生体関連分子や生体内でおこる化学反応に関する熱力学研究法</p> <p>(27 鯉川雅之／2回) 酸素分子や必須微量元素元素の機能、生体関連物質との関わり</p>	<p>オムニバス方式</p>
<p>専門科目</p>	<p>生体医工学特別講義 I</p>	<p>(概要) 生体医工学は、機械系、電気電子系、医学系の異なる学問領域を融合することで、新しい領域を開拓していく学問分野である。この目的を達成するため、学生はこれまで学んできた学問領域を超えた知識を有することが求められる。そのため、機械系、電気電子系、医学系の学問領域のバックグラウンドを持つ生体医工学コース全教員が持ち回りで自らの専門領域の講義を行うことで、生体医工学コースがカバーする広範な研究領域についての理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(13 寺本顕武／1回) 生体医工学分野における統計学の応用について最新の知見を紹介する。</p> <p>(17 上野直広／1回) 生体医工学分野におけるインターフェース機器の応用について最新の知見を紹介する。</p> <p>(32 村松和弘／1回) 生体医工学分野における数値解析学の応用について最新の知見を紹介する。</p> <p>(3 高橋英嗣／1回) 生体医工学の最新の知見を紹介する。</p> <p>(33 後藤 聡／1回) 生体医工学分野におけるシステム制御学の応用について最新の知見を紹介する。</p> <p>(1 堀川悦夫／1回) ニューロリハビリテーションの臨床について最新の知見を紹介する。</p>	<p>オムニバス方式</p>

	<p>(51 泉清高／1回) 生体医工学分野におけるロボティクスの応用について最新の知見を紹介する。</p> <p>(52 KHAN MD. TAWHIDUL／1回) 生体医工学分野における力学解析の応用について最新の知見を紹介する。</p> <p>(65 橋本時忠／1回) 医療機器の設計について最新の知見を紹介する。</p> <p>(62 住隆博／1回) 生体医工学分野における流体シミュレーションの応用について最新の知見を紹介する。</p> <p>(56 木本晃／1回) 生体医工学分野における計測工学の応用について最新の知見を紹介する。</p> <p>(41 堂園浩／1回) バイオインフォマティクスの応用について最新の知見を紹介する。</p> <p>(55 山岡禎久／1回) 生体医工学分野における光学計測の応用について最新の知見を紹介する。</p> <p>(53 杉剛直／1回) 脳生体情報工学について最新の知見を紹介する。</p> <p>(47 園畑素樹／1回) 人体運動学の臨床について最新の知見を紹介する。</p>	
<p>生体医工学特別講義Ⅱ</p>	<p>(概要) 生体医工学に関する最近の話題、技術動向を把握するため、学外から講師を招き、その専門領域について、原理から最新の技術、今後の課題まで講義をして頂く。もしくは、学外機関と共同でセミナーを開催し、発表・討論を行う。</p>	
<p>医工力学特論</p>	<p>(概要) この科目の内容は、相対運動、振動と振動の状態、医工力学応用運動等である。また、関節運動や2次元・3次元の運動解析における位置、速度、加速度、あるいは人体関節運動に関するオイラーパラメータを用いてその運動量を計算する。この講義の目標は、以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 質点力学、および剛体応用運動学と関係する医用工学的な力学の基礎および応用法について学ぶ。 2) 関節運動学について、関節の多自由度運動状態・運動量の計算ができる。 3) 人体の手足等の運動の設計、継ぎ目のモデリングを理解する。 	
<p>バイオロボティクス特論</p>	<p>(概要) ロボット工学の基礎を確認しながら、生物由来の制御アプローチ、生体信号を含む種々のデータの信号処理手法やヒューリスティックな最適化手法について講義する。</p>	

専 門 科 目	医工計測工学特論	(概要) 本講義は、電気、磁気、光、超音波などを用いた様々な生体計測手法並びにX線CTや電気インピーダンスCTなどで用いられる生体イメージング手法の基礎的な原理を理解することを目標としている。前半は、生体計測手法を学ぶ。形式としては、学生が調べた内容を発表し、議論するとともに、計測手法について説明し、演習を行うことで理解を深める。後半は、イメージング手法について学ぶ。講義形式とし、講義の最後に演習を行う。また、実際にイメージングを行い、理解を深める。	
	医工統計学特論	(概要) 現象には大別して、決定論的な現象と偶然性を伴う現象に分かれる。偶然性の中にも一定の法則性があり、それは確率分布として把握される。確率では確率分布の数理的展開を主とし、統計ではデータに基づいて、背景の確率分布(母集団分布とよぶ)を帰納的に推測するのが主である。本講義において、検査や診断および評価に必要な統計的推測の基本を学ぶ。	
	医工数値解析特論	(概要) 計算機を用いた数値解析手法である、差分法、数値積分法、有限要素法、大次元連立一次方程式の解法、最適化手法、逆行列、固有値の算出法、モンテカルロ法、高速フーリエ変換、各種ソーティング法について講義を行う。また、有限要素法を用いた磁界解析の原理を説明するとともに、磁界解析のソフトウェアを体験する。さらに、医工学における数値解析の応用例として、磁気共鳴画像(MRI)用磁気シールドルーム、アーチファクトフリー金属インプラントなどの最適設計例を照会する。	
	医工流体シミュレーション特論	(概要) 医工学分野における流体力学は、生体や医療機器の中で起こる幅広い熱流体現象を研究対象とする。近年の計算機性能の進歩にともない、数値流体力学によるシミュレーション技術が工学分野における研究・開発・設計の様々な場面で多用されるようになり、医工学分野においても急速にその重要性を増している。本講義では一般的な熱流体現象に対する数値流体力学のアプローチについて解説し、医工学分野への展開を紹介する。	
	医工インターフェース機器特論	(概要) 医工学、特に福祉機器において、機械装置とそれを操作する術者のインターフェース機器が装置の使いやすさの重要なファクターとなる。そこに用いられるセンサーやアクチュエーターなどのデバイスを駆使し、インターフェースを構成するためには、その動作原理や信号処理の理解が欠かせない。本講義では、圧電体を例とする物質特性からセンサーの動作原理・信号処理を解説し、最新の研究例を紹介しながら具体的なインターフェース機器の構成について理解することを目指す。	
	医工システム制御特論	(概要) 工学的技術を用いた医用機器や福祉機器等を開発する際に、対象をシステムとして捉え、その対象を如何に制御するかが重要となる。本授業では、医療や福祉に用いられる工学的技術に基づいた機器等の開発に関して、具体的事例として、ヒトの体から計測可能な生体信号などの電気生理現象を利用したコミュニケーション手段やロボット技術を利用した福祉機器について説明する。さらに、それらの機器開発の背景となっているシステム制御に関する内容と、その動作原理や用いられている技術について説明する。	
	医療機器設計学特論	(概要) 流体工学が医療機器や医療技術に関わる問題について解説し、流体と医療との関係、その重要性について理解を深めることを目的とする。第1週から5週までは熱及び流体の基本的な諸現象の構造について力学的に捉え、医療機器設計のための基礎を学ぶ。第6週から10週までは注射や点滴のような単純な医療器具から最新の医療機器に至るまで、機械工学の観点から構造原理や設計上の諸問題について具体的及び理論的に示す。第11週から第15週まではテーマとして与えられた症例に対してその治療法と必要な医療機器について調査して、その問題点と今後の展開について討論する。	

<p>バイオインフォマティクス特論</p>	<p>(概要) 生命科学の知識が浅い生体医工学コースの学生向けに、生命科学の基礎から生命科学で使われるアルゴリズムについて、実際のプログラミングまで含めて講義を行う。到達目標は生命科学の基礎を理解し、シーケンス解析やプロファイル解析などの基礎的なプログラムを既存のアルゴリズムを用いて実現可能なこととする。授業計画は、1回目から5回目で生命科学の基礎を講義し、残りでアルゴリズムの説明とその実現を行う。</p>	
<p>バイオメディカルフォトニクス特論</p>	<p>(概要) バイオ・医療分野における光を用いた生体計測技術、イメージング技術、制御技術に関して、基礎から最新の応用まで、具体的な例を示しながら、幅広く理解してもらうことを目的としている。到達目標は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 生体光計測、イメージング技術に関連する基本的な用語の意味を説明することができる。 2) 様々な生体光計測、イメージング技術に関して、理解し、説明することができる。 3) 光学の基本法則を理解し、応用することができる。 	
<p>ニューロリハビリテーション特論</p>	<p>(概要) ニューロリハビリテーションの分野は進展が著しい分野であるが、その要因は、基礎研究そして臨床実践の両方の領域に関わっている。基礎研究においては、最近の脳科学、特に脳機能画像による研究が示唆に富むものである。また、臨床においては、各種脳刺激装置の普及や、より早期のリハビリテーション開始による効果検証などが有益である。本講義においては、これらの領域のコアとなる研究やエビデンスを解説する部分と、ケーススタディからの患者の個別性を論議する部分からなり、医工連携開発の端緒となることを目指している。学生は、自身の専門分野において応用することを念頭において受講することが期待される。</p>	
<p>人体運動学特論</p>	<p>(概要) 運動器（骨、関節、靭帯、腱、筋肉、神経、脊髄）についての一般論を学習する。そのうえで、運動器の疾患・障害がどのような影響をADL、QOLへ及ぼすかを概説する。最終的に、現在の医学が運動器疾患に対してどのような治療法を行っているのか、そして今後どのような治療法が開発されていくと考えられているのかを、本学整形外科における実際の臨床例に基づいて学習する。特に、関節疾患に対する人工関節置換術の歴史、現状、問題点、今後の展望についての理解を深めることを目的とする。</p>	
<p>脳生体情報工学特論</p>	<p>(概要) 授業形態は、学生が与えられたテーマの調査に取り組み、レポートにまとめたものを報告、討論する形式を主体とする。具体的には、脳科学、生体信号処理、生体情報工学で、特に脳機能解析に関連した英語論文または書籍を読み、内容理解するとともに、そこで得た知識を自らもコンピュータ上で利用することを目指す。到達目標は、上記テーマに関連した知識とその英語表現を修得すること、学んだ知識を実際にコンピュータ上で利用するための能力を身につけること、の2点である。授業計画は以下である。第1週目では、授業進行の説明、テーマ論文・書籍の選択、担当テーマの決定を実施する。第2-11週目は、各人またはグループが担当テーマに関する調査結果を報告し、その内容に関して討論する。第12-15週目は、テーマに関連して修得した信号処理法を用いて、応用課題（プログラム）の製作と発表を行う。第16週目に、これらをまとめたレポートを提出する。</p>	

分子創薬学特論 I	(概要) 創薬の歴史的背景をふまえ、医薬品研究開発における標的生体分子の決定の重要性と、医薬品分子相互作用の基盤となる化学に関する基本的知識を説明する。特に、生理活性物質や薬物の主要な標的である酵素、受容体の構造、ならびに反応様式分類について概説し、これらに作用する小分子有機化合物の相互作用様式と作用機序について、分子レベルで説明する。作用機序解析については、反応速度論に基づいた酵素阻害様式解析、ならびに微量化学物質の作用に対する受容体の用量-反応曲線の解析について説明する。	
分子創薬学特論 II	(概要) 薬に利用された資源天然物の歴史的背景をふまえ、近代の生命科学などの科学の急速な進展に伴って変化した創薬化学による方法論を説明する。化合物ライブラリーのスクリーニング、リード化合物の創出と最適化、医薬品の分子設計において考慮すべき点としての脂肪族炭化水素、芳香族化合物、官能基のそれぞれの構造と性質を踏まえたファーマコフォア設定と、ドラッグデザイン、バイオアイソスター、薬物動態と物理化学的性質を考慮した分子設計における指標などを説明する。また、分子設計創薬の成功例における事例紹介も行う。	
生命錯体化学特論 I	(概要) 酸素分子と遷移金属イオンの間で生じる段階的な電子移動反応と、これに付随して生じる活性酸素金属錯体の構造と電子状態を学習する。これらの化学種の反応性を理解するために、オキソ錯体、パーオキソ錯体、およびスーパーオキソ錯体の分子軌道準位図作成を演習することで、これらの化学種の結合と電子状態について学ぶ。	
生命錯体化学特論 II	(概要) 生体中で行われる酸素分子を活用した種々の反応に大きくかかわる金属酵素についての理解を目的として、最も重要な金属活性中心の構造を錯体化学の見地から学習する。さらに、これらの酵素が行う反応を検証し、反応機構の考察とモデル化を検討することで、酸素分子と微量金属元素の重要性を理解する。	
反応化学特論 I	(概要) 反応速度論の基礎から始めて、気相反応や液相反応のダイナミクスを学習する。学部で学んだ、反応速度式の意味、反応速度方程式と解くための微分方程式、反応座標とは何か、遷移状態とは何かといった基礎事項を肉付けして復習し、具体的な反応例を通して理解する。	
反応化学特論 II	(概要) 化学反応を理解する上で重要となる、拡散律速反応、電子移動反応、プロトン移動反応といった基礎反応の概念と、理論的取扱いを学習する。各々の反応に重要となる因子を学び、具体的な反応例をプレゼンテーションして説明する機会を設けることで、学習内容の理解を深める。	
分光化学特論 I	(概要) 量子化学と分子分光学に関する基礎的事項として、量子力学の基礎について解説するとともに、分子分光学の基礎である分子の回転スペクトルと、振動スペクトルの理論と応用について教授する。回転スペクトルとしてはマイクロ波分光、振動分光としては赤外吸収分光やラマン分光法について紹介する。ラマン分光に関しては、生体関連分子への応用で威力を発揮する共鳴ラマン分光法や、時間分解測定法などの例も紹介する。	
分光化学特論 II	(概要) 分子の電子状態に関する基礎的事項として、量子力学の基礎について解説するとともに、物質と電磁波の相互作用(吸収、発光および散乱)の理論について紹介する。また、吸収スペクトルや発光スペクトル(蛍光と燐光)を理解する上で必要な事項である電磁波に関する基本事項や、フランクコンドン原理、選択律などについて教授する。さらに、生体関連分子への応用例や、光化学過程に関する項目も解説する。	

<p>生命物質化学特論 I</p>	<p>(概要) 二重の脂質分子膜が基本構造である細胞膜は、内容物が流出するのを防ぐだけでなく、多くの役割を担っている。細胞膜の構造や細胞膜上にあるタンパク質の情報伝達、物質輸送、運動等の機能を理解するため、タンパク質の立体構造と機能の相関を解説する。特に、タンパク質の膜貫通部分を形成する二次構造やそれらの会合によるタンパク質複合体形成と機能調節の相関を講義する。</p>	
<p>生命物質化学特論 II</p>	<p>(概要) 細胞内機能の調節や細胞間情報伝達に関わる膜タンパク質の機能を理解する目的で、細胞間シグナル伝達の一般原理を講義する。また、細胞の情報伝達に関し、細胞膜及び核内受容体、酵素内包型受容体、細胞内外シグナルの伝達経路、細胞表面受容体の分類、イオンチャネル共役型受容体とGタンパク共役型受容体についても紹介する。</p>	
<p>生命分析化学特論 I</p>	<p>(概要) アミノ酸やタンパク質など、生体関連分子を化学分析する際に有用な分離法や電気分析法を理解し、各分析法の原理、及び得られる情報を解説する。各種クロマトグラフィーを固定相や移動相の特性から説明し、物質分離のメカニズムを理解させる。電気分析では、ガラス電極によるpH測定の原理について説明する。熱分析は、TG, DTA, DSCについて講義する。</p>	
<p>生命分析化学特論 II</p>	<p>(概要) 生体反応の場となる水を中心に、液体や溶液の物性、及びその発現メカニズムについて解説し、それらを分子レベルで分析する各種分析法について講義する。アミノ酸やタンパク質などの生体関連分子と水分子との相互作用をミクロスコピックに捉え、化学反応における水素結合や分散力の役割を解説する。赤外, Raman, NMRの各種分光法による観測や、X線および中性子を用いた液体構造や溶質分子の溶存構造の観測法について説明する。</p>	
<p>生命環境化学特論 I</p>	<p>(概要) 核磁気共鳴の特長として、非破壊でしかも網羅的かつ選択的に、ある観測核種に的を絞り、遅い緩和を利用してさまざまな刺激による時間細工の後に最終応答を検出できるという利点があげられる。この網羅性、選択性、時間細工性、非破壊性について、それぞれ実例を解説する。</p>	
<p>生命環境化学特論 II</p>	<p>(概要) わが国の環境健康問題は、足尾鉍毒事件、水俣病、これに続くイタイイタイ病など、重金属が関わる問題が大きな割合を占めている。近年では、NO_x, SO_x, PM_{2.5}などの粒子状物質、さらにはナノ粒子へと問題が展開してきている。講義では、これら問題に対応するための磁気共鳴分光や、そのイメージングの方法について解説し、実施のいくつかの研究例について紹介する。</p>	
<p>タンパク質分子科学特論 I</p>	<p>(概要) 本特論では、代謝、代謝調節、および情報伝達に関わるタンパク質を対象として、それらの分子構造に基づいて機能発現機構を明らかにするための研究手法と成果について理解することを目的とする。 到達目標： 1. 代謝、代謝調節、および情報伝達に関わるタンパク質の構造と機能の関係を理解する。 2. 上記タンパク質分子の構造解析法について理解する。 3. タンパク質の構造に基づいて機能発現機構を明らかにするための研究手法について理解する。</p>	

<p>タンパク質分子科学特論Ⅱ</p>	<p>(概要) 本特論では、生命現象の根幹となる働きを担うタンパク質分子の構造と機能発現機構およびその応用に関する研究成果について学ぶ。講義と演習を組み合わせ授業を進める。各受講生が自分の研究テーマに関連するタンパク質の機能発現機構を明らかにした原著論文を選び、その研究手法、成果、考察、問題点について発表し、クラス全体で討論する。</p> <p>到達目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 立体構造が明らかにされたタンパク質の構造と機能の関係を理解し説明できる。 2. タンパク質の溶液中での構造解析法と結晶構造解析法について理解し説明できる。 3. タンパク質の機能発現機構を明らかにするための研究手法について理解し説明できる。 4. 本講義で習得した内容を自分の研究に役立てることができる。 	
<p>生体防御機能分子特論Ⅰ</p>	<p>(概要) 単細胞生物から脊椎動物に備わる環境応答分子メカニズムについて解説する。具体的にはレドックスバランス、自然免疫機構、低酸素刺激応答機構について取り扱う。これらの分子メカニズムについて概説し、これを利用した有用生理活性物質の取得方法等の開発について具体例をあげながら解説する。これらの分子メカニズムのためには、遺伝子改変動物が多く用いられているが、これらの表現系や関連するヒト疾患について紹介し、治療や予防方策についてグループ演習等を実施する。同時に、これらの情報を集めるため、パソコンを用いた演習も実施する。</p>	
<p>生体防御機能分子特論Ⅱ</p>	<p>(概要) 有用生理活性物質の探索には、大規模なライブラリーからのスクリーニング等が欠かせない。本講義では、生理活性物質の抽出方法、および単離に至るまでに実験方について概説する。スクリーニングを実施するための最新機器について紹介をするとともに、実際どのような機械を活用して探索研究が行われているのか概説する。また、高感度なスクリーニングシステムを樹立するための条件などについて具体例を交えながら演習する。</p>	
<p>食品機能学特論</p>	<p>(概要) 近年、食品成分の持つ様々な機能性が知られる様になってきた。本講義では、これら食品成分の機能性と、特に疾患との関わりについて担当教員が課題を出し、受講生との討議をとおして、食品成分が持つ機能性に関して考察し学ぶ。授業は受講生に課題論文を化し、それを発表する形式で進められる。活発な質疑応答を通じてテーマへの理解を深め、以下3つの到達目標を達成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 食品機能性の科学的根拠となる原著論文にふれ、その機能性に関して深く議論し学ぶ。 2) 食品の機能性を適正に評価する能力を養う。 3) プレゼンテーションを通じて自らが理解した事を、第三者に正確に伝える能力も養う。 	
<p>細胞膜機能科学特論</p>	<p>(概要) 細胞膜の構造と構成脂質分子といった教科書レベルの知識を正確に掴み、さらに近年の生化学が明らかにした細胞膜に発現する膜貫通型タンパク質の膜への組み込みメカニズムとトポロジー形成に関しても正確な知識を得る。これらの基本的な知識を基に、近年明らかになりつつある細胞膜機能と膜タンパク質機能に関する最新の情報を論文から読み解き、正確に理解できるようになる事を本特論の最終目標とする。授業は受講生に課題論文を化し、それを発表する形式で進められる。活発な質疑応答を通じてテーマへの理解を深め、以下3つの到達目標を達成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 細胞膜の構造と構成脂質分子を正確に理解する。 2) 細胞膜上に発現するタンパク質の合成/輸送/トポロジーを理解する。 3) 細胞膜機能と細胞膜タンパク質の相互作用に関する最新の情報を論文から読み解く。 	

<p>微生物生理学特論</p>	<p>(概要) 微生物が行う生理、物質代謝について講義する。微生物の対象としては、産業的に使用されている出芽酵母 <i>Saccharomyces cerevisiae</i> などを対象とする。微生物の行う代謝を解析するためのメタボローム解析について講義する。さらにメタボローム解析手法、そのメタボローム解析データを用いた多変量解析手法、多変量解析を行うコンピュータソフトなどについて講義、問題演習を行う。これらを用いて、大学院生が自ら微生物の代謝を解析して生理状態を推定できるようになるようにする。</p>	
<p>微生物機能化学特論</p>	<p>(概要) 微生物は発酵食品などの製造に使われ、さまざまな人体に有用な機能性化学物質を製造する。そこで、微生物の機能性化学物質が人体に与える影響について講義する。具体的に人体のどのような部位の細胞に作用するかについても講義する。また、これらの機能性化学物質の化学分子構造について講義する。特に、微生物のつくる発酵食品の機能性について解説する。さらに、微生物のつくる機能性化学物質の分子構造解析の手法について問題演習を行う。</p>	
<p>植物生理学特論</p>	<p>(概要) 学部において履修した「植物生理学」および「園芸学」を基本知識とし、植物の生理生態、花芽形成、果実形成について、最近の生理学的・遺伝学的な研究成果をまじえ概説する。特に、植物の花芽形成、受粉および果実形成等の生理学的側面について概観できるように、また、それらの過程で働いている植物ホルモンや遺伝子の機能についても理解できるように講義する。受講生には講義で興味を持った現象に関する論文を紹介する時間を設けることにより、受講生の理解を深めると同時にプレゼンテーション力の向上をはかる。</p>	
<p>植物機能分子学特論</p>	<p>(概要) 学部において履修した「園芸学」「植物生理学」「有機化学」「生物有機化学」等を基本知識とし、植物の2次代謝産物の構造、生合成およびそれらの健康機能性について概説する。特に園芸植物の産生する主要な2次代謝産物や生合成経と、それら代表的な2次代謝産物の生理活性や薬理活性、作用機作について解説する。また、生合成に関わる酵素遺伝子の構造や発現等についても理解できるように講義を行う。受講生は本講義に関連あるテーマを選び、最終回に各自プレゼンテーションを行うことでより理解を深めてもらう。</p>	
<p>植物分子科学特論</p>	<p>(概要) 植物の生合成について光合成、一次代謝から二次代謝系路を解説するとともに、食品や医薬として利用される機能性成分の種類、構造の特徴を教授する。植物二次代謝成分のうち、特に、機能性成分として注目されているポリフェノール類や高分子配糖体について解説し、有用成分を多く含む農産物の例を紹介する。また、植物成分の分子構造を解析する機器分析法として、赤外吸収スペクトル解析法、核磁気共鳴スペクトル解析法や、質量解析法を紹介し、総合的なスペクトル解析による化学構造の解析に関する問題演習を行う。</p>	
<p>植物バイオテクノロジー特論</p>	<p>(概要) 植物の有用成分の生産と構造解析に利用される植物バイオテクノロジーについて紹介する。植物組織培養技術であるクローン増殖、器官培養、及び遺伝子導入技術を活用した有用成分の大量生産と生合成制御の例を紹介する。また、実際のバイオテクノロジーで生産される有用成分として、フェノール配糖体類、ポリフェノール類、アントシアニンやフラボノイド等の植物色素、また薬用植物由来の薬理活性成分の生産について紹介する。さらに、各種バイオテクノロジーによる有用植物の増殖や食品、医薬分野で応用される有用二次代謝成分生産に関連した研究論文を読み進める。</p>	

ゲノミクス特論	<p>(概要) 分子細胞生物学の中でも、高速シーケンサーを活用したゲノムのデータの解析について講義する。そのことで、最先端技術であるゲノミクスを教育・研究現場に生かすための即戦力を身につける。具体的には、「ゲノムとは?」、「DNA・アミノ酸配列の整列」、「高速シーケンサーの原理」、「オペレーティングシステムLinuxの基礎」、「オペレーティングシステムLinuxの発展的基礎」、「参照ゲノム配列と、高速DNAシーケンサーにより得られたデータの比較 (マッピング)」、「参照ゲノム配列と、高速DNAシーケンサーにより得られたデータの比較 (SNVの検出)」、「高速DNAシーケンサーにより得られたDNAデータのアセンブリ」について、実際に端末に触れながら講義する。</p>	
トランスクリプトミクス特論	<p>(概要) 分子細胞生物学の中でも、高速シーケンサーを活用したトランスクリプトームのデータの解析について講義する。そのことで、最先端技術であるトランスクリプトミクスを教育・研究現場に生かすための即戦力を身につける。具体的には、「トランスクリプトームとは?」、「データサイエンス向けプログラミング言語Rの基礎と応用」、「参照ゲノム配列と、高速DNAシーケンサーにより得られたデータの比較 (マッピング)」、「参照ゲノム配列と、高速DNAシーケンサーにより得られたデータの比較 (発現量比較)」、「高速DNAシーケンサーにより得られたRNAデータのアセンブリ」、「遺伝子オントロジー解析」、「パスウェイ解析」について、実際に端末に触れながら講義する。</p>	
有機分子化学特論Ⅰ	<p>(概要) 身の回りには、プラスチック、化粧品、医薬品、食品添加物などの有機分子が存在する。それら有機分子の性質を官能基の性質や構造から分子レベルで理解することを講義の目標とする。また、官能基の同定法について、NMRスペクトル解析を中心に実践的な講義をする。有機化合物の反応について反応様式別に整理しながら高度な知識を身につけることを講義の目的とする。石油化学や化粧品の化学についても実際の例を交えながら講義する。また、官能基の同定法について、NMRスペクトル解析を中心に実践的な講義をする。有機化合物の反応について基礎的な幾つかの反応について講義する。石油化学や化粧品の化学についても講義する。</p>	
有機分子化学特論Ⅱ	<p>(概要) 天然資源に関連する有機分子、例えば植物などに含まれる有機化合物の性質・反応について専門的に理解を深めることを目的とする。また、関連する有機化合物の反応 (ラジカル反応、付加反応、酸化反応、芳香族分子の反応、クロスカップリング反応など) について講義する。医薬に関連する分子などの講義も行い、医薬分子がどのようにして設計・開発されてきたか、また、設計した化合物をどのようにして合成するかについての講義を行う。これらの知識が実践的に使えるように合わせて、演習形式で授業を行う。</p>	
感覚分子細胞学特論	<p>(概要) 動物が外部環境の情報を的確に入手するために必須である五官、その五官を制御する分子メカニズムについて基礎から最新の知見を元に教授する。具体的には五官をつかさどる器官、五官を制御する分子 (受容体遺伝子と分子進化・受容体の機能解析方法)、シグナル伝達メカニズム (神経における活動電位とシナプス・化学感覚と脳神経回路)、脊椎動物と無脊椎動物の味覚・嗅覚受容の分子メカニズムにおける共通点と相違点、そして化学感覚が引き起こす行動変化について紹介する。</p>	
動物分子ストレス科学特論	<p>(概要) 動物生体内における種々のストレスに対する分子レベルでの応答、ストレス受容後の修復メカニズムおよびストレス受容における生理・行動の変動について基礎から最新の知見を元に享受する。具体的には、ストレスの種類と因子、生体内のストレス応答分子とその遺伝子発現様式、ストレス受容後の修復メカニズム (免疫応答と酸化損傷ストレス修復)、そしてストレス受容における動物行動 (感覚受容様式および摂食行動) の変動について紹介する。</p>	

ケミカルバイオロジー 特論 I	(概要) ケミカルバイオロジーとは、” chemistry-initiated biology” と定義される比較的若い研究分野です。その名前の通りこの研究分野は化学と生物学の境界領域に位置し、化学的手法を大胆に駆使する事によって生命現象の解明を目指しています。本特論では、ケミカルバイオロジー研究によって得られた成果の中でも、特に主要なもの、特に顕著なものについて紹介すると共に、それらのエッセンスの抽出を行っていきます。	
ケミカルバイオロジー 特論 II	(概要) ケミカルバイオロジーは、化学的手法を利用して生命現象の解明を行う事を目的とする、比較的若い研究分野です。若い分野にもかかわらず、ケミカルバイオロジー及びその関連分野からは、新しい方法論や新しい考え方が生み出されてきています。本特論では、こうした新しい方法論や考え方を紹介します。さらに、そうした方法論の「応用」について討議・発表を行う事で、アイデアの活かし方やプレゼンテーション技術の向上を図ります。	
分子生命科学特論	(概要) 生命の基本単位は細胞であり、細胞が集合し有機的なシステムによって統合された活動をするのがヒトを含めた多細胞生物である。地球上には種々様々な生物が存在するが、それらの細胞が行う生命活動の基本的な仕組みは共通している。最も重要な細胞による生命活動は、遺伝子を基盤とした自己複製と代謝による外界からのエネルギーならびに自己構成成分の獲得である。本科目では主に細胞とその集合体である個体が営む様々な生命現象とその基本的な仕組みについて学ぶ。	
分子生化学特論	(概要) DNA, RNA, タンパク質の発現, 機能, 維持機構について解説を行い, 細胞あるいは生体が生命を維持している仕組みについて理解する。具体的には, 遺伝子発現機構, エピジェネティクス, 制限酵素学, ペプチド・タンパク質の構造—機能相関, 糖鎖生物学, 細胞内情報伝達機構の事項より構成して, これらの事項についての理解を深めることにより, 当該科目の目標を目指す。	
生体分子機能学特論 I	(概要) 生体が生存しあるいは活動するには, 様々な分子が関与する化学的基盤が存在している。多様な化学反応が制御されその結果生命が維持されており, そこには生体触媒である様々な酵素が重要な役割をになっている。ここでは, 酵素の触媒化学とその理論的背景, 調節機構, 研究する上における有用な速度論的解析手法などについて学んでもらう。	
生体分子機能学特論 II	(概要) 生命現象に関与するいろいろな生体分子について, その構造・機能・生合成という点から解説する。タンパク質や核酸に限らず, 多糖類から活性酸素種等まで, 生体内で機能する分子全般, さらに薬物や毒物などの外来化合物のような, 生体に何らかの働きをもつ分子についても, その構造や化学的性質を通してどのように生命現象に関わっているかを知り, 生体の正常な働きや病的状態の理解を深めてもらう。	
生体防御学特論	(概要) 生体は, 異物を排除し恒常性を維持する仕組みを備えている。異物には, 病原体や病原体由来の病原体関連分子パターンに加え, 変性細胞や変性タンパク, およびこれら由来のダメージ関連分子パターンなどが含まれ, 感染症や腫瘍はもっとも異物排除機構が必要とされる病態である。この概論ではさまざまな病的因子とそれに対する生体の防御反応の基礎を学習する。	
生体機能制御学特論	(概要) 生体は, 細胞や組織を構築するさまざまな分子と細胞や組織間で情報を伝達する分子などの働きによりその機能が制御されている。本講義では, 細胞内, および細胞間情報伝達物質の機能を概説し, これらの情報伝達を制御する物質や薬剤の働きを調節することにより, 病的な状態を改善する方法を理解する。	

<p>実験動物学特論</p>	<p>(概要) 医学・生物学的研究において、動物実験は重要な役割を果たしている。動物実験を実施するにあたって、特に重要な動物実験に関する法令・規則、実験動物の種類、実験動物の遺伝的統御や微生物学的統御、実験動物の適切な飼育管理、人獣共通感染症、実験動物の麻酔方法等について解説する。また、疾患モデル動物を用いた病態解析や治療法の確立といった、医学研究における実際の利用例を紹介し、動物実験の意義と実験動物福祉に基づいた適切な動物実験について考察する。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(45 北嶋修司／5回) 動物実験に関する法令・規則、実験動物の種類、実験動物の飼養環境、実験動物の麻酔・安楽死法</p> <p>(73 松久葉一／3回) 実験動物の遺伝的統御と微生物学的統御、人獣共通感染症、疾患モデル動物</p>	<p>オムニバス方式</p>
<p>動物発生工学特論</p>	<p>(概要) 発生工学とは、主として生物の初期胚に対して行う実験操作であり、哺乳動物においては、新しい実験動物の開発、家畜の改良、動物個体を利用した有用物質の生産(動物工場)など、動物資源のより効率的な活用に利用される。本講義では、胚発生の基礎、生殖細胞の操作、人工授精と体外受精、胚の遺伝子操作、倫理と法規制について解説する。また、特に、実験動物学分野への応用として、遺伝子改変動物の作製方法や医学研究への利用例について紹介し、倫理問題も含め、発生工学が現在の生命科学研究の進展にどのように貢献してきたかを理解する。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(45 北嶋修司／5回) 胚発生の基礎、生殖細胞の操作、人工授精と体外受精、倫理と法規制</p> <p>(73 松久葉一／3回) 胚の遺伝子操作、遺伝子改変動物の利用</p>	<p>オムニバス方式</p>
<p>分子遺伝学特論</p>	<p>(概要) ヒトゲノムの基本を理解し、疾患発症機序としてのゲノム異常やエピゲノム異常およびそれに起因する分子機構を学習する。さらに、遺伝子診療学やゲノム医療の基礎を学び、臨床を理解できるようになるための知識と考え方を身につける。</p>	
<p>基礎腫瘍学特論</p>	<p>(概要) 腫瘍は「特定の細胞が生体内で自律的に増殖し続けている状態」であり、一般に宿主を死に至らしめる頻度の高い腫瘍を悪性腫瘍という。様々な要因により遺伝子機能に異常を来した腫瘍細胞は、正常なコントロールを失って自律的に増殖し続ける。腫瘍を理解するには、細胞で行われるすべての生命現象、つまり生命そのものをみつめることが必要である。また、腫瘍は健康問題であると同時に社会問題でもある。本科目では、腫瘍に関する疫学、病理学、遺伝学、分子生物学の基礎的な知識を修得する。</p>	
<p>健康機能分子科学演習A</p>	<p>(概要) 健康機能分子科学コースでは、理学・医学・農学を跨ぐ、融合的な共通教育を基盤とするとともに、それぞれの専門分野において先進的な知識と実践力を身につけるための演習を行う。健康機能分子科学演習Aでは、学部で学んだ専門科目を基礎として、健康機能分子科学の関連分野に関する高度な専門的な内容について、書籍・雑誌・インターネットを通じて自ら学習する。担当教員の指導のもと、学生は少人数グループで学習した内容を講義形式で発表し、その内容について他の学生と議論する。健康機能分子科学の関連分野に関する、より高度な専門的知識を習得するとともに、その内容を他者が理解できるように説明できる能力を身につけさせる。</p>	

健康機能分子科学演習B	<p>(概要) 健康機能分子科学コースでは、理学・医学・農学を跨ぐ、融合的な共通教育を基盤とするとともに、それぞれの専門分野において先進的な知識と実践力を身につけるための演習を行う。健康機能分子科学演習Bでは、健康機能分子科学の先進的な専門分野において、学生が興味のある研究テーマに関する論文や総説について調査し、担当教員による指導と協議のもとでそれらの内容を整理・総括する。さらに、他の学生および教員が参加するセミナーにおいて、学生自身がまとめた内容を発表し、内容について討論を行う。学生は、健康機能分子科学領域の先端的研究内容を理解し、自らの研究方針の策定に役立てることを目指す。</p>	
健康機能分子科学演習C	<p>(概要) 健康機能分子科学コースでは、理学・医学・農学を跨ぐ、融合的な共通教育を基盤とするとともに、それぞれの専門分野において先進的な知識と実践力を身につけるための演習を行う。健康機能分子科学演習Cでは、コース教員が健康機能分子科学の先進的な専門分野に関する最近の研究内容について教授する。学生は最先端のオリジナルな研究内容を学修すると同時に、興味ある専門分野に関して教員と質疑を行うことで、ディスカッション能力の向上を目指す。学生は単一またはグループの研究分野の学生とも討論することで、健康機能分子科学領域における幅広い知見を涵養する。</p>	
健康機能分子科学演習D	<p>(概要) 健康機能分子科学コースでは、理学・医学・農学を跨ぐ、融合的な共通教育を基盤とするとともに、それぞれの専門分野において先進的な知識と実践力を身につけるための演習を行う。健康機能分子科学演習Dでは、学生は学会や学内で開催される講演会に参加して、講演やポスター発表を聴講する。予め発表されるプログラムで自分の研究に近い発表や興味ある発表を選択し、論文等で事前に学習しておく。聴講後は内容を報告書にまとめ、指導教員に提出する。学生が自発的、継続的に学会や講演会で新たな情報を得て、自分の研究に生かす方法を身に付けることを目指す。</p>	
健康機能分子科学特別演習A	<p>(概要) 健康機能分子の探索、調製、構造解析と生理機能評価に関する先端技術を教授する。担当教員は、各研究分野で保有する各種分析機器を活用した先進技術を提供することで、履修学生に対して研修形式で指導する。演習は、前期期間中に集中で開講し、学生は各自興味ある研究分野をクラス分け方式で選択する。学生は、選択した研究専門分野において、健康機能分子科学に関する幅広い知識と先進技術を習得し、各自の研究遂行に応用することを目指す。</p>	
健康機能分子科学特別演習B	<p>(概要) 国際教育パートナーシップとの連携をもとに、協定校および佐賀大学の教員による最新の化学に関する講義を英語によって行う。最新の化学研究について英語での講演から理解する。また、受講生はポスターによる研究発表を英語で行うことにより、英語による発表および質疑応答を経験する。演習は、後期期間中に集中で実施される。学生は、英語力の向上と国際性豊かな研究感覚を養うことで、健康機能分子科学に関連する各自の研究遂行に繋げる。</p>	
健康機能分子科学特別演習C	<p>(概要) 健康機能分子の探索、調製、機能解析と医学的評価に関する先端技術を教授する。担当教員は、共通施設、ならびに各研究分野で保有する各種分析機器を活用した先進技術を提供することで、履修学生に対して研修形式で指導する。演習は、通年で開講し、学生は各自興味ある研究分野をクラス分け方式で選択する。学生は、選択した研究専門分野において、健康機能分子科学に関する幅広い知識と先進技術を習得し、各自の研究遂行に応用することを目指す。</p>	

<p>病因病態学概論</p>	<p>(概要) 病気とは、生体の営みが正常範囲を逸脱して生体にとって不利益な状態となることである。炎症、変性、腫瘍は奇形とともに病気を構成する4つの要素である。この概論では、様々な病的因子(病因)と、それに対する生体の反応(病態)の基礎を学習する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(220 原博満/1回) 病原体・異物に対する防御機構のうち、自然免疫、および腸管免疫を概説する。</p> <p>(18 吉田裕樹/1回) 病原体・異物に対する防御機構のうち、獲得免疫、および移植・癌免疫を概説する。</p> <p>(79 戸田修二/1回) 正常、および病的な状態における細胞・組織の病理学的変化について概説する。</p> <p>(144 久木田明子/1回) 骨組織の形成に関わる細胞やサイトカイン、また骨髄由来の食細胞の機能や分化を概説する。</p> <p>(15 宮本比呂志/1回) 病原体が引き起こす感染症の生物学的・環境的要因、および病原体由来の病原因子や生体由来の防御因子について概説する。</p> <p>(66 三宅靖延/1回) 免疫関連分子、および免疫細胞について概説する。</p> <p>(37 相島慎一/1回) ヒト悪性腫瘍の病因、発生過程と、浸潤・転移などの特徴について、病理学的な観点から学習する</p> <p>(218 松崎吾朗/1回) 病原体に対する生体防御機構全般について概説する。</p>	<p>オムニバス方式</p>
<p>社会・予防医学概論</p>	<p>(概要) 社会と密接に関連する医学である予防医学、環境医学および法医学に関する基本的事項について概説する。人間総合医学としての社会医学の重要性を認識すると共に、国民の衛生水準の向上を図るための問題解決能力を身につけてもらう事を目的とする。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(8 田中恵太郎/2回) (第1回) 予防医学の意義・役割について概説する。また、健康の定義と公衆衛生の意義・役割について学ぶ。 (第2回) 感染症成立の要因、感染症予防の原理および感染症発生時の社会的対応について概説する。また、わが国における主な感染症・食中毒の発生状況と予防対策について解説する。</p> <p>(59 原めぐみ/1回) (第3回) 人口静態統計、人口動態統計、有病統計について概説し、それらの推移と現状を学ぶ。また、わが国の政府統計データの活用方法について解説する。</p>	<p>オムニバス方式</p>

専 門 科 目		<p>(215 西田裕一郎／1回) (第4回)生活習慣病の種類と特徴, 生活習慣病による死亡や罹患状況について学習する。また, 日本人の生活習慣(運動習慣など)の現状と生活習慣病・メタボリックシンドローム対策について解説する。</p> <p>(21 市場正良／1回) (第5回)環境と健康の関係について概説する。また, 大学の教育, 研究活動における環境負荷を考える。</p> <p>(210 松本明子／1回) (第6回)産業医学の意義・役割について概説する。主に産業保健の現状と問題点, 職業性の健康障害の発生機序と予防, 生物学的モニタリングの手法と意義について学ぶ。</p> <p>(148 小山宏義／2回) (第7回)法医学とは何か, 生および死とは何か, ヒトを死に至らしめるものには何かがあるのかについて学ぶ。 (第8回)異状死とは何か, 死因究明制度にはどのようなものがあるのかについて概説する。</p>	
	分子生命科学概論	(概要)生命の基本単位は細胞であり, 細胞が集合し有機的なシステムによって統合された活動をするのがヒトを含めた多細胞生物である。地球上には種々様々な生物が存在するが, それらの細胞が行う生命活動の基本的な仕組みは共通している。最も重要な細胞による生命活動は, 遺伝子を基盤とした自己複製と代謝による外界からのエネルギーならびに自己構成成分の獲得である。本科目では主に細胞とその集合体である個体が営む様々な生命現象とその基本的な仕組みについて学ぶ。	
	総合ケア科学概論	(概要)医学的観点からのアプローチに加え, 広義のリハビリテーションの各領域, そして介護などの隣接領域を含む広範囲の分野からの支援を総合ケアとして包括し, その基礎的概念や方法論, 更に臨床や実践活動における事例などを加えて講義を行う。支援の対象者としては主に高齢者や障がい者, さらにがんや難病患者, そしてその家族なども含み, 問題点を抽出し, 具体的支援の例や, 解決策について資料をもとにして考察を行うことが出来るように講義を構成していく。	
	臨床腫瘍学概論	(概要)悪性腫瘍の病態および管理方法についての基礎的な事項を系統的に学習することにより, 研究, 実習に応用可能な基礎知識を習得する。悪性腫瘍の病態, 外科的侵襲と機能の保全, 薬物治療概説, 緩和ケア概説, 悪性腫瘍リハビリテーション概説, 患者管理とチームアプローチについて学ぶことを通して, 悪性腫瘍の病態と外科的治療, 薬物療法, 緩和ケア療法, リハビリテーションなどの治療の概略を理解し, 悪性腫瘍患者に対する包括的なアプローチ, 患者管理についての適切な方策を立案することができることを目指す。	
	病院実習	<p>(概要)臨床医学概論で得た知識を病院現場で認識し, 個々の問題意識を明確にしてその問題解明への理論的思考法と研究態度を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全9回)</p> <p>(91 山下秀一／1回) 総合診療部における診断と治療の実際について学ぶ。</p> <p>(24 坂口嘉郎／1回) 手術部・集中治療部の業務と特殊性について学ぶ。</p> <p>(9 入江裕之／1回) 放射線部の業務と特殊性について学ぶ。</p>	オムニバス方式

		<p>(136 阪本雄一郎／1回) 高度救命救急センター実習：救急現場における救急搬送に関わる現場やドクターヘリ，ドクターカーなど病院前診療の現場に関する病院実習</p> <p>(22 木村晋也／1回) 内科学における診断と治療の実際について学ぶ。</p> <p>(133 江内田寛／1回) 眼科学における診断と治療の実際について学ぶ。</p> <p>(6 倉富勇一郎／1回) 耳鼻咽喉科・頭頸部外科の外来診療，入院診療の実際を見学し，概要を理解する。</p> <p>(132 山下佳雄／1回) 歯科口腔外科における診断と治療の実際について学ぶ。</p> <p>(101 能城浩和／1回) 術前カンファレンスに参加して疾患の評価と術式の選択について，さらに手術場にて実際の手術について触れる。</p>	
専門科目	医用統計学特論	(概要)医学領域においてよく用いられる統計学的手法の基礎知識を理解し，具体的なサンプルデータと統計解析ソフトウェアを用いたコンピュータ演習により医学領域における研究に必要な統計解析の実践的技術を修得することを目指す。データの表示，推定と検定，連続量の群間比較，分割表解析，相関と回帰，回帰分析，生存時間解析について学び，さらにこれらを用いたデータ解析結果のまとめ方についても学ぶ。	
	医用情報処理特論	(概要)はじめに情報処理技術の基本として，データサイエンス，ゲノム解析等において使用されることの多いプログラム言語Pythonの初歩を講義する。その後，応用として，時系列解析に関する基礎理論を講義し，Pythonや統計処理言語Rを用い実践する。さらに，昨今，医学分野でも使用される事が増えてきたAI（人工知能）の基盤技術であるニューラルネットワーク，特にDeep learningなどの機械学習の基礎理論を講義する。	
	バイオテクノロジー特論	(概要)遺伝子操作技術は，生命現象における遺伝子機能の研究手段として発達した。しかし，今日ではこの技術が生化学，発生学，細胞学の技術と組み合わせさせたバイオテクノロジー技術が急速に進歩している。この技術は，基礎生物学，基礎医学，臨床医学の研究手段として有用だけでなく，臨床医学での治療や農業，畜産などの産業での応用面でも非常に重要になっている。本科目では，医学・生物学に携わる人間に必要なバイオテクノロジーの基礎から応用までを習得することを目的とする。	

<p>解剖学特論</p>	<p>(概要) 本授業科目は、人体の構造的脆弱性と恒常性を主題として、従前の講義とは異なる視点で人体構造を概観した上で、講義、ディスカッション、文献等による自己学習、プレゼンテーションの作成・発表を通じて、人体の包括的理解を深めることを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(20 倉岡晃夫/4回) 器官系、区画化(コンパートメント化)をキーワードとして人体構築を捉え直し、その構造的脆弱性に基づいて発症する各種疾患について、学習成果のプレゼンテーションを行う。</p> <p>(28 城戸瑞穂・145 村田祐造/4回) (共同) 自身の研究テーマと関連する神経系の調節機構について、過去の報告を踏まえた上で今後の研究を進めるための課題を明確化し、その過程と今後の取り組みについてプレゼンテーションを行う。</p>	<p>オムニバス方式、 共同(一部)</p>
<p>生理学特論</p>	<p>(概要) 人体の生理機能の中で、血液循環に働く心臓と情報伝達に働く感覚・神経系の2つを取りあげ、それぞれの働きとその制御の仕組みを細胞膜および受容体やイオンチャネルレベルで紹介する。また、チャネルタンパク異常による機能異常についても説明する。これらにより、心臓および感覚・神経系の働きを、チャネルレベルで理解できることを目指す。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(60 藤田垂美/4回) 「神経と受容体・イオンチャネル」というテーマで2回、および、「痛覚と受容体・イオンチャネル」というテーマで2回、講義を行う。</p> <p>(212 塩谷孝夫/4回) 「イオンチャネルは心臓の拍動をもたらす」というテーマで2回、および、「イオンチャネル病と遺伝性不整脈」というテーマで2回、講義を行う。</p>	<p>オムニバス方式</p>
<p>微生物学・免疫学特論</p>	<p>(概要) 病原体、および病原体に対する防御免疫に関して、細胞・分子レベルでの生体反応の理解を目指す。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(66 三宅靖延/2回) 自然免疫に関わる細胞、および免疫関連分子。</p> <p>(15 宮本比呂志/1回) 感染症の生物社会的環境、および病原性因子。</p> <p>(216 三田村文香/2回) 寄生虫の代謝経路と創薬、病原体の免疫回避機構。</p> <p>(213 菖蒲池健夫/1回) 病原体由来の内毒素、外毒素。</p> <p>(18 吉田裕樹/2回) 癌免疫・移植免疫、細胞の分化と関連因子。</p>	<p>オムニバス方式</p>

<p>薬物作用学特論</p>	<p>(概要)人体に投与された薬物がどのように吸収・代謝・排泄されるかを知り、薬物動態の基礎知識を得る。次に、神経系に働く薬物を取り挙げて効果を発揮する仕組みを知る。最後に、中枢神経系、特に精神機能に働く薬物、また心血管作動薬の治療への応用を取り挙げて臨床的に薬物がどのように使用されるかを知り、薬物臨床応用の一端が理解できるようにする。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(60 藤田亜美／3回) 1)シナプス伝達と薬物:神経終末と神経伝達物質を受容するシナプス後細胞のそれぞれに作用する薬物とその作用機構について講義する。</p> <p>(102 野出孝一／3回) 2)心血管作動薬の作用機序と治療への応用:心血管作動薬の薬物動態,作用機序,併用効果,有害作用と各種疾患治療への応用法を学習することによって,合理的根拠を持った薬物治療の重要性を理解させる。</p> <p>(84 門司晃／2回) 3)精神機能と薬物:精神機能に異常を示す患者に投与された薬物が脳内にどのように取り込まれ,どのような仕組みでその作用を發揮するかを講義する。</p>	<p>オムニバス方式</p>
<p>病理学特論</p>	<p>(概要)ヒトの疾病における形態的または機能的な異常,診断法について,病理学的な観点から学習する 近年の分子生物学の発達は目覚ましく,医学の分野においても遺伝子レベルで疾患の解明が進みつつある。しかし疾病の原因,発生機序,病的変化,その経過および転帰を理解するためには,まず幅広い病態生理を理解することが大切である。病理学特論では,特に生体にとって重要な細胞や組織が障害された場合の生体の変化や再生・修復機構について理解する。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(79 戸田修二／3回) 「脂肪細胞」:脂肪細胞の新しい生物学的特性について学ぶ。 「再生医学Ⅰ,Ⅱ」:再生医学の基礎と基本概念,応用を学び未来医学を展望する。</p> <p>(37 相島慎一／3回) 「血管Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ」:血管内皮細胞の形態と機能を中心に,内皮細胞が炎症,免疫,癌の血行性転移に関与する機構を学ぶ。また近年の血管新生の概念と治療への可能性についても学ぶ。</p> <p>(162 青木茂久／2回) 「細胞診断学Ⅰ,Ⅱ」:細胞診断学の基礎と実際の診断方法を学ぶ。特に子宮癌における細胞診断を例にして,がん検診における問題点も含め,社会的な展望にも言及する。</p>	<p>オムニバス方式</p>
<p>法医学特論</p>	<p>(概要)人の死に関し,死の概念と定義,生物学的な個体の死,死の三徴候,死の判定,死に伴う家族のケアを学ぶ。法歯学(歯科法医学)の基礎を学び,歯科学的個人識別を理解する。死後変化や損傷,窒息などの法医診断学の基礎を学び,高温による障害,熱中症,熱傷,焼死,低温による障害,凍傷,凍死,電撃傷,あるいは中毒についても理解し,的確な診断ができることを目標とする。適切な文書作成についても学ぶ。</p>	<p>解剖が実施される際は,見学実習とする場合もある。</p>

<p>環境・衛生・疫学特論</p>	<p>(概要)我々にとって身近な環境である住環境や食べ物をめぐる食環境の実態とその問題点を明らかにするための基礎知識を学ぶと共に、それらの知識を健康問題と関連させて理解する。疫学研究手法の理論と実際、さらには倫理的問題などについて学ぶと共に、人間集団の特性を解析する手段としての疫学が如何に重要であるかを理解する。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(21 市場正良／4回) 「食と健康1」:食の安全性評価, 食品添加物 「食と健康2」:遺伝子組み換え食品, リスクコミュニケーション 「住環境と健康1」:シックハウス, 化学物質過敏症, 電磁波 「住環境と健康2」:住宅の温熱環境と健康</p> <p>(8 田中恵太郎／4回) 「疫学研究手法1」:疫学の定義と概念, 記述疫学, 分析疫学, コホート研究, 相対危険, 寄与危険 「疫学研究手法2」:症例対照研究, オッズ比, 介入研究 「疫学研究の実際」: 疫学研究の実例(がんの疫学など) 「疫学研究の倫理的問題」: インフォームドコンセント, 個人情報保護, 倫理審査委員会, 人を対象とする医学系研究に関する倫理指針</p>	<p>オムニバス方式</p>
<p>精神・心理学特論</p>	<p>(概要)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 精神障害の分類と病態, 精神科医療の概略を理解する。 2) 児童青年精神医学の概要を理解する。 3) 今後増加が予想されるストレス関連疾患や生活習慣病に関する基本的知識や考え方を習得し, どのような生物心理社会的要因があるのかを理解し, その予防医学的見地からの知識や技術を身につけることを目的とする。 4) 心理療法ないし精神療法(含むカウンセリング)の領域における課題の一つである成功的な援助の条件について検討する。 5) 心理臨床の実践的基礎を理解し, 心理臨床研究の理解を促進し, 医療チームの一員として心理臨床について理解することを目指す。 <p>(オムニバス方式／8回)</p> <p>(84 門司晃／1回) 精神医学の成り立ち</p> <p>(174 溝口義人／1回) 児童青年精神医学の基礎</p> <p>(1 堀川悦夫／2回) 認知神経心理学の基礎, 認知機能測定の方法と問題点</p> <p>(92 佐藤武／2回) 生活習慣病の診断と治療, ストレスに対する心理療法</p> <p>(40 村久保雅孝／2回) 心理臨床の原理, 心理臨床の理論・技法・効果</p>	<p>オムニバス方式</p>
<p>遺伝子医学特論</p>	<p>(概要) ゲノム医科学とエピジェネティクス医科学の基本的項目および発展的項目について学習し, ヒト疾患発症と遺伝要因との関係性, 集団遺伝学的観点からの諸問題などを習得することで, 個人のゲノム情報(遺伝情報)に基づいたゲノム医療を理解する。</p>	

<p>周産期医学特論</p>	<p>(概要)子宮内環境から子宮外環境への適応の機構を母体および児について生理学的、生化学的観点から理解し学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(14 松尾宗明／4回) 出生直後におきる児の生理的な適応機構、新生児期の栄養と代謝、免疫の特徴、神経学的な特徴とその後の発達について評価法と指標について学ぶ。</p> <p>(11 横山正俊／4回) 胎児の発育と成熟の過程における生理的な子宮内環境、胎児の発育と成熟を計測する指標、その評価法、周産期の母体のホルモン環境とその調節の機構について学ぶ。</p>	<p>オムニバス方式</p>
<p>リハビリテーション医学特論</p>	<p>(概要)心身機能低下に対するリハビリテーション医療を行う上で、必要な診断あるいは障害評価の方法、治療法などの確立・開発に必要な知識や技術、あるいは動作の分析や解析、機械工学技術などの手法などを理解する。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(39 浅見豊子／7回) (第1回)リハビリテーション医学の理念 (第3回)リハビリテーション医学の診断法 (第4回)リハビリテーション医学の各治療法 (第5回)リハビリテーションに関わる技術 (第6回)リハビリテーションに関わる諸制度 (第7回)各疾患の特徴およびリハビリテーションの適応Ⅰ (第8回)各疾患の特徴およびリハビリテーションの適応Ⅱ</p> <p>(1 堀川悦夫／1回) (第2回)リハビリテーションに必用な評価法</p>	<p>オムニバス方式</p>
<p>地域医療科学特論</p>	<p>(概要)医療の高度化と情報技術の進歩、少子高齢化と社会のグローバル化による人々の意識の変化、医療費の高騰などを背景とする医療変革の世界的潮流が、医療現場を急速に様変わりさせている。地域医療科学特論では、外来診療、在宅医療、高齢者介護、救急医療、健康教育(予防医学)など、地域の保健・医療・福祉システムを理解し、地域包括医療における円滑な連携を推進し、専門職者として現場の諸問題に適切に対処するための基本的考え方を身につける。</p>	
<p>アカデミックリーディング</p>	<p>(概要)医学・看護学の分野にとらわれることなく、様々な種類の英語の読み物を読みながら、語彙力および読解力を強化し、それによって英語での表現力を養っていくことを究極の目標とする。授業中の会話のやりとりは基本的にすべて英語のみとし、毎回、読了済みの英語文献にまつわるディスカッションを全員で行っていく。</p>	
<p>臨床腫瘍学</p>	<p>(概要)悪性腫瘍の病態および治療方法に関わる医学的理解は急激に深まり、臨床腫瘍学の発展の礎となっている。悪性腫瘍の発癌と増殖、浸潤、転移を含めた進展の生物学的メカニズムから、悪性腫瘍の診断、集学的治療から緩和ケアまで、系統的に臨床腫瘍学を学ぶ。治療学については、悪性腫瘍の手術療法、薬物療法、放射線治療、緩和治療、リハビリテーションを、造血器、消化器、呼吸器、婦人科、泌尿器、頭頸部、脳神経などの各領域について、集中講義形式で行う。</p>	

<p>がんゲノム医療実習</p>	<p>(概要) 悪性腫瘍の治療方法の進歩は目覚ましく、それぞれの分野で適切な治療方法の選択を行い、安全にそれを遂行する医師を確保するための研修制度を確立する必要性が生じてきた。ことにゲノム医療に関する研究成果は国内外で急激に蓄積しつつあり、実用化が加速している。(1) がんゲノム医学の基礎を学び、分子生物学の成果をオーダーメイド医療へと生かす基盤を獲得、(2) EBMの概念を理解し、適切な文献の検索・引用ができる、(3) ゲノム解析情報にもとづいた治療の選択ができるようになることを目標に、EBM、治療実践、ゲノム医療をとりまく倫理・法律・社会的問題について学び、ゲノム医療を適切に臨床に適應する土壌を涵養する。</p>	
<p>小児・希少がん医療講義</p>	<p>(概要) 悪性腫瘍の治療方法の進歩は目覚ましく、それぞれの分野で適切な治療方法の選択を行い、安全にそれを遂行する医師を確保するための研修制度を確立する必要性が生じてきた。小児・希少がん患者が、安心して適切な医療・支援を受けられるよう、医療チームとして集学的医療に携わる人材を育成することを念頭に、(1) 小児・AYA世代のがん、および希少がんの特徴を説明できる、(2) EBMの概念を理解し、適切な文献の検索・引用ができる、(3) 晩期合併症と長期フォローアップの問題点、患者・家族支援を知ること目標に、EBM、治療実践について学ぶ。</p>	
<p>ライフステージに応じた医療</p>	<p>(概要) 悪性腫瘍の治療方法の進歩は目覚ましく、それぞれの分野で適切な治療方法の選択を行い、安全にそれを遂行する医師を確保するための研修制度を確立する必要性が生じてきた。ライフステージによって異なる精神的苦痛、身体的苦痛、社会的苦痛といった全人的苦痛(トータルペイン)を理解し、これを和らげて、患者の社会復帰等を支援するためのチーム医療を学ぶ。(1) ライフステージに応じたがん予防医学知識を得る、(2) ライフステージに応じた包括的支援ができる、(3) 社会との関わりの中でライフステージに応じたがん医療を遂行できることを目標に、EBM、治療実践について学ぶ。</p>	
<p>臨床腫瘍治療実習 I ～ VI</p>	<p>(概要) 悪性腫瘍の治療方法の進歩は目覚ましく、それぞれの分野で適切な治療方法の選択を行い、安全に治療を実施する医師を養成する必要がある。薬物療法、緩和療法、もしくはリハビリテーションの分野において、一定レベルの臨床経験と、エビデンスに基づいた診断・治療法の習得を行い、地域の基幹病院でがん診療の中核となる医療人の養成をめざすものである。個々の医療人の領域に根ざし、悪性腫瘍患者の薬物療法において適切な薬剤管理を実施する、悪性腫瘍患者の疼痛をはじめとするさまざまな苦痛症状に対して緩和ケアを実践できる、悪性腫瘍患者のリハビリテーションの適切な評価と処方を行うことを目指し、悪性腫瘍患者の治療、管理の実践をおこなう。</p>	
<p>看護研究概論</p>	<p>(概要) 看護の向上を図るために必要な研究の方法について学ぶ。基本的な研究過程および方法論に関する知識を体系的に学修する。この過程を通して、研究と看護実践との関係を理解し、研究の意義と役割について探究する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(12 佐藤珠美/2回)</p> <p>第1回 EBMの5つのステップ</p> <p>第9回 倫理指針, 倫理審査委員会, 倫理申請</p>	<p>オムニバス方式, 共同 (一部)</p>

	<p>(67 熊谷有記／3回) 第2回 研究の種類と特徴 [記述研究・相関研究] 第10, 11回 研究論文クリティーク (グループワーク)</p> <p>(29 田淵康子／1回) 第3回 研究の種類と特徴 [実験研究, 准実験研究]</p> <p>(42 室屋和子／2回) 第4, 5回 研究の種類と特徴 [質的研究]</p> <p>(222 正岡美奈子・224 疋田恵介／3回) (共同) 第6～8回 文献検索 (和文・欧文)・演習</p> <p>(12 佐藤珠美・67 熊谷有記／2回) (共同) 第12, 13回 研究論文クリティーク</p> <p>(29 田淵康子・42 室屋和子／2回) (共同) 第14, 15回 研究論文クリティーク</p>	
<p>看護管理</p>	<p>(概要) 看護管理の基盤となる諸理論を理解し、看護管理者として組織運営および看護管理を実践するための知識と実践能力を養う。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(43 中野理佳／3回) 組織論, ケアマネジメント, サービスマネジメント, 看護の質保証と評価について教授する。</p> <p>(48 村田尚恵／5回) 看護管理の概念, 人材資源活用論, リーダーシップ論, 組織学習, 医療安全とリスクマネジメント, 看護管理分野の研究課題について教授する。また, 看護管理に関連する概念や理論を用いて, 看護管理上の問題点と課題解決に向けた方策について議論し理解を深める。</p>	<p>オムニバス方式</p>
<p>看護倫理</p>	<p>(概要) 倫理に関する原則的な理論や概念を学び, それらを基に看護における倫理規範や看護の道徳的基盤について教授する。さらに, 医療現場における倫理的ジレンマや教育・研究に関する倫理的課題を倫理の理論や概念, 方法論を基盤に分析し, 倫理的課題への創造的解決方法について看護の視点から理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(187 坂本麻衣子／2回) 医療従事者の職業倫理綱要及び自己決定権, インフォームド・コンセントについて教授する。</p> <p>(35 藤野成美／2回) 研究・調査に関わる倫理的課題と対処について教授する。また, 精神看護学領域における倫理的課題と対処について教授する。</p> <p>(42 室屋和子／2回) 成人・老年看護学領域における倫理的課題と対処について教授する。</p> <p>(43 中野理佳／2回) 母性看護領域及び看護管理領域における倫理的課題と対処について教授する。</p>	<p>オムニバス方式</p>

<p>看護教育論</p>	<p>(概要) 多様化するヘルスケアニーズに対応した質の高い看護ケアの提供と開発を促進するために、専門職として看護者が果たすべき教育的役割や機能を教授する。また、系統的教育活動の展開方法を教授し、さまざまな対象への効果的な教育を立案・実施できる能力を育成する。さらに、看護実践力の向上を目指した継続教育システムや生涯学習の観点から看護教育の現状と課題を明確化するとともに、変革者として制度的な整備も視野に入れた看護生涯学習システムの構築を検討する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(5 長家智子/7回) 看護基礎教育の現状と課題，看護継続教育（卒後教育と現任教育）の現状と課題，生涯学習と看護教育，継続教育に関わる諸理論（教育・学習理論），学習ニーズと看護教育方法・評価について教授する。</p> <p>(35 藤野成美/1回) カンファレンスにおける教育的意義について教授する。</p>	<p>オムニバス方式</p>
<p>コンサルテーション論</p>	<p>(概要) 看護活動における看護コンサルテーションの意義を理解し、コンサルテーション活動を行うための知識と実践能力を養う。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(43 中野理佳/4回) コンサルテーションの概念，及び基本的方法と原則について教授する。 組織中心の事例におけるコンサルテーションの実際，及びプロセスの展開について教授する。</p> <p>(221 田中まゆこ/2回) コンサルティ中心の事例におけるコンサルテーションの実際，及びプロセスの展開について教授する。</p> <p>(223 永渕美樹/2回) クライアント中心の事例におけるコンサルテーションの実際，及びプロセスの展開について教授する。</p>	<p>オムニバス方式</p>
<p>基礎看護学特論</p>	<p>(概要) 看護実践の基盤となる哲学，倫理，理論および技術が広範囲に渡っていることを理解するため，基礎看護学とは何かをはじめ，基礎看護学の研究領域における課題の考察について，基本的な知識を教授する。それを基盤にして，個々の学生自身で基礎看護学領域における課題を明らかにしていく過程を踏む。そのうえで，明らかになった課題について，関係する先行文献を検索し分析し，整理およびプレゼンテーションすることによって課題についての理解を深める。</p>	
<p>急性看護学特論</p>	<p>(概要) 健康状態の急激な変化（突発的な事故や重篤な疾病発症，病気の活動期，手術直後の急性期）などによって，クリティカルケアが必要とされる患者および家族の理解を深め，看護援助に活用できる理論を学習し，看護実践のあり方について探究する。</p>	

<p>老年看護学特論</p>	<p>(概要) 超高齢社会を迎え、高齢者とその家族を取り巻く社会情勢は大きく変化し、看護に求められる社会のニーズは多様化している。高齢者およびその家族の多様な健康問題に適切に対処できるよう、老年看護に有用な基本的な概念や諸理論について学習する。さらに、得た知識を看護実践の場で活用できる能力を身につけることを目指す。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(219 市丸徳美/2回) 認知症高齢者とその家族を取り巻く諸問題、ならびに求められる看護について解説する。</p> <p>(29 田淵康子・42 室屋和子/6回) (共同) 老年看護に有用な理論とその活用方法について文献を通して学ぶとともに、実践事例への理論の活用について解説する。</p>	<p>オムニバス方式</p>
<p>がん看護学特論</p>	<p>(概要) 最新のがん医療・看護の現状に対する認識を深め、がんと共に生きる患者および家族の理解とケアに関する理論を教授し、がん患者の病期に応じた看護実践のあり方について理解を深める。また、がん患者の事例に基づいて、包括的なアセスメントと問題の解決に向けた専門的な看護支援のあり方を探求する能力を養う。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(67 熊谷有記/6回) 最新のがん医療・看護の動向、緩和ケアとadvance care planing, 家族ケア, 化学療法と看護, 事例に基づいた包括的アセスメントケアについて教授する。</p> <p>(29 田淵康子/1回) 意思決定支援について教授する。</p> <p>(9 入江裕之/1回) 放射線治療と看護について教授する。</p>	<p>オムニバス方式</p>
<p>慢性看護学特論</p>	<p>(概要) 慢性病や慢性病をもつ人を取り巻く社会の特性を踏まえ、患者と家族の反応や療養行動について理解を深め、看護援助に活用できる理論や概念について探究する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(25 古賀明美/9回) 慢性病をもつ人と家族が抱える問題、慢性病者を支える地域の医療システムについて教授する。また、慢性病をもちながら生活する人の病みの軌跡を理解する方法、不確かな病気を理解するための方法について教授する。</p> <p>(67 熊谷有記/6回) 慢性病をもつ人と家族の反応・行動の理解に役立つ諸理論や概念について教授する。</p>	<p>オムニバス方式</p>
<p>母性看護学特論</p>	<p>(概要) 周産期および女性のライフサイクル各期に特有な発達課題および健康問題を身体的、心理・社会的関連から考察し、これらの問題を解決するために必要な理論、助産実践、研究方法について文献を用いて探究する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(12 佐藤珠美/6回) 文献を用いて、母性看護および助産の対象を理解、あるいは問題を解決するための理論、研究方法について教授する。</p> <p>(43 中野理佳/2回) 文献を用いて、助産実践の質向上を支える研究の役割について教授する。</p>	<p>オムニバス方式</p>

<p>生体構造観察法</p>	<p>(概要) 臓器を構成する細胞・組織を観察するための方法の理論と基礎技術の習得を行う。特に、細胞・組織が産生する物質を化学的に証明する方法を通して、それを実践・応用することにより、生命現象との関連性を理解する能力を養う。また、得られた結果や、そこから導かれた考察をまとめたプレゼンテーションを行うことにより、生体の構造と機能に対する理解を深める。</p>	
<p>小児看護学特論</p>	<p>(概要) 成長発達過程にある子どもと家族を理解し、より質の高い看護ケアを実践するために必要な理論、システム、支援方法を学ぶ。さらに、事例を通して多角的な観点から検証し、実践への応用と小児看護の専門性について教授する。さらに世界および日本の子ども観の変遷と発達理論の研究史、子どもの権利条約と子どもの権利を守る看護、子どもと臓器移植法、現代社会における子どもの生育環境と健康問題についても教授する。</p>	
<p>母性看護学演習</p>	<p>(概要) 母子の健康問題に対して最良のケアを実践するために、また母子看護教育の実践に必要なEBP (evidence based practice) の手法を修得する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(12 佐藤珠美／12回) 母性看護、助産学を題材に、EBPの技法を講義・演習を通じて教授する。</p> <p>(43 中野理佳／3回) EBPの臨床での実践と課題について教授する。</p>	<p>オムニバス方式</p>
<p>公衆衛生看護学特論</p>	<p>(概要) 講義形式で行う。地域の動向を理解し、地域における看護活動を実践展開するための理論と方法を習得する。また、これからの地域社会における看護学のあり方についても考える。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(16 有吉浩美／4回) 地域看護学の研究領域・課題、および地域看護学領域における研究手法について教授する。</p> <p>(40 村久保雅孝／4回) コミュニティとカウンセリング、および自殺対策について教授する。</p>	<p>オムニバス方式</p>
<p>在宅看護学特論</p>	<p>(概要) 在宅看護の研究をする上で基盤となる保健医療福祉制度、理論やモデルが広範囲であることを理解するため、在宅看護の基本的な知識や、在宅看護研究で使用されている諸理論の発展状況、各尺度の信頼性と妥当性を教授する。それらを基盤にして、各履修生が研究を行う領域で、なおかつ在宅で調査をしている代表的な先行研究をクリティークし、看護職に求められる在宅看護研究の現状と課題を検討する。</p>	
<p>精神看護学特論</p>	<p>(概要) 現代の複雑化したストレス社会において、あらゆる心の健康状態にある人々を理解し、精神的な健康を支援する看護について教授する。特に、精神障がい者とその家族の生活や意思決定を支え、主体的な健康を志向するケアのあり方について教授する。</p>	
<p>看護統計学演習</p>	<p>(概要) 看護学分野において求められるさまざまな統計学的手法の理論的基礎と応用について理解し、具体的なサンプルデータと統計解析ソフトウェアを用いたコンピュータ実習により、看護学研究に必要な統計解析の基礎的な技術を習得する。この学習を通して、各自の研究計画に対応した適切な分析方法が選択でき、適用できるようになる。データの要約、図示、検定と信頼区間、相関、回帰分析、因子分析について学び、さらにはこれらを用いたデータ解析結果のまとめ方について学ぶ。</p>	

<p>看護形態科学特論</p>	<p>(概要) 質の高い看護を実施するために不可欠な身体の正常な構造と機能について系統別に教授する。それをもとに、とくに組織・細胞レベルによる身体の調節メカニズムについて考察することにより、生体の構造と機能に対する理解を深める。また、顕微鏡標本を観察して臓器の複雑かつ精密な成り立ちを知ることにより、身体に種々の変化をもたらす要因について考察する能力を養う。</p>	
<p>看護教育方法論</p>	<p>(概要) 看護教育の基本的な教育内容および方法やシステムづくりについて学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(5 長家智子/1回) 看護教育カリキュラムの特徴, カリキュラム作成, 教育方法の概要について教授する。</p> <p>(48 村田尚恵/6回) 看護基礎教育, 継続教育における対象・目的・方法, 看護基礎教育での授業展開, 授業案作成について教授する。授業案の作成, 模擬授業の実施, 授業の評価まで一連の過程に参加することで, 教育活動を展開するための基礎的知識・技術の習得を図る。</p> <p>(5 長家智子・48 村田尚恵/1回) (共同) 模擬授業後に授業の設計についての評価を行い, 対象者の能力の向上を目指す教育の在り方について教授する。</p>	<p>オムニバス方式, 共同 (一部)</p>
<p>特別研究 I</p>	<p>(概要) 先進健康科学における各自の研究課題および周辺分野に関する文献等を調査し, 研究遂行に必要となる専門的基礎知識を習得する。特別研究I~IVにおいては, 学期の初めと終わりに面談による履修指導を行い, その内容を主指導教員及び副指導教員がチェックし研究指導実施報告書として提出する。各教員の研究課題は下記の通りである。</p> <p>(13 寺本顕武) 生体や構造体のヘルスマonitoringを効率的に行う新たな手法を提案し, その仕組みを物理学的に明らかにするため, 学生を指導し, 研究を遂行する。</p> <p>(17 上野直広) 応力発光体を用いた生体内における力学情報センシングに対するパターン解析の適用を取り上げ, ダイナミックな負荷解析手法開発の課題の研究指導を行う。</p> <p>(32 村松和弘) 数値解析法を用いて, 生体医工学に関する課題の研究指導を行う。</p> <p>(3 高橋英嗣) 細胞の酸素生物学およびバイオイメーjingの応用, 特にがん細胞転移メカニズム解明について研究指導および論文指導を行う。</p> <p>(33 後藤聡) ヒトの生体情報を利用した機器の開発など, システム制御とその応用に関連した研究課題について, 研究指導および論文指導を行う。</p> <p>(51 泉清高) 機械学習, ソフトコンピューティング手法および制御工学のシステム応用を研究課題とし, その研究指導および論文指導を行う。</p>	

(52 KHAN MD. TAWHIDUL ISLAM)

アコースティックエミッション (AE) という非破壊検査技術を用いた生体及び機械物内損傷の診断評価, 特に変形性膝関節症に関する健康診断方法, 源位置測定応用モニタリングメカニズム開発に関する研究指導及び論文指導を行う。

(65 橋本時忠)

衝撃波や高速噴流を利用した低侵襲的な医療技術の確立を研究課題とし, 流体力学, 気泡力学および粘弾性力学に関する研究指導を行う。

(62 住隆博)

医工学分野における混相流体や粘弾性体を対象とした数値シミュレーションについて研究指導および論文指導を行う。

(56 木本晃)

生体センシング, 及びイメージングシステムの開発に関する研究指導および論文指導を行う。

(41 堂園浩)

自己組織化マップをはじめとするソフトコンピューティングの手法を用いて, バイオインフォマティクス, バイオメトリクス, ネットワークセキュリティ, 教育支援の課題の研究指導を行う。

(55 山岡禎久)

医療現場で欠かせない画像診断法, 特に, 生体光イメージングの研究開発を目的とし, 研究指導および論文指導を行う。

(53 杉剛直)

脳機能の解析・診断支援に関連した研究課題のうち, 特に脳波信号の解析方法開発についての研究指導を行う。

(47 園畑素樹)

運動器疾患に関して, 研究の実践, 指導を行い, 股関節疾患について論文指導を行う。

- (50 長田聡史)
健康機能分子科学の領域である、分子創薬学に関連する課題の研究指導を行う。
- (69 藤澤知績)
健康機能分子科学の領域である、タンパク質分子科学に関連する課題の研究指導を行う。
- (68 梅木辰也)
健康機能分子科学の領域である、生命環境化学に関連する課題の研究指導を行う。
- (30 海野雅司)
健康機能分子科学の領域である、分子分光学に関連する課題の研究指導を行う。
- (19 高椋利幸)
健康機能分子科学の領域である、生体関連分子の分析化学に関連する課題の研究指導を行う。
- (27 鯉川雅之)
健康機能分子科学の領域である、生物錯体化学に関連する課題の研究指導を行う。
- (99 兒玉浩明)
健康機能分子科学の領域である、生命物質化学に関連する課題の研究指導を行う。
- (72 龍田勝輔)
健康機能分子科学の領域である、感覚分子細胞学に関連する課題の研究指導を行う。
- (46 永野幸生)
健康機能分子科学の領域である、ゲノム科学に関連する課題の研究指導を行う。
- (74 川口真一)
健康機能分子科学の領域である、天然資源化学に関連する課題の研究指導を行う。
- (71 辻田忠志)
健康機能分子科学の領域である、生体防御機能分子に関連する課題の研究指導を行う。
- (63 光武進)
健康機能分子科学の領域である、細胞膜脂質の生理機能に関連する課題の研究指導を行う。
- (10 石丸幹二)
健康機能分子科学の領域である、植物代謝解析学に関連する課題の研究指導を行う。
- (57 古藤田信博)
健康機能分子科学の領域である、植物生理学および園芸学に関連する課題の研究指導を行う。
- (70 川添嘉徳)
健康機能分子科学の領域である、ケミカルバイオロジーに関連する課題の研究指導を行う。

- (36 北垣浩志)
健康機能分子科学の領域である，微生物機能科学に関連する課題の研究指導を行う。
- (2 渡邊啓一)
健康機能分子科学の領域である，タンパク質分子科学に関連する課題の研究指導を行う。
- (31 池田義孝)
健康機能分子科学の領域である生体分子機能学に関連する課題の研究指導を行う。
- (26 副島英伸)
ヒトのエピジェネティクス関連疾患のゲノム・エピゲノム解析の手法，およびエピジェネティックな遺伝子発現制御機構について研究指導を行う。
- (7 出原賢治)
健康機能分子科学の領域である，アレルギー学に関連する課題の研究指導を行う。
- (58 布村聡)
健康機能分子科学の領域である，アレルギー学に関連する課題の研究指導を行う。
- (18 吉田裕樹)
異物に対する生体反応や防御機構の解明を研究課題とし，免疫学・分子生物学に関する研究指導を行う。
- (45 北嶋修司)
実験動物分野における基本的な実験手技の習得に加え，先進的な研究手法を用いた動物実験の実施について研究指導を行う。
- (73 松久葉一)
健康機能分子科学の領域である発生工学に関連する課題の研究指導を行う。

(20 倉岡晃夫)

人体構造のバリエーション解析，臨床手技の安全性に係る基礎データ収集など，主に解剖体を用いて，肉眼解剖学・臨床解剖学分野に関連する研究指導を行う。

(28 城戸瑞穂)

組織細胞生物学にかかる研究について理解し，研究の立案，実験計画，実践，考察，文献的考察を学ぶ。特に，近年の顕微鏡技術の進展による画像取得方法と解析方法を指導する。

(60 藤田亜美)

神経系における情報伝達経路の特性について，パッチクランプ法など電気生理学的解析手法を用いた研究指導を行う。

(15 宮本比呂志)

微生物分野における新たな現象の発見，およびその応用による微生物の新たな検出法と感染症の治療法について研究指導を行う。

(37 相島慎一)

悪性腫瘍の病因，正常組織や良性腫瘍との違い，腫瘍微小環境について病理学的な視点から研究を行う

(21 市場正良)

室内環境の健康影響，特に化学物質や温熱環境について研究指導を行う。

(8 田中恵太郎)

生活習慣，遺伝的素因，生体指標などの要因が疾病罹患および予後に及ぼす影響について，疫学的手法を用いた研究指導を行う。

(59 原めぐみ)

疫学研究の方法論に基づき，体質に応じた生活習慣病の予防やワクチンの有効性や安全性に関する研究活動を行い，教員の指導のもとで研究成果をまとめて学会等で発表し，最終的に学位論文にまとめる。

(66 三宅靖延)

感染免疫学分野における新たな治療標的の開発，およびそれに基づく新規治療法の開発について研究指導を行う。

- (64 井原秀之)
 バイオ医薬品の機能化について、分子生物学・タンパク質工学・糖鎖生物学などの手法を用いて研究を行う。教員の指導のもとで研究成果について学会発表を行い、学位論文としてまとめる。
- (44 富永広貴)
 脈波、心電図、脳波などの複雑な生体時系列データに対して、物理学、統計学、情報科学の手法、特に非線形非平衡科学の基礎理論を用いた解析手法を駆使した研究に関して、研究の実践、指導、及び論文指導を行う。
- (22 木村晋也)
 血液悪性腫瘍や固形がんに対する新規薬剤の開発、あるいはより有効な抗がん剤の使用方法の検討に関する研究を行い、修士課程の間に最低1篇の英文原著の発表を目標として指導する。
- (9 入江裕之)
 CT・MRI診断における新たな診断法の新たな手法の開発、およびその有用性について研究指導を行う。
- (6 倉富勇一郎)
 頭頸部癌の浸潤・転移メカニズムに関する研究の実践、指導を行い、癌浸潤・転移に関する論文の指導を行う。
- (54 島津倫太郎)
 咽喉頭逆流症に関して、研究の実践、指導を行い、観察された病理組織結果に基づいた論文指導を行う。
- (14 松尾宗明)
 小児科領域の疾患、保健に関係する課題に関して研究・論文作成指導を行う。
- (11 横山正俊)
 新たな子宮頸がん検診の方法の検討、婦人科悪性腫瘍の発癌メカニズムの解明、および新規治療法の開発に関する研究指導を行う。
- (24 坂口嘉郎)
 手術侵襲に対する生体の反応、およびその調和を図る麻酔の役割について解説する。
- (38 平川奈緒美)
 痛みの発生機序に関する行動生理学的研究、組織学的研究手法の開発、および痛みの治療のための創薬の開発に関する研究指導を行う。
- (39 浅見豊子)
 リハビリテーション医学・医療における新たな手法の開発(リハビリテーションロボットを含む)、およびその臨床応用について研究指導を行う。

特別研究 I

(5 長家智子)

基礎看護学領域に関する自己の研究課題について、研究活動を行い、研究成果を最終的に修士論文としてまとめるための研究指導を行う。

(4 河野史)

看護の実践の根拠を形態機能学的手法により解明するための文献調査を指導し、自己の研究課題について研究活動を行い、研究成果を最終的に修士論文としてまとめるための研究指導を行う。

(25 古賀明美)

臨床看護に関する自己の研究課題について、研究活動を行い、研究成果を最終的に修士論文としてまとめるための研究指導を行う。

(12 佐藤珠美)

生涯を通じた女性の健康課題、母性看護学・助産学の教育課題に関する自己の研究課題について、研究活動を行い、研究成果を最終的に修士論文としてまとめるための研究指導を行う。

(43 中野理佳)

母性看護学・助産学領域に関する自己の研究課題について、研究活動を行い、研究成果を最終的に修士論文としてまとめるための研究指導を行う。

(23 新地浩一)

国際保健看護学に関する自己の研究課題について、研究活動を行い、研究成果を最終的に修士論文としてまとめるための研究指導を行う。

(35 藤野成美)

精神看護学に関する自己の研究課題について、研究活動を行い、研究成果を最終的に修士論文としてまとめるための研究指導を行う。

(40 村久保雅孝)

臨床心理学に関する自己の研究課題について、研究活動を行い、研究成果を最終的に修士論文としてまとめるための研究指導を行う。

(61 福山由美)

在宅看護に関する自己の研究課題について、研究活動を行い、研究成果を最終的に修士論文としてまとめるための研究指導を行う。

(34 鈴木智恵子)

(子どもと家族への支援や遺伝看護)に関する自己の研究課題について、研究活動を行い、研究成果を最終的に修士論文としてまとめるための研究指導を行う。

(48 村田尚恵)

看護教育・看護管理に関する自己の研究課題について、研究活動を行い、研究成果を最終的に修士論文としてまとめるための研究指導を行う。

(67 熊谷有記)

成人のケアに関する自己の研究課題について、研究活動を行い、研究成果を最終的に修士論文としてまとめるための研究指導を行う。

(29 田淵康子)

高齢者および家族の支援に関する自己の研究課題について、研究活動を行い、研究成果を最終的に修士論文としてまとめるための研究指導を行う。

専門科目	特別研究Ⅱ	(概要) 特別研究Ⅰで取得した専門的基礎知識を各自の研究課題に応用し、研究の方法を主指導教員および副指導教員とのディスカッションを通じ確立する。また、その過程で、プレゼンテーション能力を涵養する。	
	特別研究Ⅲ	(概要) 各自の研究課題に関して、主指導教員および副指導教員とのディスカッションの下で学生が自発的・継続的な研究活動を行う。特別研究の中間発表をコースの全教員体制で実施し、研究指導を行う。	
	特別研究Ⅳ	(概要) 各自の研究課題に関して、主指導教員および副指導教員とのディスカッションの下で学生が自発的・継続的な研究活動を行い、学位論文としてまとめる。	

教員の氏名等

(先進健康科学研究科 先進健康科学専攻)												
調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に就任する週当たり平均日数
1	専	教授	利加 エツオ 堀川 悦夫 <平成31年4月>		博士(学術) 博士(医学)		ニューロリハビリテーション特論 生体医工学特別講義I※ 総合ケア科学概論 精神・心理学特論※ リハビリテーション医学特論※	1後 1後 1前 1・2後 1・2前	2 0.1 2 0.2 0.1	1 1 1 1 1	佐賀大学 医学部 教授 (平16.4)	5日
	兼任	講師	利加 エツオ 堀川 悦夫 <平成32年4月>		博士(学術) 博士(医学)		ニューロリハビリテーション特論 生体医工学特別講義I※ 総合ケア科学概論 精神・心理学特論※ リハビリテーション医学特論※	1後 1後 1前 1・2後 1・2前	2 0.1 2 0.2 0.1	1 1 1 1 1		
2	専	教授	ワタベ ケイイチ 渡邊 啓一 <平成31年4月>		農学博士		創成科学融合特論 生命機能科学特論※ 食品分子科学概論※ タンパク質分子科学特論I タンパク質分子科学特論II 健康機能分子科学演習A 健康機能分子科学演習B 健康機能分子科学演習C 健康機能分子科学演習D 健康機能分子科学特別演習A 特別研究I 特別研究II 特別研究III 特別研究IV	1前 1後 1後 1後 1後 1前 1後 2前 2後 1前 1前 1後 2前 2後	0.3 0.1 0.3 1 1 2 2 2 2 2 5 5 10 10	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 農学部 教授 (平14.5)	5日
3	専	教授	タカハシ エイジ 高橋 英嗣 <平成31年4月>		工学博士		生体医工学概論※ 生体機能代行装置学概論※ 生体医工学特別講義I※ 特別研究I 特別研究II 特別研究III 特別研究IV	1前 1後 1後 1前 1後 2前 2後	0.6 0.6 0.1 5 5 10 10	1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 工学系研究科 教授 (平22.2)	5日
4	専	教授	カノ ヒロシ 河野 史 <平成31年4月>		博士(医学)		人体構造機能学概論※ 人体構造実習※ 生体医工学概論※ 生体構造観察法 看護形態科学特論 特別研究I 特別研究II 特別研究III 特別研究IV	1前 1・2通 1前 1・2後 1・2後 1前 1後 2前 2後	0.1 0.4 0.1 1 1 5 5 10 10	1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 医学部 教授 (平19.2)	5日
5	専	教授	ナガエ トモ 長家 智子 <平成31年4月>		修士(教育学)		医学・看護学概論※ 看護理論※ 看護教育論※ 基礎看護学特論 看護教育方法論※ 特別研究I 特別研究II 特別研究III 特別研究IV	1前 1前 1・2後 1・2後 2前 1前 1後 2前 2後	0.4 0.3 0.9 1 0.2 5 5 10 10	1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 医学部 教授 (平25.4)	5日
6	専	教授	クラシ ムツイロウ 倉富 勇一郎 <平成31年4月>		博士(医学)		臨床医学概論※ 病院実習※ 特別研究I 特別研究II 特別研究III 特別研究IV	1前 1・2前 1前 1後 2前 2後	0.1 0.1 5 5 10 10	1 1 1 1 1 1	佐賀大学 医学部 教授 (平26.4)	5日
7	専	教授	イズハラ ケンジ 出原 賢治 <平成31年4月>		博士(医学)		分子生化学特論 分子生命科学特論 健康機能分子科学演習A 健康機能分子科学演習B 健康機能分子科学演習C 健康機能分子科学演習D 健康機能分子科学特別演習C 分子生命科学概論 特別研究I 特別研究II 特別研究III 特別研究IV	1前 1前 1前 1後 2前 2後 1前・後 1前 1前 1後 2前 2後	1 1 2 2 2 2 2 2 5 5 10 10	1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 医学部 教授 (平15.10)	5日
8	専	教授	タカ ケイタロウ 田中 恵太郎 <平成31年4月>		医学博士		社会・予防医学概論※ 環境・衛生・疫学特論※ 特別研究I 特別研究II 特別研究III 特別研究IV	1前 1・2前 1前 1後 2前 2後	0.4 0.5 5 5 10 10	1 1 1 1 1 1	佐賀大学 医学部 教授 (平15.10)	5日
9	専	教授	イリエ ヒロユキ 入江 裕之 <平成31年4月>		博士(医学)		病院実習※ がん看護学特論※ 特別研究I 特別研究II 特別研究III 特別研究IV	1・2前 1・2前 1前 1後 2前 2後	0.1 0.1 5 5 10 10	1 1 1 1 1 1	佐賀大学 医学部 教授 (平24.8)	5日
10	専	教授	イシマル カンジ 石丸 幹二 <平成31年4月>		薬学博士		創成科学融合特論 健康機能分子科学概論※ 植物分子科学特論 植物バイオテクノロジー特論 健康機能分子科学演習A 健康機能分子科学演習B 健康機能分子科学演習C 健康機能分子科学演習D 健康機能分子科学特別演習A 特別研究I 特別研究II 特別研究III 特別研究IV	1前 1前 1前 1前 1前 1後 2前 2後 1前 1前 1後 2前 2後	0.3 0.3 1 1 2 2 2 2 2 5 5 10 10	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 農学部 教授 (平成20年4月)	5日

11	専	教授	ヨヤマ マサシ 横山 正俊 <平成31年4月>	医学博士	臨床医学概論※ 周産期医学特論※ 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ 特別研究Ⅳ	1前 1・2後 1前 1後 2前 2後	0.1 0.5 5 5 10 10	1 1 1 1 1 1	佐賀大学 医学部 教授 (平24.10)	5日
12	専	教授	サトウ タミ 佐藤 珠美 <平成31年4月>	博士 (保健学)	看護研究概論※ 母性看護学特論※ 母性看護学演習※ 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ 特別研究Ⅳ	1・2前 1・2前 1・2通 1前 1後 2前 2後	0.4 0.8 0.8 5 5 10 10	1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 医学部 教授 (平25.4)	5日
13	専	教授	テモト ケンブ 寺本 顕武 <平成31年4月>	工学博士	創成科学融合特論 医工統計学特論 生体医工学特別講義Ⅰ※ 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ 特別研究Ⅳ	1前 1前 1後 1前 1後 2前 2後	0.3 2 0.1 5 5 10 10	1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 工学系研究科 教授 (昭63.4)	5日
14	専	教授	マツオ ムネキ 松尾 宗明 <平成31年4月>	博士 (医学)	臨床医学概論※ 周産期医学特論※ 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ 特別研究Ⅳ	1前 1・2後 1前 1後 2前 2後	0.1 0.5 5 5 10 10	1 1 1 1 1 1	佐賀大学 医学部 教授 (平26.12)	5日
15	専	教授	ミヤモト ヒロシ 宮本 比呂志 <平成31年4月>	博士 (医学)	病因病態学概論※ 微生物学・免疫学特論※ 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ 特別研究Ⅳ	1後 1・2前 1前 1後 2前 2後	0.1 0.1 5 5 10 10	1 1 1 1 1 1	佐賀大学 医学部 教授 (平17.9)	5日
16	専	教授	アライシ ヒロミ 有吉 浩美 <平成31年4月>	博士 (医学)	公衆衛生看護学特論※	1・2後	0.5	1	佐賀大学 医学部 教授 (平21.4)	5日
17	専	教授	ウエノ ナオヒロ 上野 直広 <平成31年4月>	博士 (工学)	創成科学融合特論 医工インターフェース機器特論 生体医工学特別講義Ⅰ※ 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ 特別研究Ⅳ	1前 2後 1後 1前 1後 2前 2後	0.3 2 0.1 5 5 10 10	1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 工学系研究科 教授 (平25.7)	5日
18	専	教授	ヨシダ ヒロキ 吉田 裕樹 <平成31年4月>	医学博士	生体防御学特論 生体機能制御学特論 健康機能分子科学演習A 健康機能分子科学演習B 健康機能分子科学演習C 健康機能分子科学演習D 健康機能分子科学特別演習C 病因病態学概論※ 微生物学・免疫学特論※ 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ 特別研究Ⅳ	1後 1後 1前 1後 1後 2前 2後 1前・後 1後 1・2前 1前 1後 2前 2後	1 1 2 2 2 2 2 0.3 0.4 5 5 10 10	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 医学部 教授 (平15.10)	5日
19	専	教授	タカムラ トシユキ 高椋 利幸 <平成31年4月>	博士 (理学)	創成科学融合特論 健康機能分子科学概論※ 生命分析化学特論Ⅰ 生命分析化学特論Ⅱ 健康機能分子科学演習A 健康機能分子科学演習B 健康機能分子科学演習C 健康機能分子科学演習D 健康機能分子科学特別演習B 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ 特別研究Ⅳ	1前 1前 1前 1前 1前 1後 2前 2後 1後 1前 1後 2前 2後	0.3 0.3 1 1 2 2 2 2 2 5 5 10 10	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 工学系研究科 教授 (平9.11)	5日
20	専	教授	ウラハチ アキオ 倉岡 晃夫 <平成31年4月>	博士 (医学)	創成科学融合特論 医学・看護学概論※ 人体構造機能学概論※ 人体構造実習※ 解剖学特論※ 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ 特別研究Ⅳ	1前 1前 1前 1・2通 1・2後 1前 1後 2前 2後	0.3 0.1 0.1 0.6 0.5 5 5 10 10	1 1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 医学部 教授 (平23.3)	5日
21	専	教授	イチバ マサシ 市場 正良 <平成31年4月>	博士 (医学)	社会・予防医学概論※ 環境・衛生・疫学特論※ 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ 特別研究Ⅳ	1前 1・2前 1前 1後 2前 2後	0.1 0.5 5 5 10 10	1 1 1 1 1 1	佐賀大学 医学部 教授 (平19.10)	5日
22	専	教授	キムラ シンヤ 木村 晋也 <平成31年4月>	博士 (医学)	病院実習※ 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ 特別研究Ⅳ	1・2前 1前 1後 2前 2後	0.1 5 5 10 10	1 1 1 1 1	佐賀大学 医学部 教授 (平21.4)	5日
23	専	教授	シンチ コウイチ 新地 浩一 <平成31年4月>	博士 (医学)	国際看護学概論※ 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ 特別研究Ⅳ	1前 1前 1後 2前 2後	0.9 5 5 10 10	1 1 1 1 1	佐賀大学 医学部 教授 (平17.1)	5日
24	専	教授	サカガチ シンロウ 坂口 嘉郎 <平成31年4月>	博士 (医学)	臨床医学概論※ 病院実習※ 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ 特別研究Ⅳ	1前 1・2前 1前 1後 2前 2後	0.1 0.1 5 5 10 10	1 1 1 1 1 1	佐賀大学 医学部 教授 (平23.1)	5日

25	専	教授	カガ アケミ 古賀 明美 <平成31年4月>		博士 (医学)	看護理論※ 急性看護学特論 慢性看護学特論※ 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ 特別研究Ⅳ	1前 1・2前 1・2前 1前 1後 2前 2後	0.3 1 1.2 5 5 10 10	1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 医学部 教授 (平26.10)	5日
26	専	教授	ソシマ ヒデノブ 副島 英伸 <平成31年4月>		博士 (医学)	生命科学倫理概論※ 分子遺伝学特論 基礎腫瘍学特論 健康機能分子科学演習A 健康機能分子科学演習B 健康機能分子科学演習C 健康機能分子科学演習D 健康機能分子科学特別演習C バイオテクノロジー特論 遺伝子医学特論 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ 特別研究Ⅳ	1後 1前 1前 1前 1後 2前 2後 1前・後 1・2通 1・2後 1前 1後 2前 2後	0.1 1 1 2 2 2 2 2 1 1 5 5 10 10	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 医学部 教授 (平19.3)	5日
27	専	教授	コウリ マサキ 鯉川 雅之 <平成31年4月>		理学博士	創成科学PBL特論 生物分子科学概論※ 生命錯体化学特論Ⅰ 生命錯体化学特論Ⅱ 健康機能分子科学演習A 健康機能分子科学演習B 健康機能分子科学演習C 健康機能分子科学演習D 健康機能分子科学特別演習B 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ 特別研究Ⅳ	1前・後 1後 1後 1後 1前 1後 2前 2後 1後 1前 1後 2前 2後	2 0.3 1 1 2 2 2 2 2 5 5 10 10	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 工学系研究科 教授 (平4.4)	5日
28	専	教授	ホト ミズホ 城戸 瑞穂 <平成31年4月>		博士 (歯学)	人体構造機能学概論※ 人体構造実習※ 解剖学特論※ 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ 特別研究Ⅳ	1前 1・2通 1・2後 1前 1後 2前 2後	0.1 0.4 0.5 5 5 10 10	1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 医学部 教授 (平28.2)	5日
29	専	教授	カフチヤスコ 田淵 康子 <平成31年4月>		博士 (看護学)	看護研究概論※ 老年看護学特論※ がん看護学特論※ 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ 特別研究Ⅳ	1・2前 1・2後 1・2前 1前 1後 2前 2後	0.3 0.8 0.1 5 5 10 10	1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 医学部 教授 (平26.8)	5日
30	専	教授	ウノ マサシ 海野 雅司 <平成31年4月>		博士 (工学)	創成科学PBL特論 生物分子科学概論※ 分光化学特論Ⅰ 分光化学特論Ⅱ 健康機能分子科学演習A 健康機能分子科学演習B 健康機能分子科学演習C 健康機能分子科学演習D 健康機能分子科学特別演習B 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ 特別研究Ⅳ	1前・後 1後 1後 1後 1前 1後 2前 2後 1後 1前 1後 2前 2後	2 0.3 1 1 2 2 2 2 2 5 5 10 10	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 工学系研究科 教授 (平18.4)	5日
31	専	教授	イケダ ヨシタカ 池田 義孝 <平成31年4月>		博士 (医学)	生体分子機能学特論Ⅰ 生体分子機能学特論Ⅱ 健康機能分子科学演習A 健康機能分子科学演習B 健康機能分子科学演習C 健康機能分子科学演習D 健康機能分子科学特別演習C 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ 特別研究Ⅳ	1後 1後 1前 1後 2前 2後 1前・後 1前 1後 2前 2後	1 1 2 2 2 2 2 5 5 10 10	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 医学部 教授 (平16.6)	5日
32	専	教授	ムラマツ カズヒロ 村松 和弘 <平成31年4月>		博士 (工学)	創成科学融合特論 電気電子工学概論※ 医工教値解析特論 生体医工学特別講義Ⅰ※ 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ 特別研究Ⅳ	1前 1後 1前 1後 1前 1後 2前 2後	0.3 0.1 2 0.1 5 5 10 10	1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 工学系研究科 教授 (平13.3)	5日
33	専	教授	ゴトウ サトル 後藤 聡 <平成31年4月>		博士 (工学)	電気電子工学概論※ 医工システム制御特論 生体医工学特別講義Ⅰ※ 生体医工学特別講義Ⅱ 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ 特別研究Ⅳ	1後 1前 1後 1・2前・後 1前 1後 2前 2後	0.1 2 0.1 2 5 5 10 10	1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 工学系研究科 教授 (平2.4)	5日
34	専	教授	スズキ チエコ 鈴木 智恵子 <平成31年4月>		博士 (医学)	看護理論※ 小児看護学特論 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ 特別研究Ⅳ	1前 1・2前 1前 1後 2前 2後	0.2 1 5 5 10 10	1 1 1 1 1 1	佐賀大学 医学部 教授 (平27.7)	5日
35	専	教授	フジノ ナルミ 藤野 成美 <平成31年4月>		博士 (保健学)	看護理論※ 看護倫理※ 看護教育論※ 精神看護学特論 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ 特別研究Ⅳ	1前 1・2後 1・2後 1・2後 1前 1後 2前 2後	0.2 0.4 0.1 1 5 5 10 10	1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 医学部 教授 (平25.4)	5日

36	専	教授	キカキヒロシ 北垣 浩志 <平成31年4月>	博士 (農学)	微生物生理学特論 微生物機能化学特論 健康機能分子科学演習A 健康機能分子科学演習B 健康機能分子科学演習C 健康機能分子科学演習D 健康機能分子科学特別演習A 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ 特別研究Ⅳ	1後 1後 1前 1後 2前 2後 1前 1前 1後 2前 2後	1 1 2 2 2 2 2 5 5 10 10	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 農学部 教授 (平27.4)	5日
37	専	教授	アシマ シンイチ 相島 慎一 <平成31年4月>	博士 (医学)	生命科学倫理概論※ 医学・看護学概論※ 病因病態学概論※ 病理学特論※ 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ 特別研究Ⅳ	1後 1前 1後 1・2後 1前 1後 2前 2後	0.1 0.1 0.1 0.4 5 5 10 10	1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 医学部 教授 (平26.2)	5日
38	専	准教授	ヒラカ ナオミ 平川 奈緒美 <平成31年4月>	博士 (医学)	特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ 特別研究Ⅳ	1前 1後 2前 2後	5 5 10 10	1 1 1 1	佐賀大学 医学部 准教授 (平19.4)	5日
39	専	准教授	アサヒ トヨコ 浅見 豊子 <平成31年4月>	博士 (医学)	生体医工学概論※ 生体機能代行装置学概論※ リハビリテーション医学特論※ 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ 特別研究Ⅳ	1前 1後 1・2前 1前 1後 2前 2後	0.1 0.1 0.9 5 5 10 10	1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 医学部附属病院 准教授 (平16.7)	5日
40	専	准教授	ムラカホ マサカ 村久保 雅孝 <平成31年4月>	修士 (教育学)	創成科学PBL特論 生体機能代行装置学概論※ 精神・心理学特論※ 公衆衛生看護学特論※ 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ 特別研究Ⅳ	1前・後 1後 1・2後 1・2後 1前 1後 2前 2後	2 0.1 0.1 0.5 5 5 10 10	1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 医学部 准教授 (平13.4)	5日
41	専	准教授	ドウツノ ヒロシ 堂園 浩 <平成31年4月>	工学博士	バイオインフォマティクス特論 生体医工学特別講義Ⅰ※ 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ 特別研究Ⅳ	1前 1後 1前 1後 2前 2後	2 0.1 5 5 10 10	1 1 1 1 1 1	佐賀大学 工学系研究科 准教授 (平6.4)	5日
42	専	准教授	ムロヤ カズコ 室屋 和子 <平成31年4月>	修士 (法律学)	看護研究概論※ 看護倫理※ 老年看護学特論※	1・2前 1・2後 1・2後	0.4 0.2 0.4	1 1 1	佐賀大学 医学部 准教授 (平28.4)	5日
43	専	准教授	カノ リカ 中野 理佳 <平成31年4月>	修士 (看護学)	看護管理※ 看護倫理※ コンサルテーション論※ 母性看護学特論※ 母性看護学演習※ 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ 特別研究Ⅳ	1・2後 1・2後 1・2前 1・2前 1・2通 1前 1後 2前 2後	0.4 0.2 0.6 0.2 0.2 5 5 10 10	1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 医学部 准教授 (平28.4)	5日
44	専	准教授	トシカ ヒロカ 富永 広貴 <平成31年4月>	博士 (理学)	創成科学PBL特論 医用情報処理特論 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ 特別研究Ⅳ	1前・後 1・2前 1前 1後 2前 2後	2 1 5 5 10 10	1 1 1 1 1 1	佐賀大学 医学部 准教授 (平19.4)	5日
45	専	准教授	キタシマ シュウジ 北嶋 修司 <平成31年4月>	博士 (獣医学)	実験動物学特論※ 動物発生工学特論※ 健康機能分子科学演習A 健康機能分子科学演習B 健康機能分子科学演習C 健康機能分子科学演習D 健康機能分子科学特別演習C 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ 特別研究Ⅳ	1・2前 1前 1前 1後 2前 2後 1前・後 1前 1後 2前 2後	0.6 0.6 2 2 2 2 2 5 5 10 10	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 総合分析実験セン ター 准教授 (平19.4)	5日
46	専	准教授	カノ ユキオ 永野 幸生 <平成31年4月>	博士 (農学)	生命機能科学特論※(平成32年度) 食品分子科学概論※ ゲノミクス特論 トランスクリプトミクス特論 健康機能分子科学演習A 健康機能分子科学演習B 健康機能分子科学演習C 健康機能分子科学演習D 健康機能分子科学特別演習A 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ 特別研究Ⅳ	1後 1後 1後 1後 1前 1後 2前 2後 1前 1前 1後 2前 2後	0.1 0.3 1 1 1 2 2 2 2 2 5 5 10 10	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 総合分析実験セン ター 准教授 (平19.4)	5日
47	専	准教授	ソノハタ モトキ 園畑 素樹 <平成31年4月>	博士 (医学)	臨床医学概論※ 人体運動学特論 生体医工学特別講義Ⅰ※ 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ 特別研究Ⅳ	1前 1後 1後 1前 1後 2前 2後	0.1 2 0.1 5 5 10 10	1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 医学部 准教授 (平22.6)	5日
48	専	准教授	ムラタ ナオエ 村田 尚恵 <平成31年4月>	修士 (保健医療学)	看護管理※ 看護教育方法論※ 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ 特別研究Ⅳ	1・2後 2前 1前 1後 2前 2後	0.6 0.9 5 5 10 10	1 1 1 1 1 1	佐賀大学 医学部 准教授 (平27.9)	5日

49	専	准教授	コシマ ケンタ 小島 研介 <平成31年4月>	博士 (医学)	臨床腫瘍学概論 臨床腫瘍学 がんゲノム医療実習 小児・希少がん医療講義 ライフステージに応じた医療 臨床腫瘍治療実習Ⅰ 臨床腫瘍治療実習Ⅱ 臨床腫瘍治療実習Ⅲ 臨床腫瘍治療実習Ⅳ 臨床腫瘍治療実習Ⅴ 臨床腫瘍治療実習Ⅵ	1前 1・2前 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通 1・2通	2 1 3 3 3 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 医学部 准教授 (平25.7)	5日
50	専	准教授	オダノ サトシ 長田 聡史 <平成31年4月>	博士 (理学)	健康機能分子科学概論※ 分子創薬学特論Ⅰ 分子創薬学特論Ⅱ 健康機能分子科学演習A 健康機能分子科学演習B 健康機能分子科学演習C 健康機能分子科学演習D 健康機能分子科学特別演習B 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ 特別研究Ⅳ	1前 1前 1前 1前 1後 2前 2後 1後 1前 1後 2前 2後	0.3 1 1 2 2 2 2 2 5 5 10 10	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 工学系研究科 准教授 (平8.4)	5日
51	専	准教授	イズミ キヨカ 泉 清高 <平成31年4月>	博士 (工学)	創成科学PBL特論 バイオロボティクス特論 生体医工学特別講義Ⅰ※ 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ 特別研究Ⅳ	1前・後 1前 1後 1前 1後 2前 2後	2 2 0.1 5 5 10 10	1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 工学系研究科 准教授 (平8.4)	5日
52	専	准教授	カン エムデイ タウヒドゥル イスラム KHAN MD. TAWHIDUL ISLAM <平成31年4月>	博士 (工学)	医工力学特論 生体医工学特別講義Ⅰ※ 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ 特別研究Ⅳ	1前 1後 1前 1後 2前 2後	2 0.1 5 5 10 10	1 1 1 1 1 1	佐賀大学 工学系研究科 准教授 (平19.10)	5日
53	専	准教授	スギ タケオ 杉 剛直 <平成31年4月>	博士 (工学)	創成科学PBL特論 電気電子工学概論※ 脳生体情報工学特論 生体医工学特別講義Ⅰ※ 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ 特別研究Ⅳ	1前・後 1後 1後 1後 1前 1後 2前 2後	2 0.1 2 0.1 5 5 10 10	1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 海洋エネルギー研究セ ンター 准教授 (平7.4)	5日
54	専	准教授	シマツ リンタロウ 島津 倫太郎 <平成31年4月>	博士 (医学)	特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ 特別研究Ⅳ	1前 1後 2前 2後	5 5 10 10	1 1 1 1	佐賀大学 医学部 准教授 (平28.7)	5日
55	専	准教授	ヤマカ ヨシサ 山岡 禎久 <平成31年4月>	博士 (工学) 博士 (医学)	創成科学PBL特論 バイオメディカルフォトニクス特論 生体医工学特別講義Ⅰ※ 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ 特別研究Ⅳ	1前・後 1前 1後 1前 1後 2前 2後	2 2 0.1 5 5 10 10	1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 工学系研究科 准教授 (平27.5)	5日
56	専	准教授	キモト アキラ 木本 晃 <平成31年4月>	博士 (工学)	電気電子工学概論※ 医工計測工学特論 生体医工学特別講義Ⅰ※ 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ 特別研究Ⅳ	1後 1前 1後 1前 1後 2前 2後	0.1 2 0.1 5 5 10 10	1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 工学系研究科 准教授 (平9.4)	5日
57	専	准教授	コトウダ ノブヒロ 古藤田 信博 <平成31年4月>	博士 (農学)	創成科学PBL特論 健康機能分子科学概論※ 植物生理学特論 植物機能分子科学特論 健康機能分子科学演習A 健康機能分子科学演習B 健康機能分子科学演習C 健康機能分子科学演習D 健康機能分子科学特別演習A 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ 特別研究Ⅳ	1前・後 1前 1前 1前 1前 1後 2前 2後 2前 2後 1前 1後 2前 2後	2 0.3 1 1 2 2 2 2 2 2 5 5 10 10	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 農学部 准教授 (平23.7)	5日
58	専	准教授	ヌムラ サトシ 布村 聡 <平成31年4月>	博士 (医学)	健康機能分子科学演習A 健康機能分子科学演習B 健康機能分子科学演習C 健康機能分子科学演習D 健康機能分子科学特別演習C 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ 特別研究Ⅳ	1前 1後 2前 2後 1前・後 1前 1後 2前 2後	2 2 2 2 2 5 5 10 10	1 1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 医学部 准教授 (平29.7)	5日
59	専	准教授	ハラ ヲグミ 原 めぐみ <平成31年4月>	博士 (医学)	創成科学PBL特論 社会・予防医学概論※ 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ 特別研究Ⅳ	1前・後 1前 1前 1後 2前 2後	2 0.1 5 5 10 10	1 1 1 1 1 1	佐賀大学 医学部 准教授 (平28.7)	5日
60	専	准教授	フジタ ツグミ 藤田 亜美 <平成31年4月>	博士 (理学)	人体構造機能学概論※ 生理学特論※ 薬物作用学特論※ 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ 特別研究Ⅳ	1前 1・2前 1・2後 1前 1後 2前 2後	0.3 0.5 0.3 5 5 10 10	1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 医学部 准教授 (平21.6)	5日
61	専	准教授	フクヤマ ムミ 福山 由美 <平成31年4月>	博士 (看護学)	国際看護学概論※ 在宅看護学特論 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ 特別研究Ⅳ	1前 1・2後 1前 1後 2前 2後	0.1 1 5 5 10 10	1 1 1 1 1 1	佐賀大学 医学部 准教授 (平27.9)	5日

62	専	准教授	スミカヒロ 住 隆博 <平成31年4月>		博士 (工学)	医工流体シミュレーション特論 生体医工学特別講義Ⅰ※ 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ 特別研究Ⅳ	2前 1後 1前 1後 2前 2後	2 0.1 5 5 10 10	1 1 1 1 1 1	佐賀大学 工学系研究科 准教授 (平27.3)	5日
63	専	准教授	ミツケ スム 光武 進 <平成31年4月>		博士 (農学)	創成科学PBL特論 生命機能科学特論※(平成32年度) 食品機能学特論 細胞膜機能科学特論 食品分子科学概論※ 健康機能分子科学演習A 健康機能分子科学演習B 健康機能分子科学演習C 健康機能分子科学演習D 健康機能分子科学特別演習A 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ 特別研究Ⅳ	1前・後 1後 1後 1後 1後 1前 1後 2前 2後 1前 1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後	2 0.1 1 1 0.2 2 2 2 2 2 5 5 10 10	1 1 1 1 1 2 2 2 2 2 5 5 10 10	佐賀大学 農学部 准教授 (平成25年9月)	5日
64	専	准教授	イハラ ヒロユキ 井原 秀之 <平成31年4月>		博士 (医学)	特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ 特別研究Ⅳ	1前 1後 2前 2後	5 5 10 10	1 1 1 1	佐賀大学 医学部 准教授 (平27.3)	5日
65	専	准教授	ハシモト トキタ 橋本 時忠 <平成31年4月>		博士 (工学)	創成科学PBL特論 医療機器設計学特論 生体医工学特別講義Ⅰ※ 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ 特別研究Ⅳ	1前・後 2後 1後 1前 1後 2前 2後	2 2 0.1 5 5 10 10	1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 工学系研究科 准教授 (平20.10)	5日
66	専	准教授	ミヤケ ヤスノブ 三宅 靖延 <平成31年4月>		博士 (工学)	病因病態学概論※ 微生物学・免疫学特論※ 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ 特別研究Ⅳ	1後 1・2前 1前 1後 2前 2後	0.1 0.2 5 5 10 10	1 1 1 1 1 1	佐賀大学 医学部 准教授 (平27.2)	5日
67	専	准教授	クマガイ ユキ 熊谷 有記 <平成31年4月>		博士 (保健学)	創成科学融合特論 看護研究概論※ がん看護学特論※ 慢性看護学特論※ 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ 特別研究Ⅳ	1前 1・2前 1・2前 1・2前 1前 1後 2前 2後	0.3 0.5 0.8 0.8 5 5 10 10	1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 医学部 准教授 (平23.4)	5日
68	専	准教授	ウメノ タツヤ 梅木 辰也 <平成31年4月>		博士 (理学)	生命環境化学特論Ⅰ 生命環境化学特論Ⅱ 生物分子科学概論※ 健康機能分子科学演習A 健康機能分子科学演習B 健康機能分子科学演習C 健康機能分子科学演習D 健康機能分子科学特別演習B 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ 特別研究Ⅳ	1後 1後 1後 1前 1後 2前 2後 1後 1前 1後 2前 2後	1 1 0.3 2 2 2 2 2 5 5 10 10	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 工学系研究科 准教授 (平23.4)	5日
69	専	准教授	フジサキ トモミ 藤澤 知績 <平成31年4月>		博士 (理学)	生物分子科学概論※ 反応化学特論Ⅰ 反応化学特論Ⅱ 健康機能分子科学演習A 健康機能分子科学演習B 健康機能分子科学演習C 健康機能分子科学演習D 健康機能分子科学特別演習B 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ 特別研究Ⅳ	1後 1前 1前 1前 1後 2前 2後 1後 1前 1後 2前 2後	0.3 1 1 2 2 2 2 2 5 5 10 10	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 工学系研究科 准教授 (平30.4)	5日
70	専	特任准教授	カワゾエ ヨシノリ 川添 嘉徳 <平成31年4月>		博士 (医学)	生命機能科学特論※(平成32年度) ケミカルバイオロジー特論Ⅰ ケミカルバイオロジー特論Ⅱ 健康機能分子科学演習A 健康機能分子科学演習B 健康機能分子科学演習C 健康機能分子科学演習D 健康機能分子科学特別演習A 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ 特別研究Ⅳ	1後 1後 1後 1前 1後 2前 2後 1前 1前 1後 2前 2後 1前 1前 1後 2前 2後	0.1 1 1 2 2 2 2 2 5 5 10 10	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 農学部 特任准教授 (平29.6)	5日
71	専	講師	ツジタ タツユキ 辻田 忠志 <平成31年4月>		博士 (バイオサイエンス)	生命機能科学特論※(平成32年度) 食品分子科学概論※ 生体防御機能分子特論Ⅰ 生体防御機能分子特論Ⅱ 健康機能分子科学演習A 健康機能分子科学演習B 健康機能分子科学演習C 健康機能分子科学演習D 健康機能分子科学特別演習A 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ 特別研究Ⅳ	1後 1後 1前 1前 1前 1後 2前 2後 1前 1前 1後 2前 2後 1前 1前 1後 2前 2後	0.1 0.2 1 1 2 2 2 2 2 5 5 10 10	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 農学部 講師 (平27.8)	5日
72	専	助教	リュウダ マサカ 龍田 勝輔 <平成31年4月>		博士 (農学)	感覚分子細胞学特論 動物分子ストレス科学特論 健康機能分子科学演習A 健康機能分子科学演習B 健康機能分子科学演習C 健康機能分子科学演習D 健康機能分子科学特別演習A 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ 特別研究Ⅳ	1前 1前 1前 1後 2前 2後 1前 1前 1後 2前 2後	1 1 2 2 2 2 2 5 5 10 10	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 総合分析実験セン ター 助教 (平25.4)	5日

73	専	助教	マツヒサ アキカ 松久 葉一 <平成31年4月>	博士 (獣医学)	実験動物学特論※ 動物発生工学特論※ 健康機能分子科学演習A 健康機能分子科学演習B 健康機能分子科学演習C 健康機能分子科学演習D 健康機能分子科学特別演習C 特別研究I 特別研究II 特別研究III 特別研究IV	1・2前 1前 1前 1後 2前 2後 1前・後 1前 1後 2前 2後	0.4 0.4 2 2 2 2 2 5 5 10 10	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 総合分析実験セン ター 助教 (平27.3)	5日
74	専	特任助教	カワチ シン 川口 真一 <平成31年4月>	博士 (工学)	生命機能科学特論※(平成32年度) 有機分子化学特論I 有機分子化学特論II 健康機能分子科学演習A 健康機能分子科学演習B 健康機能分子科学演習C 健康機能分子科学演習D 健康機能分子科学特別演習A 特別研究I 特別研究II 特別研究III 特別研究IV	1後 1後 1後 1前 1後 2前 2後 1前 1前 1後 2前 2後	0.1 1 1 2 2 2 2 2 5 5 10 10	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 農学部附属アグリ創 生教育研究センター 特任助教 (平28.3)	5日
75	兼担	教授	付カ ツカ 稲岡 司 <平成31年4月>	博士 (保健学)	創成科学融合特論 創成科学PBL特論 農学総合概論※ 国際・地域マネジメント特論※	1前 1前・後 1前 1後	0.3 2 0.2 0.2	1 1 1 1	佐賀大学 農学部 教授 (平14.4)	5日
76	兼担	教授	チョウ ヒロキ 長 裕幸 <平成31年4月>	農学博士	食資源環境科学特論※	1後	0.1	1	佐賀大学 農学部 教授 (昭55.7)	5日
77	兼担	教授	ナリヲ ユカ 成澤 寛 <平成31年4月>	博士 (医学)	臨床医学概論※	1前	0.1	1	佐賀大学 医学部 教授 (平15.10)	5日
	兼任	講師	ナリヲ ユカ 成澤 寛 <平成32年4月>	博士 (医学)	臨床医学概論※	1前	0.1	1		
78	兼担	教授	マツタ カスヨ 松下 一世 <平成31年4月>	修士 (教育学)	ダイバーシティ・人権教育特論※	1後	0.6	1	佐賀大学 教育学部 教授 (平19.4)	5日
79	兼担	教授	トダ シュウジ 戸田 修二 <平成31年4月>	博士 (医学)	病因病態学概論※ 病理学特論※	1後 1・2後	0.1 0.4	1 1	佐賀大学 医学部 教授 (平17.11)	5日
80	兼担	教授	ワカ ヲノリ 渡 孝則 <平成31年4月>	工学博士	創成科学インターンシップS 創成科学インターンシップL 理工学特別講義 知的財産特論 理工学概論※	1・2前・後 1・2前・後 1・2前・後 1後 1前	1 2 2 2 0.1	1 1 1 1 1	佐賀大学 工学系研究科 教授 (昭61.3)	5日
81	兼担	教授	フルカ ツヤ 古川 達也 <平成31年4月>	工学博士	創成科学PBL特論	1前・後	2	1	佐賀大学 工学系研究科 教授 (昭61.4)	5日
82	兼担	教授	イシマ カツ 井嶋 克志 <平成31年4月>	工学博士	理工学概論※	1前	0.1	1	佐賀大学 工学系研究科 教授 (昭60.10)	5日
83	兼担	教授	ハヤカ ヨシ 早川 洋一 <平成31年4月>	理学博士	生物科学特論※	1後	0.2	1	佐賀大学 農学部 教授 (平16.4)	5日
84	兼担	教授	モンジ アキラ 門司 晃 <平成31年4月>	博士 (医学)	臨床医学概論※ 薬物作用学特論※ 精神・心理学特論※	1前 1・2後 1・2後	0.1 0.3 0.3	1 1 1	佐賀大学 医学部 教授 (平24.11)	5日
85	兼担	教授	イカガ シン 市川 尚志 <平成31年4月>	理学博士	創成科学融合特論 創成科学PBL特論 理工学概論※	1前 1前・後 1前	0.4 0.4 0.1	1 1 1	佐賀大学 工学系研究科 教授 (平3.4)	5日
86	兼担	教授	スキヤマ アキラ 杉山 晃 <平成31年4月>	理学博士	創成科学融合特論	1前	0.1	1	佐賀大学 工学系研究科 教授 (平15.4)	5日
87	兼担	教授	オシロ ユウジ 大石 祐司 <平成31年4月>	工学博士	創成科学PBL特論	1前・後	2	1	佐賀大学 工学系研究科 教授 (平6.3)	5日
88	兼担	教授	チヤイ シン 柴 錦春 <平成31年4月>	工学博士	創成科学PBL特論	1前・後	2	1	佐賀大学 工学系研究科 教授 (平8.4)	5日
89	兼担	教授	イガラシ ツム 五十嵐 勉 <平成31年4月>	文学修士	国際・地域マネジメント特論※	1後	0.2	1	佐賀大学 全学教育機構 教授 (昭63.4)	5日
90	兼担	教授	オシマ カズオ 大島 一里 <平成31年4月>	農学博士	生物科学特論※	1後	0.2	1	佐賀大学 農学部 教授 (平4.5)	5日
91	兼担	教授	ヤマタ シュウ 山下 秀一 <平成31年4月>	博士 (医学)	病院実習※	1・2前	0.1	1	佐賀大学 医学部附属病院 教授 (平24.1)	5日
92	兼担	教授	サトウ タツ 佐藤 武 <平成31年4月>	博士 (医学)	精神・心理学特論※	1・2後	0.2	1	佐賀大学 保健管理センター 教授 (平14.4)	5日
93	兼担	教授	カギヤ リュウジ 梶木屋 龍治 <平成31年4月>	博士 (理学)	創成科学融合特論 創成科学PBL特論 数学概論※	1前 1前・後 1後	0.4 0.4 0.1	1 1 1	佐賀大学 工学系研究科 教授 (平20.9)	5日

94	兼担	教授	ツヅムラ タケシ 辻村 健 <平成31年4月>		博士 (工学)	創成科学PBL特論	1前・後	2	1	佐賀大学 工学系研究科 教授 (平22.2)	5日
95	兼担	教授	タケキ シンイチ 只木 進一 <平成31年4月>		理学博士	情報セキュリティ特論※	1前	0.3	1	佐賀大学 工学系研究科 教授 (平2.4)	5日
96	兼担	教授	ハモト タケシ 花本 猛士 <平成31年4月>		理学博士	創成科学PBL特論	1前・後	2	1	佐賀大学 工学系研究科 教授 (平9.7)	5日
97	兼担	教授	チヤン ボー 張 (江越) 波 <平成31年4月>		工学博士	創成科学融合特論	1前	0.5	1	佐賀大学 工学系研究科 教授 (平9.4)	5日
98	兼担	教授	スエカ エイヂョウ 末岡 榮三郎 <平成31年4月>		博士 (医学)	生体医工学概論※	1前	0.1	1	佐賀大学 医学部 教授 (平25.8)	5日
99	兼担	教授	コガマ ヒロアキ 兒玉 浩明 <平成31年4月>		理学博士	生命物質化学特論 I 生命物質化学特論 II 健康機能分子科学演習A 健康機能分子科学演習B 健康機能分子科学演習C 健康機能分子科学演習D 健康機能分子科学特別演習B 特別研究 I 特別研究 II 特別研究 III 特別研究 IV	1後 1後 1前 1前 1後 2前 2後 1後 1前 1後 2前 2後	1 1 2 2 2 2 2 5 5 10 10	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 理事・副学長 (昭和63.4)	5日
100	兼担	教授	ノグチ シヅル 野口 満 <平成31年4月>		博士 (医学)	臨床医学概論※	1前	0.1	1	佐賀大学 医学部 教授 (平27.11)	5日
101	兼担	教授	ノシロ ヒロカズ 能城 浩和 <平成31年4月>		博士 (医学)	医学・看護学概論※ 臨床医学概論※ 病院実習※	1前 1前 1・2前	0.1 0.1 0.1	1 1 1	佐賀大学 医学部 教授 (平22.5)	5日
102	兼担	教授	ノノ コウイチ 野出 孝一 <平成31年4月>		博士 (医学)	医学・看護学概論※ 臨床医学概論※ 薬物作用学特論※	1前 1前 1・2後	0.1 0.1 0.4	1 1 1	佐賀大学 医学部 教授 (平15.10)	5日
103	兼担	教授	フナカボ コウイチ 船久保 公一 <平成31年4月>		理学博士	理工学概論※ 物理学概論	1前 1後	0.1 1	1 1	佐賀大学 工学系研究科 教授 (平元.10)	5日
104	兼担	教授	ミヤア アキオ 宮良 明男 <平成31年4月>		工学博士	創成科学融合特論	1前	0.1	1	佐賀大学 工学系研究科 教授 (平元.4)	5日
105	兼担	教授	ハトリ ノブタカ 服部 信祐 <平成31年4月>		博士 (工学)	創成科学融合特論 理工学概論※	1前 1前	0.4 0.1	1 1	佐賀大学 工学系研究科 教授 (昭61.4)	5日
106	兼担	教授	マウオ シゲル 松尾 繁 <平成31年4月>		工学博士	創成科学融合特論	1前	0.1	1	佐賀大学 工学系研究科 教授 (平6.4)	5日
107	兼担	教授	オオイシ トシユキ 大石 敏之 <平成31年4月>		博士 (工学)	電気電子工学概論※	1後	0.1	1	佐賀大学 工学系研究科 教授 (平26.3)	5日
108	兼担	教授	ニシダ タカヒロ 西田 誉浩 <平成31年4月>		博士 (医学)	生体機能代行装置学概論※	1後	0.1	1	佐賀大学 医学部 教授 (平29.9)	5日
109	兼担	教授	ハナダ エイスケ 花田 英輔 <平成31年4月>		博士 (工学)	創成科学PBL特論	1前・後	2	1	佐賀大学 工学系研究科 教授 (平26.10)	5日
110	兼担	教授	ハキハラ セイヂ 萩原 世也 <平成31年4月>		工学博士	創成科学融合特論	1前	0.3	1	佐賀大学 工学系研究科 教授 (平9.4)	5日
111	兼担	教授	トヨダ イチヒコ 豊田 一彦 <平成31年4月>		博士 (工学)	創成科学融合特論 電気電子工学概論※	1前 1後	0.4 0.1	1 1	佐賀大学 工学系研究科 教授 (平23.4)	5日
112	兼担	教授	ハンダ ケンジ 半田 賢司 <平成31年4月>		理学博士	創成科学融合特論 創成科学PBL特論 数学概論※	1前 1前・後 1後	0.4 0.4 0.1	1 1 1	佐賀大学 工学系研究科 教授 (平3.6)	5日
113	兼担	教授	テイ キョクコウ 鄭 旭光 <平成31年4月>		工学博士	創成科学PBL特論	1前・後	2	1	佐賀大学 工学系研究科 教授 (平7.4)	5日
114	兼担	教授	ハマ ヨウイチロウ 濱 洋一郎 <平成31年4月>		農学博士	創成科学融合特論 創成科学PBL特論 農学総合概論※ 生命機能科学特論※	1前 1前・後 1前 1後	0.4 2 0.3 0.1	1 1 1 1	佐賀大学 農学部 教授 (平4.5)	5日
115	兼担	教授	アベ タツヤ 阿部 竜也 <平成31年4月>		博士 (医学)	臨床医学概論※	1前	0.1	1	佐賀大学 医学部 教授 (平26.12)	5日
116	兼担	教授	オカムラ ヒロシ 奥村 浩 <平成31年4月>		工学博士	創成科学PBL特論	1前・後	2	1	佐賀大学 工学系研究科 教授 (平12.3)	5日
117	兼担	教授	タケノ 洋一 竹下 道範 <平成31年4月>		博士 (工学)	創成科学PBL特論 材料化学特論※	1前・後 1後	2 0.5	1 1	佐賀大学 工学系研究科 教授 (平11.12)	5日

118	兼担	教授	ミツカ ヨウイチ 光武 雄一 <平成31年4月>	博士 (工学)		創成科学融合特論	1前	0.1	1	佐賀大学 海洋エネルギー研究セ ンター 教授 (平26.4)	5日
119	兼担	教授	シマ ノブオ 三島 伸雄 <平成31年4月>	博士 (工学)		創成科学PBL特論	1前・後	2	1	佐賀大学 工学系研究科 教授 (平7.11)	5日
120	兼担	教授	ヤマシ ヒロユキ 山西 博幸 <平成31年4月>	博士 (工学)		創成科学PBL特論	1前・後	2	1	佐賀大学 低平地沿岸海域研 究センター 教授 (平30.4)	5日
121	兼担	教授	コバヤシ ゲンタ 小林 元太 <平成31年4月>	博士 (農学)		生命機能科学特論※	1後	0.3	1	佐賀大学 農学部 教授 (平17.5)	5日
122	兼担	教授	スキカ タカシ 杉岡 隆 <平成31年4月>	博士 (医学)		地域医療科学特論	1・2前	1	1	佐賀大学 医学部 寄附講座教授 (平22.4)	5日
123	兼担	教授	ナカガワ ヤスヒロ 中川 泰宏 <平成31年4月>	博士 (理学)		創成科学融合特論 創成科学PBL特論 数学概論※	1前 1前・後 1後	0.4 0.4 0.1	1 1 1	佐賀大学 工学系研究科 教授 (平24.10)	5日
124	兼担	教授	カサキ ヤスヒサ 岡崎 泰久 <平成31年4月>	博士 (工学)		創成科学PBL特論 理工学概論※ 知能情報工学概論	1前・後 1前 1後	2 0.1 1	1 1 1	佐賀大学 工学系研究科 教授 (平2.6)	5日
125	兼担	教授	イツキ シロウ 一色 司郎 <平成31年4月>	博士 (農学)		創成科学融合特論 創成科学PBL特論 農学総合概論※	1前 1前・後 1前	0.4 2 0.3	1 1 1	佐賀大学 農学部 教授 (平5.4)	5日
126	兼担	教授	コトウ フミシ 近藤 文義 <平成31年4月>	博士 (農学)		食資源環境科学特論※	1後	0.1	1	佐賀大学 農学部 教授 (平17.11)	5日
127	兼担	教授	オオツ ヤスリ 大津 康徳 <平成31年4月>	博士 (工学)		創成科学融合特論	1前	0.4	1	佐賀大学 工学系研究科 教授 (平3.4)	5日
128	兼担	教授	コジマ ショウイチ 小島 昌一 <平成31年4月>	博士 (工学)		創成科学PBL特論	1前・後	2	1	佐賀大学 工学系研究科 教授 (平19.4)	5日
129	兼担	教授	ススキ アキヒロ 鈴木 章弘 <平成31年4月>	博士 (理学)		生物科学特論※	1後	0.3	1	佐賀大学 農学部 教授 (平17.4)	5日
130	兼担	教授	アナイト トヨキ 穴井 豊昭 <平成31年4月>	博士 (理学)		生物科学特論※	1後	0.3	1	佐賀大学 農学部 教授 (平9.4)	5日
131	兼担	教授	コトウ マサトシ 後藤 正利 <平成31年4月>	博士 (農学)		生命機能科学特論※	1後	0.1	1	佐賀大学 農学部 教授 (平28.4)	5日
132	兼担	教授	ヤマシタ ヨシオ 山下 佳雄 <平成31年4月>	博士 (医学)		臨床医学概論※ 病院実習※	1前 1・2前	0.1 0.1	1 1	佐賀大学 医学部 教授 (平28.12)	5日
133	兼担	教授	エナイダ ヒロシ 江内田 寛 <平成31年4月>	博士 (医学)		臨床医学概論※ 病院実習※	1前 1・2前	0.1 0.1	1 1	佐賀大学 医学部 教授 (平26.1)	5日
134	兼担	教授	オオト ケイスケ 大渡 啓介 <平成31年4月>	博士 (工学)		創成科学PBL特論 材料化学特論※	1前・後 1後	2 0.5	1 1	佐賀大学 工学系研究科 教授 (平4.4)	5日
135	兼担	教授	キノエ ヨウイチ 木上 洋一 <平成31年4月>	博士 (工学)		創成科学融合特論	1前	0.1	1	佐賀大学 海洋エネルギー研究セ ンター 教授 (平29.10)	5日
136	兼担	教授	カモト ヨウイチロウ 阪本 雄一郎 <平成31年4月>	博士 (医学)		病院実習※	1・2前	0.1	1	佐賀大学 医学部 教授 (平22.8)	5日
137	兼担	教授	ホリ ヨシキ 堀 良彰 <平成31年4月>	博士 (情報工 学)		情報セキュリティ特論※	1前	0.3	1	佐賀大学 全学教育機構 教授 (平13.4)	5日
138	兼担	教授	ミナモト テルヤ 皆本 晃弥 <平成31年4月>	博士 (数理 学)		データサイエンス特論	1後	1	1	佐賀大学 工学系研究科 教授 (平12.4)	5日
139	兼担	教授	タカミ ヒロ 田中 宗浩 <平成31年4月>	博士 (農学)		創成科学融合特論 創成科学PBL特論 農学総合概論※	1前 1前・後 1前	0.3 2 0.2	1 1 1	佐賀大学 農学部 教授 (平9.4)	5日
140	兼担	教授	フクダ オサム 福田 修 <平成31年4月>	博士 (工学)		創成科学PBL特論	1前・後	2	1	佐賀大学 工学系研究科 教授 (平26.10)	5日
141	兼担	教授	タカミ ヒロ 田中 徹 <平成31年4月>	博士 (工学)		理工学概論※ 電気電子工学概論※	1前 1後	0.1 0.1	1 1	佐賀大学 工学系研究科 教授 (平12.4)	5日
142	兼担	教授	ソウ ノブアキ 宗 伸明 <平成31年4月>	博士 (工学)		生命機能科学特論※	1後	0.1	1	佐賀大学 農学部 教授 (平23.4)	5日

143	兼担	教授	カワグチ アツシ 川口 淳 <平成31年4月>		博士 (数理学)	医用統計学特論 看護統計学演習	1・2前 1・2前	1 1	1 1	佐賀大学 医学部 教授 (平28.1)	5日
144	兼担	准教授	キタ アキコ 久木田 明子 <平成31年4月>		修士 (農学)	病因病態学概論※	1後	0.1	1	佐賀大学 医学部 准教授 (平19.4)	5日
145	兼担	准教授	ムラタ ムツヲ 村田 祐造 <平成31年4月>		博士 (医学)	人体構造機能学概論※ 人体構造実習※ 解剖学特論※	1前 1・2通 1・2後	0.1 0.4 0.5	1 1 1	佐賀大学 医学部 准教授 (平19.12)	5日
146	兼担	准教授	ウエダ トシサ 上田 敏久 <平成31年4月>		理学博士	生命機能科学特論※	1後	0.3	1	佐賀大学 農学部 准教授 (平1.3)	5日
147	兼担	准教授	オノキ イタ 尾崎 岩太 <平成31年4月>		博士 (医学)	医学・看護学概論※	1前	0.1	1	佐賀大学 保健管理センター 准教授 (平16.3)	5日
148	兼担	准教授	コヤマ ヒロシ 小山 宏義 <平成31年4月>		博士 (医学)	社会・予防医学概論※ 法医学特論	1前 1・2前	0.2 1	1 1	佐賀大学 医学部 准教授 (平20.11)	5日
149	兼担	准教授	サキ シンイチ 佐々木 伸一 <平成31年4月>		博士 (工学)	創成科学PBL特論 電気電子工学概論※	1前・後 1後	2 0.1	1 1	佐賀大学 工学系研究科 准教授 (平13.4)	5日
150	兼担	准教授	エラ マサオ 江良 正直 <平成31年4月>		博士 (工学)	創成科学融合特論	1前	0.4	1	佐賀大学 工学系研究科 准教授 (平10.4)	5日
151	兼担	准教授	ハラ シゲホ 原 重臣 <平成31年4月>		博士 (工学)	創成科学PBL特論	1前・後	2	1	佐賀大学 工学系研究科 准教授 (平7.4)	5日
152	兼担	准教授	タカ カズキ 田中 高行 <平成31年4月>		博士 (工学)	創成科学PBL特論	1前・後	2	1	佐賀大学 工学系研究科 准教授 (昭63.4)	5日
153	兼担	准教授	ニシヤマ エイサク 西山 英輔 <平成31年4月>		博士 (工学)	創成科学PBL特論	1前・後	2	1	佐賀大学 工学系研究科 准教授 (平元.4)	5日
154	兼担	准教授	ヒビノ コウジ 日比野 雄嗣 <平成31年4月>		理学博士	創成科学融合特論 創成科学PBL特論 数学概論※	1前 1前・後 1後	0.4 0.4 0.1	1 1 1	佐賀大学 工学系研究科 准教授 (平5.4)	5日
155	兼担	准教授	シオミ リマサ 塩見 憲正 <平成31年4月>		博士 (工学)	創成科学PBL特論 機械工学概論※	1前・後 1後	2 0.3	1 1	佐賀大学 工学系研究科 准教授 (平8.4)	5日
156	兼担	准教授	マワタリ トシフミ 馬渡 俊文 <平成31年4月>		博士 (工学)	創成科学PBL特論	1前・後	2	1	佐賀大学 工学系研究科 准教授 (平2.4)	5日
157	兼担	准教授	ツジ カズナリ 辻 一成 <平成31年4月>		博士 (農学)	国際・地域マネジメント特論※	1後	0.2	1	佐賀大学 農学部 准教授 (平15.1)	5日
158	兼担	准教授	フジムラ ヨシ 藤村 美穂 <平成31年4月>		博士 (社会学)	国際・地域マネジメント特論※	1後	0.2	1	佐賀大学 農学部 准教授 (平9.10)	5日
159	兼担	准教授	タカノ コロウ 高野 吾朗 <平成31年4月>		Ph. D (米国)	アカデミックリーディング	1・2後	1	1	佐賀大学 医学部 准教授 (平19.4)	5日
160	兼担	准教授	コガマ ヒロキ 兒玉 宏樹 <平成31年4月>		博士 (理学)	創成科学PBL特論	1前・後	2	1	佐賀大学 総合分析実験セン ター 准教授 (平18.11)	5日
161	兼担	准教授	イマイ ヤスカ 今井 康貴 <平成31年4月>		博士 (工学)	創成科学PBL特論	1前・後	2	1	佐賀大学 海洋エネルギー研究セ ンター 准教授 (平21.4)	5日
162	兼担	准教授	アキ シゲヒサ 青木 茂久 <平成31年4月>		博士 (医学)	病理学特論※	1・2後	0.2	1	佐賀大学 医学部 准教授 (平24.3)	5日
163	兼担	准教授	タナハタ モトイ 橋 基 <平成31年4月>		博士 (理学)	創成科学PBL特論	1前・後	2	1	佐賀大学 工学系研究科 准教授 (平17.4)	5日
164	兼担	准教授	マキ マコト 真木 一 <平成31年4月>		博士 (理学)	創成科学融合特論	1前	0.1	1	佐賀大学 工学系研究科 准教授 (平14.8)	5日
165	兼担	准教授	リ カイホウ 李 海峰 <平成31年4月>		博士 (工学)	都市工学通論※	1後	0.3	1	佐賀大学 工学系研究科 准教授 (平21.4)	5日
166	兼担	准教授	カネオ ユカリ 中尾 友香梨 <平成31年4月>		博士(比 較社会文 化)	多文化共生理解	1前	1	1	佐賀大学 全学教育機構 准教授 (平20.10)	5日
167	兼担	准教授	ヒイダ ヲシヒロ 日永田 泰啓 <平成31年4月>		博士 (理学)	創成科学PBL特論	1前・後	2	1	佐賀大学 総合情報基盤セン ター 准教授 (平13.4)	5日

168	兼担	准教授	ヤク ミツリ 矢田 光徳 <平成31年4月>		博士 (工学)		創成科学PBL特論	1前・後	2	1	佐賀大学 工学系研究科 准教授 (平12.12)	5日
169	兼担	准教授	ゴトウ リウタロウ 後藤 隆太郎 <平成31年4月>		博士 (工学)		創成科学融合特論	1前	0.5	1	佐賀大学 工学系研究科 准教授 (平8.4)	5日
170	兼担	准教授	ハネイ ヒロシ 羽石 寛志 <平成31年4月>		博士 (工学)		キャリアデザイン特論	1後	1	1	佐賀大学 経済学部 准教授 (平15.4)	5日
171	兼担	准教授	イシタ 助伊 石渡 洋一 <平成31年4月>		博士 (工学)		創成科学融合特論	1前	0.1	1	佐賀大学 工学系研究科 准教授 (平17.4)	5日
172	兼担	准教授	オカワ ヒデオ 押川 英夫 <平成31年4月>		博士 (工学)		創成科学融合特論	1前	0.7	1	佐賀大学 工学系研究科 准教授 (平27.6)	5日
173	兼担	准教授	ハラグチ トモカズ 原口 智和 <平成31年4月>		博士 (農学)		食資源環境科学特論※	1後	0.1	1	佐賀大学 農学部 准教授 (平17.8)	5日
174	兼担	准教授	シノグチ ヨシト 溝口 義人 <平成31年4月>		博士 (医学)		精神・心理学特論※	1・2後	0.1	1	佐賀大学 医学部 准教授 (平29.6)	5日
175	兼担	准教授	オシマ フミホ 大島 史洋 <平成31年4月>		博士 (工学)		創成科学PBL特論	1前・後	2	1	佐賀大学 工学系研究科 准教授 (平9.4)	5日
176	兼担	准教授	コリヤマ マスミ 郡山 益実 <平成31年4月>		博士 (農学)		食資源環境科学特論※	1後	0.1	1	佐賀大学 全学教育機構 准教授 (平14.2)	5日
177	兼担	准教授	タカハシ トモ 高橋 智 <平成31年4月>		博士 (理学)		創成科学融合特論	1前	0.1	1	佐賀大学 工学系研究科 准教授 (平18.4)	5日
178	兼担	准教授	ナリタ カコキ 成田 貴行 <平成31年4月>		博士 (工学)		創成科学融合特論	1前	0.4	1	佐賀大学 工学系研究科 准教授 (平18.4)	5日
179	兼担	准教授	モリタ シゲキ 森田 繁樹 <平成31年4月>		博士 (工学)		創成科学PBL特論	1前・後	2	1	佐賀大学 工学系研究科 准教授 (平17.1)	5日
180	兼担	准教授	イトウ ヒデアキ 伊藤 秀昭 <平成31年4月>		博士 (工学)		創成科学PBL特論	1前・後	2	1	佐賀大学 工学系研究科 准教授 (平21.11)	5日
181	兼担	准教授	オオタニ マコト 大谷 誠 <平成31年4月>		博士 (工学)		情報セキュリティ特論※	1前	0.3	1	佐賀大学 総合情報基盤セン ター 准教授 (平16.12)	5日
182	兼担	准教授	カキタ ヒデアキ 川喜田 英孝 <平成31年4月>		博士 (工学)		創成科学融合特論	1前	0.4	1	佐賀大学 工学系研究科 准教授 (平17.4)	5日
183	兼担	准教授	ハセカワ ヒロユキ 長谷川 裕之 <平成31年4月>		博士 (工学)		機械工学概論※	1後	0.3	1	佐賀大学 工学系研究科 准教授 (平22.4)	5日
184	兼担	准教授	ユカ コスエ 弓削 こずえ <平成31年4月>		博士 (農学)		食資源環境科学特論※	1後	0.1	1	佐賀大学 農学部 准教授 (平25.10)	5日
185	兼担	准教授	ミヤモト ヒデアキ 宮本 英揮 <平成31年4月>		博士 (農学)		食資源環境科学特論※	1後	0.1	1	佐賀大学 農学部 准教授 (平22.5)	5日
186	兼担	准教授	ウエノ ダイスケ 上野 大介 <平成31年4月>		博士 (農学)		食資源環境科学特論※	1後	0.1	1	佐賀大学 農学部 准教授 (平17.10)	5日
187	兼担	准教授	サカモト マコ 坂本 麻衣子 <平成31年4月>		Ph. D (米国)		生命科学倫理概論※ 看護倫理※	1後 1・2後	0.8 0.2	1 1	佐賀大学 医学部 准教授 (平27.7)	5日
188	兼担	准教授	アナン ミツマサ 阿南 光政 <平成31年4月>		博士 (農学)		食資源環境科学特論※	1後	0.1	1	佐賀大学 農学部 准教授 (平28.4)	5日
189	兼担	准教授	ナカイ シンスケ 中井 信介 <平成31年4月>		博士 (学術)		国際・地域マネジメント特論※	1後	0.2	1	佐賀大学 農学部 准教授 (平27.8)	5日
190	兼担	准教授	モリサダ シンタロウ 森貞 真太郎 <平成31年4月>		博士 (工学)		理工学概論※	1前	0.1	1	佐賀大学 工学系研究科 准教授 (平24.2)	5日
191	兼担	准教授	マツヤマ ナルモン MATSUYAMA NARUMOL <平成31年4月>		博士 (工学)		都市工学通論※	1後	0.3	1	佐賀大学 工学系研究科 准教授 (平25.11)	5日
192	兼担	准教授	ヒロモ マサリ 廣友 雅徳 <平成31年4月>		博士 (工学)		情報セキュリティ特論※	1前	0.3	1	佐賀大学 工学系研究科 准教授 (平25.4)	5日
193	兼担	准教授	タダノ ヨシイ 只野 裕一 <平成31年4月>		博士 (工学)		創成科学PBL特論	1前・後	2	1	佐賀大学 工学系研究科 准教授 (平20.4)	5日

194	兼担	准教授	イノヘ タロウ 猪八重 拓郎 <平成31年4月>		博士 (工学)	都市工学通論※	1後	0.3	1	佐賀大学 工学系研究科 准教授 (平27.1)	5日
195	兼担	准教授	カミテ ケンタロウ 中村 健太郎 <平成31年4月>		博士 (数理学)	創成科学融合特論 創成科学PBL特論 数学概論※	1前 1前・後 1後	0.4 0.4 0.1	1 1 1	佐賀大学 工学系研究科 准教授 (平28.1)	5日
196	兼担	准教授	タケミ シンヤ 武富 紳也 <平成31年4月>		博士 (工学)	機械工学概論※	1後	0.3	1	佐賀大学 工学系研究科 准教授 (平23.4)	5日
197	兼担	准教授	カキコホウ カズキ 中大窪 千晶 <平成31年4月>		博士 (工学)	創成科学PBL特論	1前・後	2	1	佐賀大学 工学系研究科 准教授 (平22.10)	5日
198	兼担	准教授	カカ タクウ 岡田 拓三 <平成31年4月>		博士 (理学)	創成科学融合特論 創成科学PBL特論 数学概論※	1前 1前・後 1後	0.4 0.4 0.1	1 1 1	佐賀大学 工学系研究科 准教授 (平24.4)	5日
199	兼担	准教授	カキ ケイ 仮屋 圭史 <平成31年4月>		博士 (工学)	創成科学PBL特論	1前・後	2	1	佐賀大学 工学系研究科 准教授 (平26.4)	5日
200	兼担	准教授	ヤマウチ イヒロ 山内 一宏 <平成31年4月>		博士 (理学)	創成科学PBL特論	1前・後	2	1	佐賀大学 工学系研究科 准教授 (平30.4)	5日
201	兼担	准教授	ミヤハラ マミコ 宮原 真美子 <平成31年4月>		博士 (工学)	都市工学通論※	1後	0.3	1	佐賀大学 工学系研究科 准教授 (平29.10)	5日
202	兼担	准教授	キムラ タカ 木村 拓馬 <平成31年4月>		博士 (理学)	創成科学融合特論	1前	0.3	1	佐賀大学 工学系研究科 准教授 (平27.4)	5日
203	兼担	准教授	オオノマ タカヨシ 大島 孝仁 <平成31年4月>		博士 (工学)	創成科学融合特論	1前	0.4	1	佐賀大学 工学系研究科 准教授 (平30.4)	5日
204	兼担	講師	イシダ ケンゾウ 石田 賢治 <平成31年4月>		博士 (工学)	創成科学PBL特論 機械工学概論※	1前・後 1後	2 0.3	1 1	佐賀大学 工学系研究科 講師 (平10.4)	5日
205	兼担	講師	オオツキ ミカ 大月 美佳 <平成31年4月>		博士 (工学)	創成科学融合特論	1前	0.8	1	佐賀大学 工学系研究科 講師 (平13.4)	5日
206	兼担	講師	ペトラス ルー Petrus Roux <平成31年4月>		M. S. in Human Resource Manageme nt M. A. in Teaching English as a Foreign/ Second Language	学術英語特論	1前・後	2	2	佐賀大学 全学教育機構 講師 (平27.4)	5日
207	兼担	講師	ネギミ タクヒト 根上 武仁 <平成31年4月>		博士 (工学)	研究・職業倫理特論 創成科学PBL特論	1前 1前・後	2 2	2 1	佐賀大学 工学系研究科 講師 (平12.4)	5日
208	兼担	講師	マシロ エキヒロ 猿子 幸弘 <平成31年4月>		博士 (数理学)	創成科学融合特論 創成科学PBL特論 数学概論※	1前 1前・後 1後	0.4 0.4 0.1	1 1 1	佐賀大学 工学系研究科 講師 (平11.9)	5日
209	兼担	講師	キクチ ヤスヒロ 菊池 泰弘 <平成31年4月>		博士 (理学)	人体構造実習※	1・2通	0.6	1	佐賀大学 医学部 講師 (平24.3)	5日
210	兼担	講師	マツモト アキコ 松本 明子 <平成31年4月>		博士 (医学)	社会・予防医学概論※	1前	0.1	1	佐賀大学 医学部 講師 (平23.12)	5日
211	兼担	講師	カトリ カサヨシ 加藤 孝盛 <平成31年4月>		博士 (数理学)	創成科学融合特論 創成科学PBL特論 数学概論※	1前 1前・後 1後	0.4 0.4 0.1	1 1 1	佐賀大学 工学系研究科 講師 (平26.6)	5日
212	兼担	助教	シロヤ タカオ 塩谷 孝夫 <平成31年4月>		博士 (医学)	人体構造機能学概論※ 生理学特論※	1前 1・2前	0.3 0.5	1 1	佐賀大学 医学部 助教 (平19.4)	5日
213	兼担	助教	ショウブ イク タカオ 菖蒲池 健夫 <平成31年4月>		博士 (薬学)	微生物学・免疫学特論※	1・2前	0.1	1	佐賀大学 医学部 助教 (平19.4)	5日
214	兼担	助教	カキコホウ ヨシノリ 川久保 善智 <平成31年4月>		博士 (障害科学)	人体構造実習※	1・2通	0.6	1	佐賀大学 医学部 助教 (平16.4)	5日
215	兼担	助教	ニシダ ユウイチロウ 西田 裕一郎 <平成31年4月>		博士 (医学)	社会・予防医学概論※	1前	0.1	1	佐賀大学 医学部 助教 (平20.9)	5日
216	兼担	助教	ミタラ フミカ 三田村 文香 <平成31年4月>		博士 (薬学)	微生物学・免疫学特論※	1・2前	0.2	1	佐賀大学 医学部 助教 (平22.2)	5日
217	兼担	特任 助教	アライ カル 荒木 薫 <平成31年4月>		博士 (医学)	ダイバーシティ・人権教育特論※	1後	0.5	1	佐賀大学 男女共同参画推進 室 特任助教 (平25.4)	5日

218	兼任	講師	マツダキ コロウ 松崎 吾朗 <平成31年4月>		博士 (医学)		病因病態学概論※	1後	0.1	1	琉球大学 熱帯生物圏研究セン ター 教授
219	兼任	講師	イマル リミ 市丸 徳美 <平成31年4月>		看護専門 学校卒		老年看護学特論※	1・2後	0.2	1	特定医療法人祐愛 会 ケアコートゆうあ い 看護師長
220	兼任	講師	ハラ ヒロミツ 原 博満 <平成31年4月>		博士 (医学)		病因病態学概論※	1後	0.1	1	鹿児島大学大学院 歯学総合研究科 教授
221	兼任	講師	タカ マユコ 田中 まゆこ <平成31年4月>		修士 (看護学)		コンサルテーション論※	1・2前	0.2	1	佐賀大学 医学部附属病院 副看護師長
222	兼任	講師	マサカ ミコ 正岡 美奈子 <平成31年4月>		大卒		看護研究概論※	1・2前	0.2	1	佐賀大学 学術研究協力部 係長
223	兼任	講師	ナガフチ ミ 永渕 美樹 <平成31年4月>		修士 (看護学)		コンサルテーション論※	1・2前	0.2	1	佐賀大学 医学部附属病院 看護師
224	兼任	講師	ヒキタ ケイスケ 疋田 恵介 <平成31年4月>		大卒		看護研究概論※	1・2前	0.2	1	佐賀大学 学術研究協力部 司書

国立大学法人佐賀大学 設置認可等に関わる組織の移行表

平成30年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	平成31年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
佐賀大学				佐賀大学				
教育学部				教育学部				
学校教育課程	120		480	学校教育課程	120		480	
芸術地域デザイン学部				芸術地域デザイン学部				
芸術地域デザイン学科	110	3年次 5	450	芸術地域デザイン学科	110	3年次 5	450	
経済学部				経済学部				
経済学科	110	—	440	経済学科	110	—	440	
経営学科	80	—	320	経営学科	80	—	320	
経済法学科	70	—	280	経済法学科	70	—	280	
医学部				医学部				
医学科	106	—	604	医学科	106	—	604	
看護学科	60	—	240	看護学科	60	—	240	
理工学部				理工学部				
数理科学科	30	—	120		0	—	0	平成31年4月学生募集停止
物理科学科	40	—	160		0	—	0	平成31年4月学生募集停止
知能情報システム学科	60	—	240		0	—	0	平成31年4月学生募集停止
機能物質化学科	90	—	360		0	—	0	平成31年4月学生募集停止
機械システム工学科	90	—	360		0	—	0	平成31年4月学生募集停止
電気電子工学科	90	—	360		0	—	0	平成31年4月学生募集停止
都市工学科	90	—	360		0	—	0	平成31年4月学生募集停止
(3年次編入学)	—	3年次 20	40		—	3年次 0	0	平成33年4月学生募集停止
				理工学科	480	15	1,950	学部の設置(事前伺い)
農学部				農学部				
応用生物科学科	45	—	180		0	—	0	平成31年4月学生募集停止
生物環境科学科	60	—	240		0	—	0	平成31年4月学生募集停止
生命機能科学科	40	—	160		0	—	0	平成31年4月学生募集停止
(3年次編入学)	—	3年次 10	20		—	3年次 0	0	平成33年4月学生募集停止
				生物資源科学科	145	—	580	学部の設置(事前伺い)
計	1,291	35	5,414	計	1,281	20	5,344	
佐賀大学大学院				佐賀大学大学院				
学校教育学研究科				学校教育学研究科				
教育実践探究専攻(P)	20	—	40	教育実践探究専攻(P)	20	—	40	
地域デザイン研究科				地域デザイン研究科				
地域デザイン専攻(M)	20	—	40	地域デザイン専攻(M)	20	—	40	
医学系研究科				医学系研究科				
医科学専攻(M)	15	—	30		0	—	0	平成31年4月学生募集停止
医科学専攻(D)	25	—	100	医科学専攻(D)	25	—	100	
看護学専攻(M)	16	—	32		0	—	0	平成31年4月学生募集停止

平成30年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員		平成31年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
工学系研究科				→	工学系研究科				
数理科学専攻(M)	9	—	18			0	—	0	平成31年4月学生募集停止
物理科学専攻(M)	15	—	30			0	—	0	平成31年4月学生募集停止
知能情報システム学専攻(M)	16	—	32			0	—	0	平成31年4月学生募集停止
循環物質化学専攻(M)	27	—	54			0	—	0	平成31年4月学生募集停止
機械システム工学専攻(M)	27	—	54			0	—	0	平成31年4月学生募集停止
電気電子工学専攻(M)	27	—	54			0	—	0	平成31年4月学生募集停止
都市工学専攻(M)	27	—	54			0	—	0	平成31年4月学生募集停止
先端融合工学専攻(M)	36	—	72			0	—	0	平成31年4月学生募集停止
システム創成科学専攻(D)	24	—	72		システム創成科学専攻(D)	24	—	72	
					理工学研究科				研究科の設置(事前伺い)
					理工学専攻(M)	167	—	334	
農学研究科				→	農学研究科				
生物資源科学専攻(M)	40	—	80			0	—	0	平成31年4月学生募集停止
					生物資源科学専攻(M)	32	—	64	研究科の設置(事前伺い)
					先進健康科学研究科				研究科の設置(事前伺い)
					先進健康科学専攻(M)	52	—	104	
計	344	—	762		計	340	—	754	